東北電力

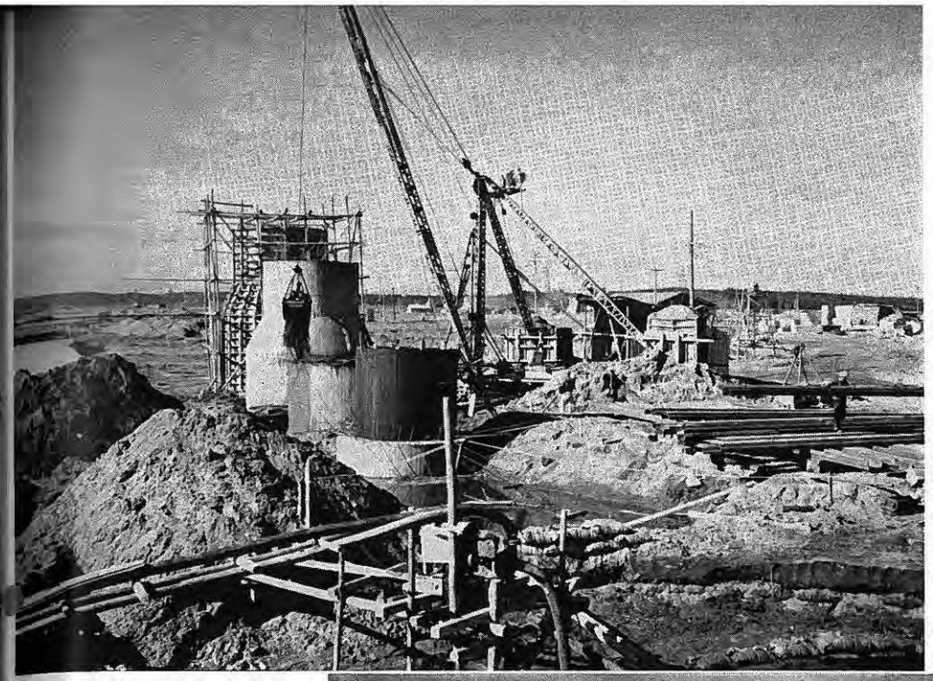


東北電力株式会社社誌　No.32

建設譜

—八戸火力発電所—





←
重量物揚場井筒沈下工事

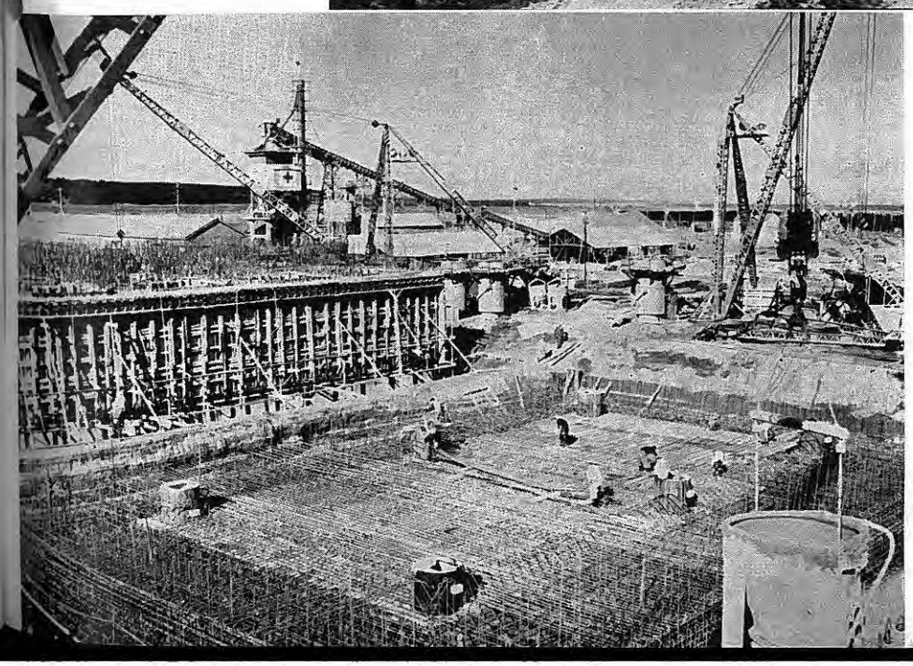


→
左手の足場はサービスビル地階型枠設置
(ケーソン (No. 3) コンクリート打設終了)



↑
岸壁井筒沈下工事

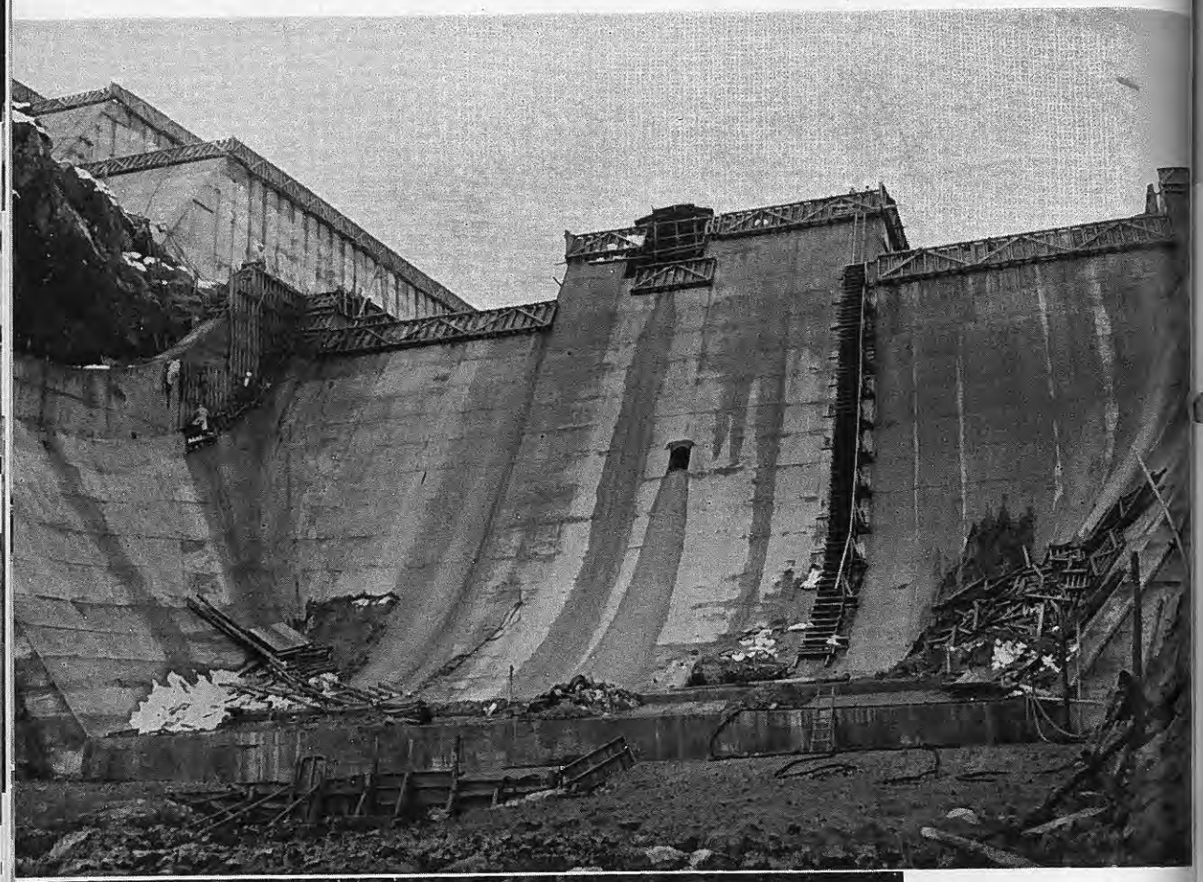
←
対岸，日東化学ガスタンクよりの構内全景



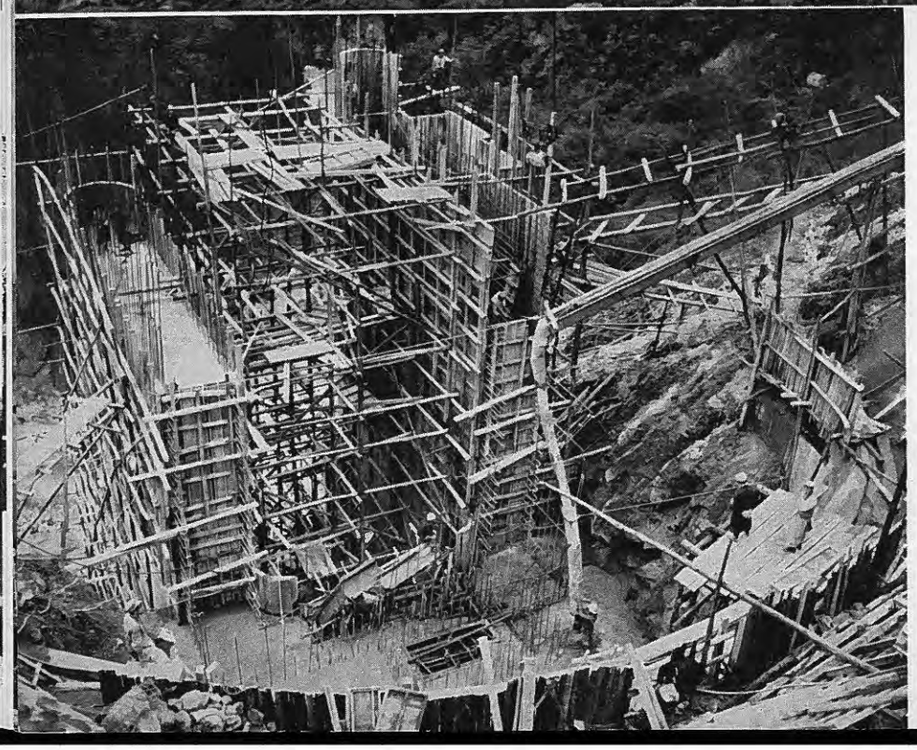
←
第 4 号潜函刃口鉄筋組立中
(向うは第 3 号潜函側壁コンクリート打設終了)

快調の進捗

八久和（第２期），新鳴子 兩地点



↑
八久和第２期堰堤打設



←
新鳴子取水口工事

東北電力



目　次　第３２号

アメリカ視察帰国報告 ……村田社長室長…(2)

工業家と技術家のための経済学（Ⅲ）
……東北大学教授　抜山平一…(12)

除塵機設備の効果について……伊藤　栄喜…(16)

原子力への案内（その２）……八島　俊章…(19)

法律のしおり・電気関係法規概説
……仙台通商産業局 中野施設課長…(26)

営業所だより（盛岡・郡山）……(33)

支店だより（岩手・新潟・福島）……(42)

東京通信・浅草界隈 ……

本店ニュース　永年勤続

【随　筆】

船と頭巾と靴 ……

ありんこ酒のはなし

L戦争と平和Jについ

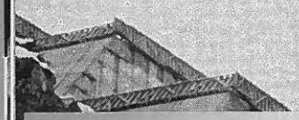
短歌（扇畑忠雄選）……

俳句（遠藤梧逸選）……

写真（阿部秀陽選）

妥協の進捗

八久和（第２期），新鳴子 兩地点



各店所別扶養家族数調

（31/9月分）　　（労務課）

区分＼店所名		本店	青森	岩手	秋田	宮城	山形	福島	新潟	東京	会津	計
社員数（除特管）		人 618	人 1,361	人 1,506	人 1,495	人 1,705	人 1,390	人 2,265	人 3,027	人 47	人 623	人 14,037
家族手当区分	円 1,100	〃 370	〃 1,108	〃 1,133	〃 1,140	〃 1,315	〃 992	〃 1,774	〃 2,284	〃 31	〃 520	〃 10,667
	〃 700	〃 968	〃 3,035	〃 3,006	〃 3,052	〃 3,599	〃 2,635	〃 4,668	〃 6,248	〃 70	〃 1,346	〃 28,627
	〃 400	〃 35	〃 74	〃 108	〃 88	〃 128	〃 97	〃 99	〃 220	〃 0	〃 44	〃 893
	計	〃 1,373	〃 4,217	〃 4,247	〃 4,280	〃 5,042	〃 3,724	〃 6,541	〃 8,752	〃 101	〃 1,910	〃 40,187
有扶養家族者数		〃 447	〃 1,176	〃 1,256	〃 1,258	〃 1,451	〃 1,135	〃 1,931	〃 2,555	〃 36	〃 550	〃 11,795
社員1人当り平均支給額		円 1,781	円 2,481	円 2,250	円 2,292	円 2,358	円 2,135	円 2,322	円 2,299	円 1,753	円 2,465	円 2,288



← 新鳴子取水口工事

東北電力





★　　★　　★

しなにか，アメリカでの見聞について話を…」という事ですが，私，出かけます時に「とにかく行つて来ます。皆さんの御期待にそむかないように……」と御あいさつを申しあげて出発したものの，実は案に相違して，甚だ御期待にそむいたような事になりはしないかと心配しておる次第であります。

まず最初に私のアメリカを見ての感想というようなものを申しあげて見たいと思います。一口で言えば，アメリカの国土，国民性，衣食住，諸産業のあり方など大体既に聞いたり読んだりしていたことと変りはない。特に成程これは，と驚いたというような事は，実は余りなかつた訳であります。この事は，私共の今回の旅行は日本生産性本部の派遣で，米国内ではＩＣＡ―国務省―の招待という形になつており，この旅行の最後に，一行13名が国務省で「アメリカを見てどう感じたか」という事を尋ねられた。その際にも私は，今皆さんに申しあげた通り，大体日本で見聞していたことと余り変りなく，そう驚くほどのこともなかつたということを申した訳であります。寧ろ内地では想像も出来なかつたような，たとえば自動車の数にしても，現



実にアメリカ国土の広さというものに接して見ますと，却つて当然のことで何の不思議も不合理も感じない。又例えば構築物の大きさ，乗物の速さというようなことも，矢張りあの国土の広さという背景で考えると不自然を感じないというのが偽らざる感想であります。又例えばアメリカの国民性として知られている積極性とか，徹底した合理主義とかいうことでも，あの広大な国土の開拓に取り組んだアメリカの歴史を考えれば寧ろ当然のことと思われるのでありまして，特にこれはというような事はなかつたのであります。

ところで今回の旅行で私共一番問題にしていつたのは，日本に来ておる文献その他によつては，なかなか真相がつかみ難いようなもので，是非この点はトコトンまで聞いて来たという事，例えばマネージメント―会社の運営乃至経営の在り方―の問題というような事であつたのですが，そういうものは実はなかなか真髄を摑み難かつた。これは実は甚だおかしな話ですが，日本で余り良く判つていない事は，結局私共が行つて見ても良く判らなかつた（笑）という事になるのでありまして，逆に言えば，それだからこそ日本にも充分紹介されていない，という事になるのではないかと思うのであります。従つて今後事務技術的な問題に関して海外を視察するというような時には，問題の焦点をしぼつて，それだけでも良いというような積りで出掛けないと，余り得るところがないのではないか，というような感じが致した訳であります。

もう一つは，向うが日本の事情を殆んど知らないということであります。外人の書いた日本に対する批判などで成程と思わせるものがあるのは，書いた外人が非常によく日本を知つているということの外に，読む側が日本人だからであつて，これを一般の外人が読んでも恐らくはわからないことの方が多いに相違なく，そういう本がいろいろ出されているからといつて，先方に日本に関する常識があるものと速断するのは誤りで，大多数のアメリカ人は矢張り日本のことについては余りよく知つていないというのが実情の様でございます。従つて向うで話してくれる事でも，日本では既に常識になつている程度のことが屢々あつて，向うはそれを知らずに懸命に説明して呉れる。御親切は有難いが，そのために無駄な時間を費したことも多かつた様でございます。

では大体そんな感想であつたという事をまず申しあげておきまして，これから旅行のあらましについてお話し致したいと思いますが，私共の旅行は先程申しあげましたように，日本生産性本部が派遣する電力事業視察団，正式の名称はジヤパン・パワープラント・オペレーションスタデイ・チーム，発電所の運営という文字が使われておりまして，一寸紛はしいのですが，実は，いわゆる技術を専門に担当しておる人は１人も入つておりません。９電力会社から１人づつ，外に北陸，中国，四国，関西の各電労から１人づつ入つて，13人で１チームを編成して電気事業を見に行くというだけの事でありまして，特に発電所や変電所の運営状況を見たいというような希望は致しておりません，寧ろさつきも一寸申しあげましたが，会社の運営の仕方というか，マネージメントという事に重点を置いた訳であります。というのは，アメリカの繁栄は多分に生産性の向上に由来するところが多いであろう，そして生産性の向上については純技術的の点もさること乍ら事務の面，経営の面等に由来するところもあるに違いない。一つその点をよく見ようというのが主目的で，技術上の問題については今回は一応触れずにゆこう。そして寧ろ例えば労使の関係とか，事務の運び方の問題とか，会社の機構とか，権限の問題とか，というような事に重点を置こう。従つて例

えば事務の中にどのように機械が駆使されておるかという事，機械そのものの動き方よりも一連の事務のやり方の中でどういう部分に機械が入つてくるのか，というような点をみたい。こういう事でありましたが，先程も申し述べましたように不幸にして言葉の不自由という点などもあつて，なかなか真髄に触れ得なかつた。これが技術的なものでありますと，即物的に，つまり目で見れば判るという点があるのでありますが，抽象的な論議になりますと，とかく言葉そのものの曖昧さから本当のところはなかなかつかめないというような事もございまして，うまくいかなかつた訳であります。

尚生産性本部は日本，サンフランシスコ間の往復の旅費を持ち，アメリカ国内の旅行は，アメリカ国務省の招へいという事になつておりまして，その期間は6週間，大体1人千ドルが我々を招へいした国務省の予算というように聞いております。

この旅行中アメリカ各地の訪問先ではさすがICAのお声がかりで，予め連絡がついておりましたから，資料などの準備は勿論のこと，当日の日程などもかなりこまごまと準備して我々の来るのを待ちうけておつてくれた。この点は任意の視察者と異りICA主催の視察旅行として非常に有利の点で大変有難かつた訳であります。

尚その資料でありますが，これは何処でもかなり豊富に呉れた。ただ，これはICAが一括して日本へ送つてくれるという事になつており，目下輸送の途中でまだ着いておりません。こういう資料でも手許にありますれば，多少は変つたお話しも出来るかと思いますが，本日は，蒼惶の間にノートをとつた，そんなものを頼りに申しあげるのでありまして，折角多数の皆さんのお集りを戴いて，貴重な時間を割いて戴いたのに対して申訳ない次第であります。

それから我々のチームとしての意見をまとめなければならない。これもその資料が届いてからメンバーが集つて，団としての意見を出す。その際は日本の生産性本部へ出さなければならないという事になつておりまして，それまでは公式の所では余り勝手な意見を述べないように，仮に必要やむなく述べる場合にも慎重にやつて貰いたいという事になつておるのであります。

大体そんな前提で，一応サンフランシスコに上陸致しましてからのコースを申しあげながら，その間の見聞を申しあげてみたいと思います。8月9日に羽田を発ちまして，翌々日，途中日附変更線がありますので日附では8月10日になりますが，サンフランシスコに着き，ここでICAのプロジエクト・マネジヤーのマホニイという米人，それから日本人の非常に優秀な通訳2名の3人が我々を迎えて呉れました。ここで，今後の行動その他の打合せをした訳であります。それから2日ばかりはアメリカの風土に慣れさせる為というか，おそらくICAのリストにのつている人ぢやないかと思いますが，サンフランシスコにおる親日米人といわれる民間の人が 3，4 名程，土曜か日曜，休みの日に我々を迎えに来てくれ，2，3 班に分れてサンフランシスコ市内を見物させる，というような事をしてくれたのであります。田舎者がはじめてアメリカの土を踏む訳でありますから，そういう事でもして，少しアメリカの空気になじませよう，こういう趣旨だろうと思います。そんな事を1日，2日やりまして，いよいよその翌日，月曜日から仕事にかかつた訳であります。

サンフランシスコには，御承知のように，パシフイツク・ガス・アンド・エレクトリツクという有名な電力会社があります。こことサンフランシスコのいわば経営者協会とでもいうべきサンフランシスコ・インプロイヤス・カウンセ

ルという所を訪問しました。別にインターナショナル・ブラザフツド・オブ・エレクトリカル・ワーカーズ，略してIBEWと言つておりますが，これはもとのAFL系の電気関係労働組合の合同体になつておりますが，そこのヴアイスプレジデント，副委員長としてサンフランシスコ地区の責任者になつている人の話をききました。尚サンフランシスコでは，パシフイツク・ガス・アンド・エレクトリツク社のピツバーグという火力発電所とコントラコスタという火力発電所の2ケ所を見学致しました。ともに天然ガス若しくは石油を使つている発電所で，出力は一方は66万キロ，一方は57万5千キロ，この会社として最大，最新鋭とこうことであります。

サンフランシスコを終えて，翌日すぐロスアンゼルスに出まして，ここでは，御承知のサザンカリフオルニヤ・エヂソン・カンパニーを訪問，ここでも海岸にあるエルセグンドーという火力発電所を見学致しました。ここもやはりオイルを使つている火力発電所でありますが，極く附近にスタンダード石油会社の精油所がありまして，その精油の残滓を直接パイプで引いてきて燃料に使用致しております。サザンカルフオルニア・エヂソンのタンクとスタンダードオイルのものとが無数に並んでおり，なかなか美事な風景で，持てる国アメリカの感を深く致した様な次第であります。

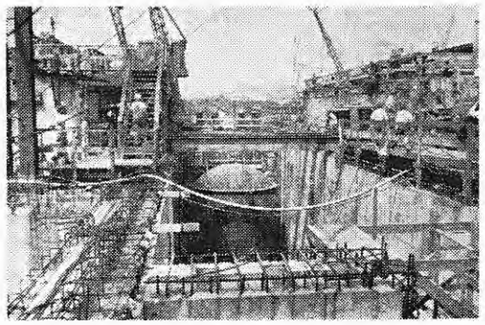
ロスアンゼルスに1泊して翌日はラスベガスに参りました。このラスベガスは御承知のようにネバダ州にありまして，アメリカの唯一の賭博公認の場所で，そこから約5～60哩の所にボルダーシテイがあり，そこのボルダーダム――今ではフーバーダムと言われておりますが――このフーバーダムを見る為にラスベガスに行つたのであります。このラスベガスは余程有名なところと見えて，その後旅行中に「ラスベガスに行つた」という話をすると，大抵妙な顔をするし，中には，あれはバツド・シテイだと言つた人もありまして，我々はフーバーダムの所在地という事でラスベガスを知つているのでありますが，向うでは寧ろ賭博の場所という事で有名である様に見受けました。（笑） そこでフーバーダムを見た訳でありますが，これは 220 メーター位の高さと思いますが，両側からセリ出した峡谷の中にあるので，成程高いという感じを受けました。大体アメリカで非常に大きなものを見せられても，余り大きく感じないというのが我々の偽わらざる感想であります。というのは，アメリカ国土全体が広いという事から来るのだろうと思います。例えばスピードの問題に致しましても，乗つておつても余りスピードを感じないというのは，やはり国土の広さという事から来るんぢやないかと思います。周りの地物との相対関係においては，バランスがとれているのであまり感じないが，実際これを日本の狭い国土にもつて来て考えれば，高さなり，大きさなり，速さなり，というものが成程高い，大きい，速いという風に感じられてくるのではないかと思います。

ラスベガスから今度は大陸を横断して，真直ぐにシカゴに出た。シカゴへは我々の希望によつて，汽車で参りました。ラスベガスを夜12時頃発ち，車中に2泊して翌々日の正午近くシカゴにつきました。ここではコンモン・ウエル・エヂソンという電力会社を訪問しただけで再び夜行でデトロイトに参りました。ここではデトロイト・エヂソンという電力会社と，もとCIO系のユチリチイ・ワーカーズ・ユニオンの地方支部を訪問致しました。尚デトロイト市の近郊デヤボンにあるデトロイト・エヂソンのリバールージユ火力と，同じくこのデヤボンにあるフ

オードの工場を見学致しました。

たまたまフオードの工場はこの日は休みだという事でありまして，バスで工場の構内を一巡しただけでしたが成程広いものだと感じました。年産28万台，1分1台は誇大な話ではないということを如実に感じた次第であります。偶々当日は操業をやつていなかつたので，その生産状況をまのあたり見る事が出来なかつたのは遺憾でありましたが，矢張り大きいという事を感じたのは数千トンことによつたら1万トン近くあるだろうと思われる船が，工場のすぐ傍についておりましたが，それがやはりさつき申しあげましたように，そう特段に大きいように見えない。この船は鉄鉱石を運んで来る船で，その傍に熔鉱炉があつて，そこで鉄を作つている。このように大きな製鉄所が工場の構内にあるが，余り大きいとも見えない程，周囲が又広いという事にもなる訳であります。

デトロイトからピツツバークに参りまして，その郊外シツピングポートにある原子力発電所の建設現場を見た訳であります。これは後でスライドをお目にかけますが，ここで午前中の1,2時間の間，現場の大きな講堂でジユケン電力会社の人や，ウエスチングハウスの人の一応の話を聞いた上で現場を見学致しました。ここで聞いた話の大要をかいつまんで申し上げますと，先ずこのシツピングポートの原子力発電所



シツピングポート原子力発電所の建設現場

は，アメリカの原子力委員会とジユケン・ライト・コムパニーとウエスチングハウスとの三者が協同してその建設に当つているということであります。1953年に原子力委員会がプレツシユライズト・ウオーター・レアクターによる原子力発電所を作ることを決定し，一は政府側の投資額を少くすること，二は設計及び運営に当つて，原子炉の設計側と発電所の設計側とを協力させることを目的として民間に共同参加を呼びかけ，この呼びかけに応えてその選に入つたのが，ジユケン会社であるということであります。ジユケンという会社はペンシルヴアニア州にあつてピツバーグ市附近約50万平方哩に亘つて供給権を有するかなり大きい会社で，その総供給力は5つの火力発電所で115万KWであると称しておりました。この会社の提出した条件が政府の容れるところとなつて，この原子力発電所建設の協力者となつたということでありますが，その状況は，1．資金は政府の責任である，2．ジユケン会社はうち5百万ドルを負担する，3．ジユケン会社は通常の発電所建設即ちタービンその他の機器の部分に責任をもつ，4．ジユケン会社は発生電力1キロワツト時に相当するスチームを8ミルで政府から買いうける，5．従つて発生電力は全部ジユケン会社のものとなる，6．設備の所有は一部政府，一部ジユケン会社のものとなる，7．発電所の運営はジユケン会社の責任とする，というようなことであります。

建設費の総額はあまりハツキリしたことを申しておりませんでしたが，5千万ドル位であろうということを現場案内の際に言つた人も居ります。出力は6万キロでありますが，その採算はどうか，という質問に対しては終始，この発電所は実際の営業の用に供することはその通りであるが，実験的，教育的，技術研究的なもの

であつて採算そのものは考慮外のことである。その予測をしたこともないという一点張りで，ついに実状を捉えることが出来ませんでした。

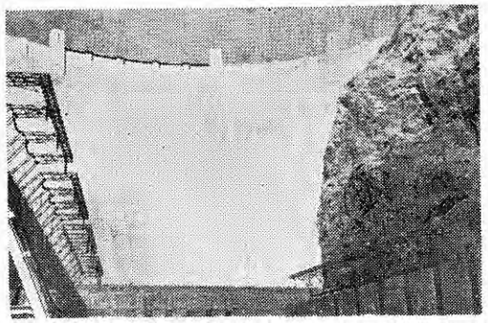
私どもが参りました時は建設工事の最盛期らしく，原子核を納める鉄製の容器の据付け状況なども見ることが出来ました。大体来年春，おそくも夏頃迄に竣功の予定であるということでありまして，運転に入つた後の機構や人員配置の案などについてもかなり詳しい説明をしておりました。原子炉技術要員が常置されることは当然のことですが，その他にも例えばテストグループであるとか，工業衛生班とでもいうべきものを常置して，放射能による人体，着衣，器具等に対する影響を実験・管理する機構を考えているなど，確に採算を考慮の外において，専ら実験を主にしている発電所であるという先方の説明をうなづかせるものがあつた様に思います。又例えば人員の選択などについても社内の若い弾力性のあるものを選んでウエスチングハウスで訓練を受けさせ，その数が50名位にもなつているということも申しておりました。大体この程度即ち6万キロ前後の普通の火力設備では人員は6，70人位ですむと思つているが，この原子力発電所では120～130人位にすると考えている，というようなことも申しておりました。

レアクターは厚さ9呎，高さ32呎で，濃縮ウランと天然ウランを併用し，これを長さ97呎，直径80呎のコンテーナーに納め，地下に埋設するという説明を致しておりました。灰の処理はここでは直接やらない。ある期間水中に保存し，冷却させ，放射能が減少した後，密閉容器に入れて，アイダホ州にある原子力実験所に汽車輸送をするのだということであります。又このシツピングポートが発電所の位置として選定されたことについては，普通の火力発電所の立地条件以上に特に考慮を加えたことはない。ここはピツツバーグから25哩離れているが，もつと遠くにすべきだという考もあつたが，将来は逆にもつと町の方に近くなるだろうという様なことも申しておりました。

さてピツツバーグではこのシツピングポートの原子力発電所の外に，ウエスチングハウスの原動機関係の工場を見学致しましたが特に申しあげる程の事もございません。

ピツツバークからすぐバツフアーローに飛びまして，ここでナイヤガラの発電所を見た訳であります。バツフアーローにはナイヤガラ・モホーク・パワー・コーポレーションという電力会社の支社がありますが，この会社は東北電力によく似た会社で，電灯と電力の比率で言えば，電力のウエイトが非常に高い。殊に大口が多い会社で——これもデーターが全然ございませんので，数字等については余りはつきり申しあげられないのでありますが——アメリカとしては比較的水力の多い日本の東北によく似た会社であります。この会社は例のナイヤガラの川筋に発電所を持つておりまして，そのうちの一つエドワード・デイン・アダムスという発電所は世界最古の交流発電所でありまして，これを見学した訳であります。又，これはカナダに渡つてその対岸から眺めただけでありましたが，本年6月かに崖崩れで崩壊したシヨエルコツフというこれもナイヤガラの川筋にある水力発電所の残骸を見たわけであります。この外この会社のハントレイ火力発電所，出力80万キロで内25サイクルのものが3台ほど稼働しているのを見て参りました。

私どもは，アメリカ国内だけのパスポートでしたが，ナイヤガラ・モホーク会社の斡旋で特別にカナダへ渡り，カナダ側からもナイヤガラの滝を見物することが出来，且つカナダのオン



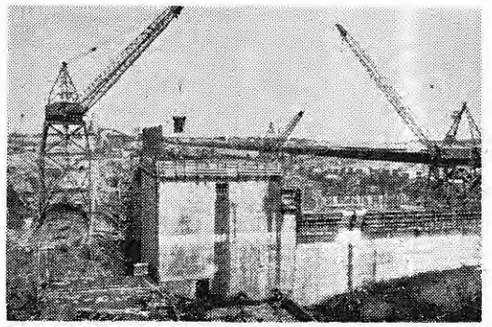
フーバーダムを下流側正面より望む

タリオ州州営の発電所を見学することが出来ました。これはサー・アダムベツクという発電所でございまして，ナイヤガラの滝の落差を利用した。滝の上流から取り入れて，滝の大分下流に落している。約100万キロの出力という事でございます。向うの発電所の設備というのはなかなかリクリエーシヨン的に出来ておりまして，初めから人が来てみるという事を予期し，その為の施設をもしておつて，金をとつて見せるというように出来ておる。これはここだけではなしに，先程申しあげたフーバーダム等も同じような設備になつており，案内人がつき，また，見物人に見せる場所等も決まつており，拡声機等も備え付け，それから配電盤室等も廊下の外から眺められるように総ガラス張りになつておるというように，総てが商業採算主義の上にたつてPRを心懸けております。尚ここでこの様にカナダに於てはナイヤガラの水量と落差を充分に活して開発した大規模な，北米最大といわれる様な発電所があるのに関連して，アメリカ側に於ては，ナイヤガラの開発は，国営か民営かの論議の対象になつていて，未だにそのめどが立たず，我々は非常に困つているとナイヤガラモホーク会社の人が話していたことを附け加えて申し上げておきます。

ナイヤガラの次に我々が見学したのは，セントローレンス川の開発工事の現場でございます。バツファローの東北約250哩位のところにあるマツセイナー，ここはカナダとの境になつておりますが，ここにセントローレンス川の開発計画の工事現場がございます。セントローレンス川の開発工事は日本人としては我々に対して初めて正式に見せるのだ，といつておりましたが，成程これは大きいものでございまして，オンタリオ湖から東に流れて大西洋に出るこの川は暫くの間はアメリカとカナダの国境を流れるのでありますが，ここに以前からあつた運河，せいぜい2,3千屯の船が遡航出来るだけの設備ですが，それを大規模にする。2万屯位の船が遡航出来る様にするのだということでありますが，同時にこの川の中の島であるバンハート，アイランドとカナダとの間に，約3千2百フイート位の長さの堰堤を作り，その堤体の中に発電機を入れまして，そこで90フイート位の落差で発電する。堰堤の真中を国境が走つておりまして，これを境にアメリカ側に約100万キロ，カナダ側に約百万キロ，合計2百万キロ，1基5万8千キロで両国側に夫々16基，合計32基を設ける計画であります。私共が見に参りました時は，このダムは七，八分通り出来ておりまして1958年秋には第1号機を運転する予定であると申しておりました。尚申しおくれましたが，このセントローレンス河開発計画というのは，アメリカ，カナダ両国の国際協定による開発計画でありまして，発電工事の部分の両国分担額は夫々3億ドルであるということであります。又工事はアメリカ側はニユーヨーク州の動力局，カナダ側はオンタリオ州の水力委員会が担当しておりまして，将来恐らく双方共州営の卸売をすることになるのであろうと思われます。

このセントローレンス河開発計画は先程も申し上げました様に運河と発電という一種の多目的開発でありまして，いま申しあげた発電工事と並んで運河の築港工事が盛に進められておりましたが，この発電及び運河両用の目的のために，この発電用ダムの上流に2ケ所大きなダムを築造中でありました。一つはいま申し上げたバーンハートの発電用ダムの直ぐ上流のところに，ロングスーダムという発電用の水と運河に分ける水との調整を行うためのもの，一つは，それから更に20哩程上流のところに，イロキユスダムという下流の水没補償問題を廻避することを殆ど主目的とした様に思えるダムと，この2つのダムを築造中でありました。補償の問題はアメリカでもかなりのウエイトをもつた問題であることの片鱗をうかがい得た様に思いまして興味を覚えた次第であります。尚今手許に御座いませんが，この発電計画による水力電気のコストと，先程御話し申し上げたシツピングポートの原子力発電所の発電コストを比較して，現実の問題として，猶水力開発をゆるかせにすることは出来ないということを力説しているパムフレツトをニユーヨーク州の動力局が出しておりますが，これなども甚だ興味ある現象であると思つた次第であります。

セントローレンス川の開発現場の視察を終えて，次はアルバニー，ここでGEの工場を見学し，それからボストンへ参りました。ボストンではハーバート大学及び有名なマサチユーセツト・インステチユーテート・オブ・テクノロジー——マサチユーセツト工学院，そういうところで労使関係や経営関係の説明を聴いた訳であります。続いてニユーヨークへ参りまして，ここではコンソリ・デーテツド・エヂソン，EEI，アメリカ経営協会，もとCIO系のユチリテイ・ワーカーズ・ユニオン等を訪問した後，TVAに参りました。ニユーヨークからTVAまでは，飛行機で2,3時間の距離であります。このTVAについてはいろいろ紹介されておりますので，特に申しあげる事はありませんが，面白いのはTVAでは頻りに電力国営，就中このTVAの効能を述べ，テネシー州及びその周辺の感謝の的になつているという説明をきかされたのでありますが，その数日後にワシントン市に参りまして合衆国の商工会議所を訪問した際に，ここでは逆に電力国営，就中TVAのあり方に対し，この商工会議所としては反対であると言つてかなり強い言葉でTVAをこきおろしていたことであります。TVAはテネシーの流域に対し非常な利益を与えているので，その流域の人からは非常に喜ばれておる。それはその通りでありまして，非常に安い電気を国営で供給しておる。開発主体はTVA即ちテネシー・バレイ・オーソリテイ，これは各省に所属していない，大統領に直属した機関である，フーバー



セントローレンス河開発工事の一部

ダムやグランドクーリーダムは，ビユーロウオブ・レクラメイシヨン，即ち内務省の開発局の所管になつておる。それに対してTVAは同じ国営であるが，テネシー・バレー・オーソリテイという特別の機関でやつたものでありまして，ダムの数も30幾つと非常に規模も大きい。勿論その中には前からあつたアルコアの発電所のダム等も一緒に運営されているのでありますが兎に角非常な効果を上げている。それに最近ここでは非常に火力が増えてきておる。このTVAの火力という事がアメリカの電気事業界における最近の問題になつている。TVAの全出力は約1千万キロワツトで，内水力35%，火力が65%というように火力が最近増加して来ておる。供給

先はテネシー河流域内で企業を営んでいる大口工場，例えばアルミニユームカムパニー・オブ・アメリカ，アルコアとかジユボンとかその他の大口の工場，それから同じくテネシーの流域にある小さな電気会社若しくは協同体，町，村，部落などが協同で運営している電気供給設備，そういう所に供給しておる。大電力会社に対しては供給しておりません。従つてこの流域内で事業を営む大口工場及び流域内の住民に対してだけ安い料金で供給しておるというのが実態であります。然もそれは大体全出力の40数%でありまして，残りの50数%は国営の原子力工場へ供給しておるということでそのKWHは1955年の実績では220億キロワツトアワーに達しております。この数字は1957年には300億になるであろうと言つております。そのようにTVAはテネシーバレーの流域民からは喜ばれておる，テネシー川の流域は元来資源に富んだところであるが，住民は年々の洪水と霜の害に悩まされておつた。とうもろこし，わた，タバコなどが主作物ですが冬期間，12月から1,2月にかけて，時には50インチにも及ぶ降雨と霜害によつて土地はやせ，植物は枯らされるという状態を繰り返していたのであります。その農民の被害というものは，毎年非常に莫大なものである。それを防ぐという事が当初の目的で，これに加えて発電事業を行い，安い電力をこの流域に供給する，いわば二重三重に恩恵を蒙つているわけであり，TVAがこの地方民から感謝されておるというのはまことに当然のことであります。私はそこで「テネシー以外の一般の人から，何か特段に不平がましい事は出ないか」という事を聞いたのでありますが，これに対して，テネシイ・バレイ・オーソリテイの役人は，TVAはアメリカ合衆国民から喜ばれているという様な口ぶりでありました。所が前申しました様にそれから2,3日後にワシントンへ出まして，合衆国の商工会議所できいた話は，それと全く対照的で，甚だ興味を覚えた次第であります。

兎に角TVAがその安い電力，TVAが出しているパンフレツトに依れば，1952年の私営電気事業の需用端に於けるコストの平均は10.1ミルであつたのに対し，1953年のTVAに於けるそれは，その約半分で，僅かに5.4ミルで供給し得たと言つておりますが，一般附近住民から喜ばれているのも成程とうなずかれる次第であります。然し，他面，ワシントンの商工会議所のいう様に見せかけの安い料金だという点についても充分検討を加えて見なければならないところと思います。

さて，TVAから私どもはアメリカ最後の訪問先であるワシントン市に参つたのでありますが，ここでは先程一寸申し上げた商工会議所の外，労働省，商工省，組合本部など2,3訪問しいろいろ得るところもあつたのでありますが，時間も御座いませんので割愛し，最後に，簡単に最近問題になつております，また我々が一つの命題としてもつていつた，生産性という事に対するアメリカの考え方なり見方なりについてかいつまんで申しあげたいと思います。これも勿論，「葦のずいから天井のぞく」式のものでありまして，決してそれがアメリカ一般のものだという事は言い切れないと思いますが，然し電力会社或いは組合，経営者協会，学校，労働省というような所で何時も話題になつたのでありますが，大体共通して言えることは，いわゆる生産性という概念は，一般的には国民生産的というか，全産業についての概念で一産業，一企業体のものではないということであります。ただそれに対して，例えばシカゴのコムモンウエルスエヂソン，デトロイトのデトロイトエヂソン或はニユーヨークのコンソリデーテツドエヂソンという様な電力会社で，一応その会社の生産性という概念を認めた様な形でいながら，労働の寄与による部分の測定について明確な方法がないので困るという様なことを言つておりました。結局はアイデアとしてはまことに結構であるが，一企業体の内部の問題として困難な点があるということで，このことは，例えばサンフランシスコのインタナシヨナル・ブラザーフツド・オブ・エレクトリカル・ワーカーズでも同様の意味のことを別な言葉で表現していました。然し乍ら国民生産的な意味合での生産性向上は賃金水準を考える場合に当然考慮さなければならない事柄であるということも極めて一般的な考え方の様に見受けて参りました。例えば，ハーバード大学での話でありましたが購買力と賃金とは生計費指数を通じて結びつけられているが，生産性上昇と労働賃金との間には測定公式がないので結びつけることが困難であるという様なことを言つておりました。これは矢張り生産性と賃金との結びつきを是認しつつ，その数的根処を見出し難いとする態度の様で御座いました。

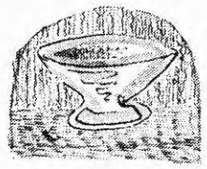
又，個々の企業体のことについて考えれば，一応生産性を示す指標とコストは無関係であつて，従つて成果の配分という場合には先程申し上げた様に測定が困難であるという問題がつきまとうのでありますが，これを国民生産的，全産業的な意味での生産性向上ということになりますと，一般的に競争の原理から言つて経済的に生産の上昇を齎したということが言えるのでありまして，そこに生活水準の上昇，即ち賃金の上昇という面から，或いは消費物資の質の向上，数量の増大という面から国民生活水準の向上が考えられて来るものと思うのであります。私共アメリカで，数はあまり多くなかつたが，各方面で生産性に言及されているのを聞いたところでは，生産性の向上は非常に大切だ，これによつて現在の生活水準を維持し，更にこれを上昇させるのだということが，国民1人1人に浸透しているという感じでありました。成果の配分に数字的測定の困難があつても，必ず何等かの形で自らの生活の上に，又国民生活全般の上に，良いはね返りがあるのだという強い信念の上に行動している様に見受けて参つた次第であります。

なおいろいろ細かい点で申しあげたい点もございますが，大分時間も経過致しましたので，この辺であとはスライドでもお目にかけて，その都度感じた事を申しあげてみたいと思います。御静聴有難うございました。（拍手）

★　★　★



工業家と技術家のための経濟学 (III)



抜山平一

〔6〕 資産の特性

前回において，経済期間の初期において経済体の持つ資産が G_1 であつたものが，経済期間の末期において G_2 になつたとすれば，その減少は減耗 J と不足損失 L と消化 C との和であつて，これを式で表わすと

$$G_1-G_2=J+L+C \quad \cdots\cdots\cdots\cdots(1)$$ (資産式)

こうなるということを説明した。工業家，技術家のうちでも数学に遠ざかつている方は，式が出るとさつそくむずかしいと感ぜられるようなのでこのことが心配になるのであるが，たとえばある会社の資産総額が期始において9553（百万円）であつたのが期末において7881（百万円）になつたとし，減耗による減価が1553（百万円），不確定損失が82（百万円），消化が37（百万円）だつたとすれば資産式は

$$9553-7881=1553+82+37 \text{（百万円）}$$

ということであつて，普通に財産目録に書いてあることをただ見方を変えてあるだけのことである。

資産の特性

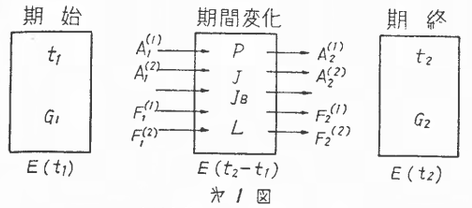
そこで，いま問題とした資産についての観念をはつきりさせる必要がある。資産をその特性によつて分類するのに，土地家屋のように動かしがたいものを固定資産といゝ，器具，通貨のように動かしやすいものを流動資産ということもあるが，資産が経済活動の要素となつて資本と考えられる場合には固定，流動などということも実際の意図についていつたほうがよいのである。すなわち固定する意図のもとにある資産は固定資産であり，流動する意図のもとにある資産は流動資産であるというのである。たとえば土地会社のもつている土地は流動資産で，使用人の退職資金のために積立てられた現金は固定資産と考えてもよいのである。

こゝではまず資本の経済体からみた経済資源としての特性を考え，この特性に応じて分類することを検討してみよう。資産自身の特性としては，減耗と不確定損失ということがあり，経済活動に伴つた特性としては増強と消化ということがある。

資産の減耗（depletion）J について。

資産はすてゝおいてもその価値は変化する。山林のように自然に価値の増大するものもあり，土地のようにその本質は不変であつても環境により価値の増減するものもある。生産資本として保有される資産の多くは，すてゝおけば自然にその価値が減少するのが普通であるから，資産価値の自然変化としてはその減耗を考えることゝし，もし増加する場合には減耗が負であると考える。この資産の一経済期間における自然減耗を J_0 で表わす。

減耗は原価 G_1 のパーセントでいうことがある。たとえば家屋のようなものは減耗は少くて数パーセントであるし，錆やすい精密機械の減耗は数十パーセントにも上り，食料品の減耗は百パーセントになることもある。このように自然減耗の程度は資産によつて非常に違うけれども大体予定し見積られるものである。



第 1 図
経済期間における経済変化

実際において，われわれは生産資本として使用する資産を放置の状態において使用するものではない。適当な手当をし，修理を加えてその減耗を小にするように努力しながら使用する。したがつて，実際に生産に使用しない場合の減耗 J_0 よりも少いと考えられる。この減耗を J で表わす。実際に一経済期間におこつた資産の現象 G_1-G_2 のうち，J は減耗して消失したものであるから，これを差引き残りの

$$(G_1-G_2)-J \quad \cdots\cdots\cdots\cdots(2)$$

が生産のために使用されたわけである。自然減耗 J_0 と補修 J_0-J とがどのような順序でおこるかということは，実際は色々であるが考え方を容易にするために期間の始めに J_0 がおこり，これを補修によつて J に引きもどし，(2)式に示した資産を出発点として一経済期間の間使用するものと考えよう。

資産，特に設備資産と原料資産は使用することによつて減耗するものである。しかしながら，生産に使用してその結果減耗するのは消えてなくなつたのではなく，生産目的に対し変形したのであると考えられるから，これは減耗といわず消化（consumption）と考える。機械を使用したためにおこる減耗のようなものは，使用の方法が毎期同様であればこれを見積ることもできるし，また実際に観察される状態でもある。また一方，使用減耗が常におこつていれば自然減耗 J_0 は観察されず仮想的の量となるけれども，使用による減耗はすべて消化と考えることにする。

資産の増強（reenforcement）

資産を資本として使用するためには，常に修理増強することが必要である。またこのためには費用がかゝる。いま修理増強によつてふえた資産価値を J_B とし，これに用した費用を B とすれば，結局修理増強によつて

$$P_B=J_B-B \quad \cdots\cdots\cdots\cdots(3)$$

だけ資産のうえで利益があるわけである。こゝに P_B を内部生産，B を保存費，J_B を資産増強という。実際に資産を消化しないときにおこる減耗 J は，自然減耗 J_0 と資産増強 J_B との差であつて

$$J=J_0-J_B \quad \cdots\cdots\cdots\cdots(4)$$

これを(1)式に入れて

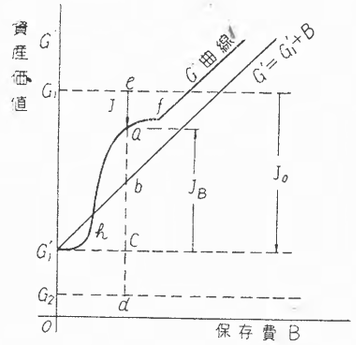
$$G_1-G_2=(J_0-J_B)+L+C \cdots\cdots\text{（資産式）}(5)$$

これが資産増強のある場合の資産式である。なお上式において

$$G'=G_1-J=G_1-(J_0-J_B) \quad \cdots\cdots\cdots\cdots(6)$$

は期始における有効資産と考えられる。

資産増強の問題，すなわち保存費 B の使い方は経済上重要な事項であるが，いま B と式(6)の有効資産 G′ との関連においてこのことを検討してみよう。前に述べたように，資産の減耗，増強，消化等に関しては簡単のため時間的順序を考えないのであるが，（第2図）はこの主意にしたがつて時間の問題を省略し，



第 2 図

保存費 B と有効資産 G′ との関係を示すものであつて，横軸に B を縦軸に G′ をとつてある。初期の資産を縦軸上の点 G_1 で示す。自然減耗 J_0 によりこの初期資産は縦軸上に示した点 $G'_1=G_1-J_0$ まで減少する。もし保存費Bを全く使用しなければ，この G'_1 が有効資産 G′ であるから G'_1 点は G′ 曲線が縦軸から出発する点である。つぎに G′ と B との関係がどうであるかというに，B が小さいときは G′ 曲線は G'_1h に示されるように徐々にしか増加しない。これは中途半端な保存費のために，有効に増強の目的が達せられ

ない場合である。それからなお B が増加すると保存費の効能は急に増大し，G′ 曲線は ha に示すように急に上る。a 点を過ぎると増強の効果は飽和し，なお B を増加して f 点に到り，保存費を既設の資産にかけても効果が少いので新設備を購入附加することにすれば，これからは G′ 曲線は $G'=G'_1+B$ なる直線に平行な直線となる。すなわち新設備購入に使用した保存費は同格の有効資産となるのである。

保存費 B をどの位使つたらよいかということについては，大体飽和のおこる手前で第2図の a 点に相当するところまでというのが一つの基準であろう。これを数学的な言葉でいえば内部生産 P_B を極大にする点までといえる。すなわち(6)式を(3)式に入れて

$$P_B=G'-(G_1-J_0)-B \cdots\cdots\cdots\cdots\cdots\cdots(7)$$

この式で G′ を B の連続函数と考え P_B の極大条件を求めると

$$\frac{d}{dB}\{G'-(G_1-J_0)-B\}=0$$

G_1-J_0 は B に無関係であるから，この式から

$$\frac{dG'}{dB}=1 \cdots\cdots\cdots\cdots\cdots\cdots\cdots\cdots\cdots\cdots(8)$$

（微分学を知らない読者はこの式の意味が分らなくてもよい）これは G′ 曲線上の a 点のように，この曲線の切線が B 軸と45°の角をなす点である。そしてこの場合

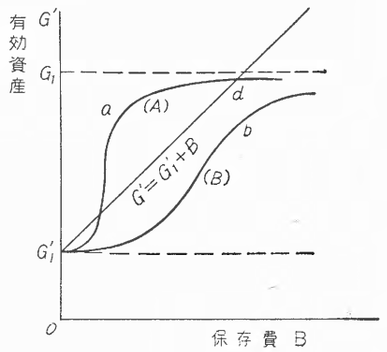
$$G'=G_1-J_0+B=G_1+B$$

なる直線上の点 b と，G′ 曲線上の点 a との差 ab が(7)式の P_B である。

たとえば資産が穀類であつたとして，その減耗を補うのに同じ穀類を購入するように保存費を用いたとすれば，G′ 曲線は（第3図）に示すように

$$G'=G'_1+B$$

なる直線となる。したがつて B の値にかゝわらず(8)式は常に成立するけれども，内部生産は常に零で利益はない。もし保存費を害虫の消毒に用いた場合に，G′ 曲線が（第3図）B 曲線のようであつたとすれば，b 点において(8)式の条件が満足される。しかし b 点は $G'=G'_1+B$ 直線の下にあるから，内部生産は負であつて，保存費を使つても損失となる。これに反し保存費を冷房に用いた場合に，G′ 曲線が（第3図）



第3図

A 曲線のようであつたとすれば，a 点で(8)式の条件は満足され，a 点は $G'=G'_1+B$ 直線より上にあるから内部生産は正であつて，保存費を使つた利益はこの点で極大となる。しかし利益の大小にかゝわらず利益のある限り保存費を使うという方針ならば，A 曲線と $G'=G'_1+B$ 直線すなわち（第3図）では G'_1C 曲線との交点 d に相当する保存費で使用するということになる。

機械によく注意して適当な時期に手入をしたり，防蝕剤を塗るとか，家屋を常によく点検して適当に修理をするとかいう保存費の使用は，実質上非常な利益となる場合が多い。よく手入れのとどいた資本はそれだけで精神的の教育にもなるものであつて，保善ということをないがしろにするのはわが国民の一つの通弊とも考えられる。

資産の消化（consumption）

人間が生活をしてゆくにはどうしても消費が必要であるという。そこで消費という言葉の意味を経済学的にもつと堀り下げてみると，物質とエネルギーの不生不滅の法則がある以上，物をなくするという意味ではないことは明かであつて，物やエネルギーの価値を減少させる意味であると考えられる。たとえば食料を食べてしまうと食料を消化したというが，この食料が排泄物となると豚の食料ぐらいにしかならないので，食料としての価値は減少する。衣類を着古してしまうと，衣類を消費したというが，この衣類の価値は減少する。電力を使用すると，このエネルギーはその使用方法により科学的のエネルギーになつたり，熱的のエネルギーになつたり，運動のエネルギーになつたりするが，この場合エネルギーの価値は増大しているかもしれないのであるが，これはエネルギー本来の価値は減少し，その代りに他の形が増大したと考える方が電力の消費という言葉の意味と一致する。

こゝで最後の場合にエネルギー本来の価値など苦しい言葉を用いたが，実際は科学的エネルギーとなる場合も，熱的のエネルギーとなる場合も，運動のエネルギーとなる場合も，これによつて得られる利益は消費された電力の価値よりも大きければこそ，そのようなことが行われるのである。衣類の場合も食料の場合も同様であつて，衣類を着，食料を食べて働いたための利益は，消費した衣類，食料をつぐなつて余りがあるであろう。衣類，食料を海に捨てるようなことは完全に価値を減じるであろうし，電力でも人のいない部屋を暖めるのに電気ストーブをつけ放しにしておけば，この電力の価値は常温における等価熱量まで下り，ほとんど無価値となるであろう。それゆえ消費ということを価値を減ずることであると考えても，これは極めて制限された一面を見てのことであると考えなければならない。

消費という言葉は上述のように，価値減少の反面に重きを置いて考える場合に用いられるので，価値増大の反面に重きを置いて考える場合には同じ減少を消化ということにする。たとえば 414 キロワット時の電力を消費して1トンの石灰窒素が生産されるといつてもよく，414 キロワット時の電力を消化すれば1トンの石灰窒素が生産されるといつてもよい。「消費して」というのと「消化すれば」というのと消極と積極との響きの差はある。

われわれは消費物を供給するために生産しなければならない。消費は実に生産の原動力である。消化の見込みのない電力を生産する電力会社はないであろう。余つて焼き捨てなければならない食料を生産した農民は不幸である。筆者は終戦後の食料難で，捨ておけば14万人は餓死するといわれたとき，超音波による漁群探知の研究を始めたが終戦後10年を経た今日では64隻の漁船にこの探知機が普及した。もし平時に漁獲高が幾倍にもなるようなこの探知機を供給したならば，漁民に対しても一般国民に対しても，大した福祉は与えなかつたであろう。漁民は漁を取るのが商売ではなく，漁をとつて売るのが商売であり，漁の売れるのは国民によつて消化されるからである。餓死線をさまよう餓えた国民が，魚であれ何であれ新しい食料をよく消化することは当然である。

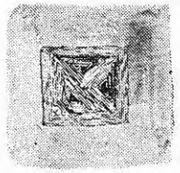
生産自身のためにも消費が必要であることは前に述べたとおりであるが，この場合には消費はむろん価値の増大を目的としているから，これを消化といつた方が適当であることはもちろんである。生産によつて供給される物質 A_2（第1図）はまた結局は消費されるものであるから，生産はまた消費を盛んにする。消費が盛んであることは生産水準が高いということに他ならない。したがつて生産と消費の循環が盛んであつて安定することは，われわれの社会福祉の目標の一つである。（つづく）

動　物　淑　女　錄

前号でも御紹介いたしましたが東京事務所連山仁一郎氏の動物淑女錄は，発刊以来各方面の好評を得ているが，社員の皆さんで御希望の方は各部各支店社誌編集委員まで御申込下さい。

B6．240頁　定価 230 円

除塵機設備の効果について



鹿瀬発電所　伊　藤　栄　喜

1．除塵機設備に至るまで

鹿瀬発電所取水口の損失落差は常時 20～30cm で，この換算電力量は極めて大きい。又洪水時並びに春季融雪増水期間中の流木塵芥は取水口を塞ぎ，損失落差が 150cm に及ぶこともある。これら流木塵芥は取水口の増大した流速に吸いつけられ，人力ではとうてい取除きはできないので，止むを得ざる芥取停止を行つて来た。

芥取停止電力量は多い年は 3,000,000KWHに及び，年間平均は 1,700,000KWH である。人力に依る停止芥取を実施しても，深部に横たわる沈木等は完全な取除きは不可能であり，従つて取水口の通水面積は年を追つて縮減され，流木塵芥の吸着力は加速度的となり，遂には常時損失落差が50cmにも及ぶようになる。かくてはえん堤水位を下げて取水口を乾水し，陸上で流木塵芥の取除き工事を実施しなければならず，長時間の全停を余儀なくされる。これを断水芥取と仮称すると，断水芥取の周期は 5～6 年である。前回は昭和23年 5 月の豊水期に実施した。このような悪循環を脱却するため，機械除塵設備を提案，昭和30年 4 月設備されたのである。

2．芥取停止電力量の減少

除塵機の最も大きなねらいは，芥取停止電力量の節減であつた。設備後まだ 1 カ年を経過したばかりで，短かい期間ではあるが，その間の芥取停止電力量は，第 1 表に示す通り 230,000KWH である。除塵機設備前の年平均芥取停止電力量は約 1,707,500KWH であるから，その差 1,477,500KWH，¥ 5,170,000 は大体除塵機の活用に依るものとみられる。

3．常時損失落差の減少

取水口芥除格子前面に附着する流木塵芥は，発電機運転中は芥除格子に吸着されて，人力ではどうしても取除き得ないものであるが，除塵機設備後は運転中でも芥取可能であり，随時芥取を実施して損失落差の減少に努めているので，常時損失落差は第 2 表の通り年平均 21cm となつた。設備前の年平均は完全な記録をとつたのは，28年しかないが 32cm である。約 10cm の減少となつたわけで，この換算電力量は 1,536,000

第 1 表　芥取停止電力量

年度	芥取停止電力量	年平均芥取停止電力量	備考
	KWH	KWH	
21	949,000	1,707,500	この期間は機械除塵設備のない状態であつた。
22	2,616,000		
23	1,787,500		
24	2,182,000		
25	2,224,000		
26	1,344,000		
27	742,000		
28	1,815,500		
29	483,000		デリッキとカグラサンで機械除塵の仮設備をして活用した
30	202,000		4 月除塵機を設備した
	126,000	230,000	5 月以降の停止電力量 126,000KWH
31	104,000		4 月まで 104,000 KWH

KWH，¥ 5,376,000 である。

常時増加した発電力量 KWH

KWH＝9.8×210×0.1×0.85×24×365

210＝30年度平均使用水量

＝1,536,000KWH

4．断水芥取の周期延長による効果

鹿瀬発電所は前に述べた通り，取水口前面の流木塵芥(沈木土砂)が年々堆積され，通水断面積が漸減し，損失落差の増大が常時化（年平均 50cm）すると，年間の発電力量に莫大な損失を来たすので，この様な状態になるとえん堤水位を下げ断水して芥取りを実施する。この周期は 5～6 年で，作業に要する日数，工費，損失電力量は下記の通りである。

取水口の損失落差が常時 50cm になつたときの年間損失電力量

9.8×210×(0.5－0.1)×0.85×24×365

＝6,130,000KWH

取水口の常時損失落差を 10cm とみなす断水芥取りに要する日数

第 1 日　水位降下　下流関係があり 24H を要する

第2～5日　芥取作業　昼夜続行作業

第 6 日　貯　水　水位降下と同じ

乾水塵取に要する工事費（昭和23年 5 月の実績から推定）

延人員　300人×4日＝1,200人

工　費　1,200×400＝480,000—

其の他　120,000—

計　600,000—

断水塵取に因る損失電力量

1,100,000×6＝6,600,000—

豊水期の 1 日平均発電量は 1,100,000KWH である。

然るに除塵機設備後は第 2 表にもみられる通り，取水口の損失落差は漸減の傾向にあり，断水芥取の周期は大巾に延長されたものと思う。この面の利益は仮に周期10年とすれば660,000KWH，¥2,310,000＋600,000＝2,910,000 である。

第 2 表　取水口常時損失落差

月＼年	28	29	30	31
	cm	cm	cm	cm
1	14	23	11	17
2	8	19	16	11
3	44	43	52	27
4	41	54	61	45
5	46	38	52	43
6	33	28	21	28
7	33	28	21	—
8	28	7	3	—
9	32	7	7	—
10	22	5	17	—
11	36	29	15	—
12	47	19	14	—
計	384	300	290	—
平均	32	25	24	—

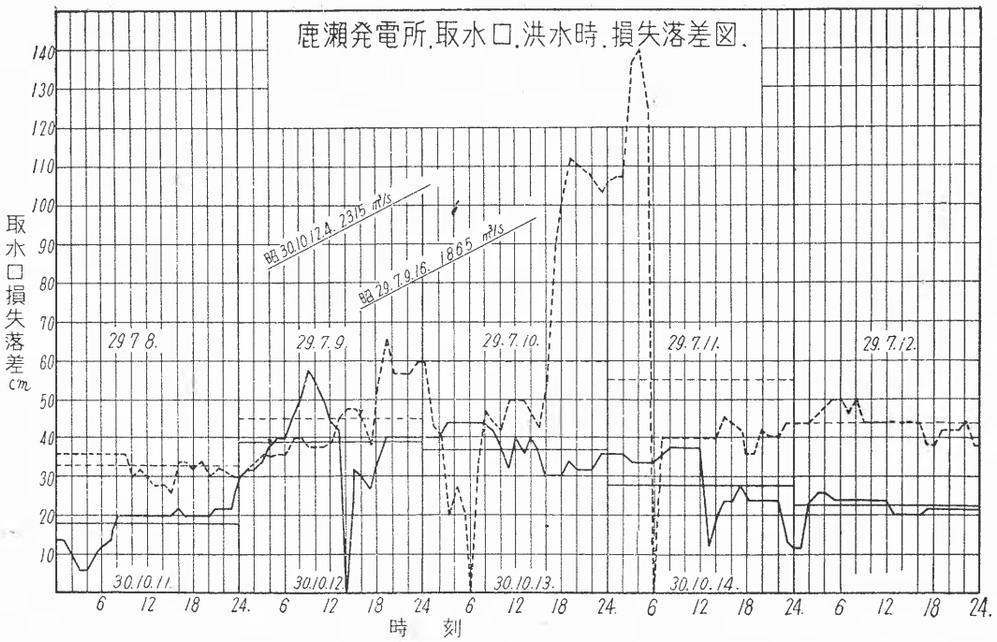
除塵機設備は30年 5 月からで翌年の 4 月まで 1 カ年の平均は 21cm である。

5．洪水時流木塵芥による損失落差の回復について

洪水時，流木塵芥が多量に流着した場合，除塵機設備前の人力による取除きは不可能に等しく，只管発電停止を待つて，取除作業を実施しておつたので，従つて流木塵芥による損失落差の回復は，全く給電事情に支配されておつた。然し除塵機設備後は発電しながら芥取が出来るので，常時除塵機の活用により損失落差の回復を早めている。その消息は別項「洪水時取水口損失落差の図」によつて知ることができよう。

6．除塵機の設備効果

鹿瀬発電所取水口に於ける除塵機の設備効果は，設備後日が浅いので，以上の効果を自信を以て申上げるわけには行かないが，鹿瀬発電所は従来最大出力 48,000KW であつたが現在は最大 52,000KW を記録するようになつた。これは放水路の浚渫が主因ではあるが，水槽スクリーンの改良，除塵機に因る損失落差の逓減等が相俟つて増強したものと思われ，除塵機が効果を上げていることには間違いないので，以上の効果を合計すると，年間 3,673,500KWH，¥ 13,456,000の利益である。除塵機の設備費は約¥5,000,000であつた。



停止電力量の減少による効果

5,170,000円　1,477,500KWH

常時損失落差の減少による効果

5,376,000円　1,536,000KWH

断水芥取周期延長による効果

2,910,000円　660,000KWH

合　計　13,456,000円　3,673,500KWH

7. 取水口角落の設備について

鹿瀬発電所取水口は以上に述べた通り，流木塵芥が取水口前面に沈積され，だんだん通水面積を縮減して損失落差を増大し，常時平均 30cm であるが，除塵機の活用によつて 20cm 位まで回復は可能であると思われるが(第2表の通り)，それ以上の回復は至難である。然しこの1年間除塵機を活用してみて，自信を以て申上げられることは，取水口に角落を設備することである。3門の角落を設備し，軽負荷時に3門の角落を併列挿入してその中央水門前の沈木さえ引上げれば，土砂や細かい塵芥は自然と流下することは必定である。斯くすれば取水口の常時損失落差を 10cm に軽減することは可能である。この利益は 1,536,000KWH，¥5,376,000である。

8. 除塵機の性能について

以上鹿瀬発電所取水口除塵機の効果について述べたが，該除塵機はただのシブクレーンであり，一見除塵機とは思えないような構造であるが，これは鹿瀬発電所取水口の構造と，阿賀野川の持つてくる流木塵芥の性質がそうさせたので，除塵機の性能は，川の性質と除塵カ所の構造物にぴつたりマツチしたものでなければならない。



原子力への案内

— その 2 —



電気部発電課　八　島　俊　章

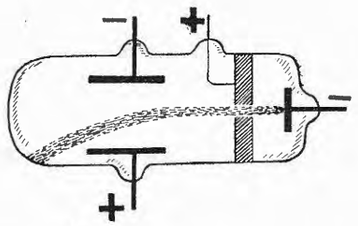
〔3〕 原子の正体の発見

1. 陰極線の発見

原子とは何であるかという事については，ガラス製の1本の真空管が，原子の構造について重要な手懸りを提供し，その一族が現在ラジオ，テレビジョン，照明，レーダー等の近代生活に於ける重要な部品となつている。

1853年，フランスのマソンは火花発生装置の両極から出た2本の電線を密閉したガラス管の両端に封入した管の中から空気を少し排出すると火花は空気を排出しない時よりも更に遠くへとぶ様になつた。この事実をもとにして，ドイツのガイスレルはもつと強力な電源を使つて真空管にいろいろの気体を入れて実験した。その結果それらの気体は夫々特徴のある色のウン光を出し，青味がかつたウン光は水銀から出る。ナトリウムは黄色のウン光を出す。

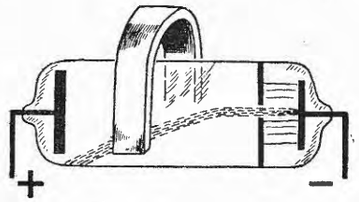
1878年頃，イギリスのクルツクスは陰陽2極を封じこんだガラス管から空気を続けて排出したら管の内部から出るウン光は殆んど消えてなくなつてしまつた。それからガラス管そのものが光り始めた。暗くなつた管内に何が起つたかを発見するために，彼はいろいろな実験をしたが成功しなかつた。それから沢山の学者がこれについて実験をして，ある粒子が陰極をはなれて陽極の方へ流れていく事が次第に解つて来た。何がそんな結論に導いたのであろうか？　そしてその粒子はどんな種類のものであろうか？　それは次の様な実験で解つて来た。それは第1図に示す様に相反する荷電をもつ2枚の金属板で粒子の流れの上下をはさむと，真直ぐな流れは曲つてカーブを描く。そしていつもその曲線は陽荷電をもつ金属板の方に向つていた。それでこの流れは陰電気をおびたもの丶様に思われた。又第2図の様に流れの近くに磁石をもつていく



陰極線に電場をかけると

第1図

と，やはりカーブを描いた。その曲り方から判断しても陰電気をおびていると思われる。更に軽い風車を管内に設け，その流れに当てると車はまわり始め，その回転方向から判断して陰極から出る粒子が車にぶつか



陰極線に磁場をかけると

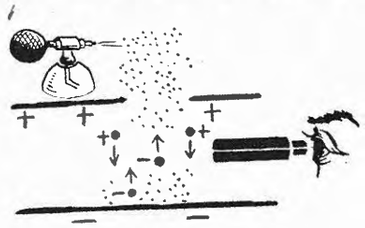
第2図

り，それをまわしているに違いないと思われた。この流れは確かに陰極から出ると思われたので陰極線とよ

ばれた。以上の事のすべてから，陰極線は陰荷電された粒子から成りたつている様であつた。真空管の陰極を構成している金属から出るのであるから，これらの粒子は金属を構成している物質の一部分に違いない。この粒子は多分金属原子の一部ではないか？　そしてこの陰荷電粒子が電気が流れる原因ではないか？　この様にして今まで知られなかつた広い知識の世界を知る機会が与えられたのである。

2.　電子は原子の基本的構成原子である

1897年，イギリスの J.J. トムソンは陰極から出るこの様な不思議な粒子は何であるかという事に対して重要な手懸りを得た。彼は荷電した金属板で管をはさみ，粒子の曲り具合を測定した。また磁石をおいて粒子の通路を彎曲させた。その他いろいろな測定をやつてから，彼は若干の重要な結論に達した。特に粒子は毎秒何万哩という速度で走つているという事であつた。しかし粒子はどの程度の荷電をもつているのか，また重さはどの程度か？という2つの疑問に対しては解答を提供する事が出来なかつた。しかし，管内に入れたガスが何であろうと，電極がどんな金属であろうと，粒子の荷電をその重量で割つた商(比電荷)は常に同じで，この事からこの粒子はすべての物質にとつて基本的構成要素である様に思われた。今日我々はこの陰極線を構成している粒子を電子と呼んでいる。それから以後，電子は荷電の単位になる最小のものではないかと考えられる様になつた。いろいろな測定がなされ，1909年，アメリカの R.A. ミリカンはこれを解決するために努力し，この業績に対してノーベル賞が与えられた。ミリカンは普通除々に落下すると思われる油の微小な粒を使つた。帯電した微粒子を陰極と陽極の中間におけば陰荷電粒子は陽極に引きつけられる。第3図に示される様に油の粒子にくつゝいた荷電が，その粒子をひつぱるわけである。幾千という油の粒子が陰極または陽極に向つて動くのを観察し，注意深くその速度を検討した。油の粒子は霧吹きから，吹き出される時の摩擦で荷電される様にした。しかしその結果を見ると，荷電には単位になる素量がある様に思われた。ある粒子は陰陽いずれの荷電であれ，1単位量しか持つていない。あるものは2単位量，またはあるものは6単位量，8単位量という様に，端数の単位量を持つた粒子は1ケもなかつた。これをミリカンの油滴実験という。荷電のこの様な単位素量を，真空管の中で同じ様な方法によつて測定された荷電に比較して見たら驚く事には，全く同じ数値を持つていた。言い換えれば電子は陰電気の単位素量なのである。



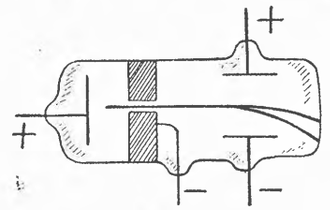
第3図　ミリカンの油滴実験

3.　陽極線の発見

前号で述べた様に，物質は全体として電気的には中性である。今まで述べた様に陰電気の単位素量である電子の存在はつきとめたが，陽電気の粒子はどうしたのであろうか？　物質が中性であるならば陰電気の粒子の存在を見つけたのであるから必ず陽電気の粒子も存在しなければならない。

1886年，ドイツの科学者 E. ゴルトシュタインは陰極板に沢山の穴をあけた陰極線管で研究していた時，偶然に陰極の背後に光るものを見つけた。それは陰極線とは反対の方向に動き，陰極板の穴を通して真空管の中を流れ，ついにはガラスの内壁で停止する様に思われた。これに対して1898年，W. ヴィーンは問題になつた気体状の線は陰極でひきつけ，陽極ではねとばす事が出来る事を実験により証明した。又磁石によつても陰極線が示す性質とは正反対の性質を示す事が証明された。そこでこの線は陽荷電粒子の流れであるという結論に達した。更にこの荷電粒子の曲る程度は陰極線の場合よりも程度が少い事から電子よりもずつと重い粒子の様に思われた。

1907年頃，J.J. トムソンは電子の特性を確めたと同じ方法で，この陽荷電粒子は何であるかという事を発見しようとした。第4図の様に陰極板の穴を通過した後で電磁気力を働せて，曲る様にし，その曲つた線が写真フイルムに当る様にして，真空管内にいろいろのガスを入れては，陽荷電粒子の流れた跡の写真を沢山とつて見た。その結果，陰極線とは動きにおいて大きな違いがある事が解つた。というのは陰極線はすべて同じ様に曲つたが陽電気線は種々なグループをなして曲つていた。そして各グループは夫々違つた走跡をフイルムに残した。又フイルムの上の走跡の位置は管に



第4図　陽電気線に電場をかけると

入れたガスの種類により一定していた。これらの事から彼は陽電気線によつて，どんな電気が運ばれるかを発見しようとした。この陽荷電粒子のあるものは，電子の荷電と相等しいが，正反対の荷電を持つている事も明瞭になつて来た。更にこれにより陰電気の単位素量に等しい基本的単位があると考えられた。その外の陽荷電粒子のもつている陽荷電量はこの基本的単位に等しいか，又は2倍，3倍等整数倍となつているので，陽電気にも基本的単位がある事の証拠は疑う余地がなくなつて来た。そして更に，陽電気線内に於ける陽荷電粒子の重さは使用したガスの原子の重さに等しい事も発見された。

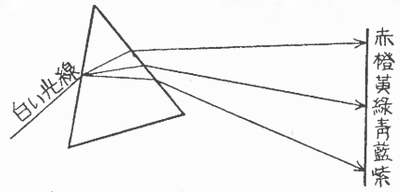
4.　トムソンの原子模型

前に述べた様に多くの科学者の研究により，沢山の手懸りが見つかつた。さて，これをどう結合させるか？　陽電気及び陰電気の粒子はどこから来るのか？　そこでトムソンは大胆な原子模型を提唱した。トムソンの貢献は輝かしい先覚者的努力であつた。多くの驚くべき新しい考案が常にそうである様うに，彼の模型もまた非常に簡単なものであつた。トムソンの模型によると，水素原子は同量の陽荷電1単位と陰荷電1単位とからなつていた。陽電気線の実験に於いて，陽荷電は水素原子のすべての重さをもつていると思われたので，彼は水素原子の主体は陽子（プロトン）と彼が名付けた陽電気粒子であると仮定した。彼の実験のすべてのうちで水素の陽イオンよりも軽い陽電気粒子を発見する事が出来なかつたので，彼は電子と共に，陽子は物質の基本的粒子であると仮定した所の原子構造はどうなつているのか？　この問題を解決するため1つの進歩した過程をこの節でのべたが，この進歩でも更に驚くべき発見や，更に輝かしい観察に比べると目立たないものであつた。原子構造に関する今までの手懸りは大部分陰極線や陽電気線を構成する粒子から出て来た。そしてこれらの粒子は，重さ，運動のエネルギー等の様な物質の諸特性をもつている。しかし原子の正体をあかすための証拠は光の研究によつても出て来た。

5.　光の研究の歴史

原子の存在に関する明確な証拠が発見される以前から光の研究は始つていた。古代ギリシヤのある哲学者達は肉眼から見えない触毛が飛び出していくので物を見る事が出来ると考え，又他の学者達は，光つている物体が人間に視覚を与える粒子を出すと考えた。

中世紀に於いては光の研究が一般に停滞して，ルネツサンスが来て漸くよみがえつて来た。レンズが使われだし望遠鏡にも応用された。この望遠鏡の応用の最初の成果は，17世紀にデンマークの天文学者レーマーが光の速度を測定した事であつた。この結果光の速度は毎秒 192,000 マイルであるという結論に達した。その後の測定によると，光が空間をとぶ速さは毎秒約 186,000 マイル，即ち毎秒 300 億センチメートルである。この様な初期の研究で発見され，後になつて原子論に於いて顕著な役割を演ずる事になつたもう1つの事実がある。それは第5図の様に白い光線が三角形の



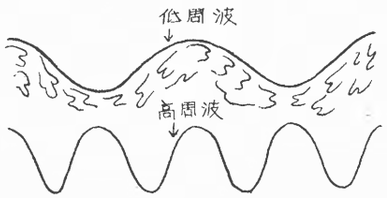
第5図　光のスペクタル分析

プリズムを通過する時，いつでも虹の様なスペクトルが出来るという事であつた。白い光線は一端から赤で始まり除々にだいだい，黄，緑，青，藍，紫に変化して行く一連の色に分解された。この実験は後に科学者に不可欠な道具である分光器の基礎となつたものである。

6. 光とは何であるか

19世紀の中頃までに集められた光に関する沢山の事実はそれらの事実を説明する理論の成立を促進させた。その頃まで1世紀半以上の間，光に関する2つの理論，即ちホイヘンスの波動説とニユートンの粒子説とがあり，どちらが正しいかについて論争が続けられていた。この2つの理論は夫々光に関する近代的理論の発展に重要なものであつた。

ホイヘンスによれば，光は波の様な運動として伝導される。水の波の様に光は中心から段々大きくなる円となつて放散する。いろいろな光の波は，さゞ波が大きな船によつて起る波とは違つていると同じ様に，波頭から波頭までの距離が違つている。波頭から波頭までの距離は波長と呼ばれる。波は又振動数によつても説明する事が出来る。例えばもしも1分間に5つの波が通過するのが認められるならば，その波の振動数は毎分5である。第6図の様に毎分20の振動数をもつ波は，もつと接近している，もつと沢山の波から成り立



第6図 周波数の高低

つているわけである。ホイヘンスのこの様な波動説を用いて，光に関するいろいろの事実を説明する事が出来る。例えば色の差は周波数の差によるのである。赤色の波は，緑色や紫色に比べてその波長がちがう。

これに反し，アイザツク・ニユートンは粒子説を展開した。この説によれば，光は発光体からとび出す高速粒子である。又色の差は，白色光源にある種類の違う粒子のためである。19世紀の中頃までには，ニユートンの粒子説は捨てられ，ホイヘンスの波動説が正しいと，認められる様になつた。その当時まで，光に関して観察された事は，大抵波動説によつて満足されたからである。

(1) 分光器による元素の検出

白色光線が7色のスペクトルに分解する事は，早くから認められていた。いろいろの元素を炎の中に入れたり，ガスとして管の中に入れて火花放電をさせたりすると，夫々独特の色を出し，その色はプリズムを通過させて分解出来る事が解つて来た。この様にしてナトリウムを含む化合物はいつでも炎の中で黄色を出す事が発見された。プリズムで分解すると，ナトリウムから出るこの色はスペクトルの黄色部に主として2本の明瞭は輝線からなる。又他の元素も夫々色のはつきりした輝線からなる独特のスペクトルを出す事が発見された。この様な元素のスペクトルは今や原子の指紋として利用する事が出来る。

(2) 赤外線・紫外線の発見

原子学者にとつても分光器はいろいろな面ではかり知れない価値がある。例えば原子的変化の秘密をさぐるに当つては，分光器を使つて，いろいろな物質の微量な存在を検出する事が出来た。

1800年，ウイリアム・ハーシエルは，光の起す発熱効果の実験をした時，スペクトルの赤い光の近くにある暗黒部に温度計をおいて見ていると，どんどん温度が昇つて来た。これによつて，スペクトルの赤色の端の近くに肉眼には見えない光の波がある事が解つた。今日，赤外線又は熱線として知られているがこれである。又スペクトルの写真をとつた時，紫色の外側にも，沢山の不可視光線がある事を発見した。それが今日紫外線とよばれているものである。

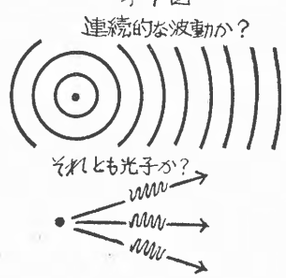
(3) 無線波とX線

19世紀の中頃，ジエームス・クラーク・マツクスウエルは，赤外線よりも周波数の少ない波動があるのではないかと考え，すべての光線は元来〝電磁的〟なものと考え，更に空間にくまなく行きわたつ

ている〝エーテル〟の存在を仮定し，光線はそのエーテルの中に於ける一種の電気的磁気的波動であると考えた。所がこの予言された電磁波は1887年，ハインリツヒ・ヘルツにより実際に作られた。更にこれらの電磁波をある距離をへだてゝ送り，それを受信機でとらえる事も出来た。現代文化に於いてこの様な無線波がいかに重要であるかはよく知られている。ヘルツが無線波を発見してから間もなく，レントゲンがX線を発見したのであるが，それは紫外線より周波数の高い電磁波にすぎないのである。

7. 光の単位素量

ドイツ人マツクス・プランクは，灼熱している物体がどういう赤外線を放射するかを研究していた。それより先に，他の学者が赤外線にも周波数のちがうものが沢山ある事を発見し，それをうまく説明しようとしたが出来なかつた。1901年プランクは，光の波動について大胆な仮定を設けるならば，これらの事実を説明する事が出来る事を発見した。即ち波動エネルギーは，〝一定のエネルギーの包〟（素量）になつていなければ放射物体から放出される事はないという仮定である。1905年アインシユタインは放射エネルギーはこういう〝エネルギーの包〟の様な形態で存在する様であると指摘した。これは全くニユートンの粒子説に似た考え方である。このエネルギーの包では，周波数が高ければ高い程エネルギーが大きくなる。今日，放射エネルギーの単位素量は第7図の様に光子（フオトン）と呼ばれている。光に関するこの革命的な考え方は，多くの別々な研究，実験により確認された。



第7図 光の正体は

8. 光電効果

光はある物質から電気的粒子をはじき出す能力をもつている。この事は以前から観察されていた。これらの粒子が電子である事は今日よく知られている。この光電効果については，独特の事実が観察された。即ち光の周波数が高ければ高い程，金属から電子を放出する能力が大きくなる。事実，赤色はある金属から電子を放出させる事が全く出来ないのに，紫色にはそれが出来たり，又紫色には出来ないのに，紫外線なら出来る。更に紫外線より周波数の高いX線は物質から電子を放出させるのにはもつと効果的である。光子即ちエネルギーの単位素量という考え方は，こういう観察，実験に適用された。X線の様な高周波放射線の光子は，低周波放射線の光子よりも，多くのエネルギーをもつている。従つてX線光子が物質に衝突すると，物質内の原子から電子が取り去られる。これらの電子は，高速度で放出され今度はその通路にある分子をひき裂いて荷電した破片即ちイオンに転化させる。光子説が認められたもう一つの理由は，X線そのものがどうして作られたか，その方法の中にある。電子が陰極から陽極の方向へとび出している陰極線管の実験をしていた時，レントゲンはX線を発見した。この原因は，管内の陽極に突きあたる時の陰極線即ち電子の衝撃である事が発見された。高速電子が陽極板の金属原子につき当ると，それが原因になつて，X線光子がとび出したのである。更に電子の速度が大きければ，それだけ生成されるX線光子のエネルギーも大きくなる事も発見された。

こうした研究の結果，原子内で物質とエネルギーとを結合している様子がだんだん判明して来た。X線や可視光線の研究から原子内に於ける電子の作用に関する重要な結論が生れて来た。しかし最も重要な結論はまだである。原子は電子と陽子を含んでいる事は解つた。しかし原子内でどういう具合に結合されているのであるかという疑問に対してはまだ解答を与えていない。

〔4〕 原子の基本的構成粒子

1. 天然放射能の発見

1896年，フランスのアンリ・ベクレルは，偶然に放射能を発見したのである。ある種の鉱物は日光にさらすと〝燐光性〟となりそれを暗室に入れると光を放射する。この事実に彼は興味を感じ調べて見ると，この種の鉱物にはウラニウム元素の化合物が含まれていた。燐光を出すある鉱物はX線の様な透過力のある放射線を出すのではあるまいかと考えた。これを試すために，日光に感光して〝かぶり〟が出ない様に，黒い厚紙で写真フイルムを包み，その鉱物の若干量をそのフイルムの上にのせ，鉱物を数時間日光にさらしておいて現象してみると，黒い紙を通過出来る様な一種の光線がフイルムに感光している事が認められた。この様な放射はウラニウム鉱物から出た事は明らかである。最初彼はこの放射は日光に露出した後，初めてウラニウムから出て来るという結論に達した。所が悪天候という偶然が驚くべき転機をもたらし，それが放射能の発見となり，原子力時代の発端となつたのである。それは悪天候のため実験の準備をしたまゝにして，乾板ホルダーとウラニウム塩のかけらとを一緒にして，暗い引出しの中に入れておいた。その後，数日してそれを現象してみると非常にはつきりしたシルエツト(影)が現れていた。これは全く驚くべき事であつた。冷い物質が光と同じ様な働きをする放射を出す。その様な事がどうして可能なのであろうか？　不注意な取扱いのため，乾板が偶然日光に露出したのではなかろうか？　これに対して実験を繰返して見たがやはり同じであつた。従つて，外部からの刺激なしに黒い紙を透過出来る様な放射は明らかにウラニウム化合物そのものから出て来たのである。この様にして，天然放射能が発見され，この新しいナゾを解くための研究が始められたのである。

この神秘的な現象に興味を感じた学者の内に，パリーで活躍していたキユリー夫妻も含まれていた。ウラニウムの放射線に影響を与える事は化学者には出来ないという事実に，特に興味を覚え，キユリー夫妻は，この様な不思議な性質についてもつと新しい事実を発見しようとした。彼等は実験室でウラニウム化合物を作ろうとし，その途中で小さいが非常に重要な手懸りを発見した。その頃，全世界に供給されるウラニウムの大部分は，ボヘミヤのヨアヒムシユタール鉱山から産出された。そこで発見された最も重要な鉱物であるピツチブレンドは，この不純物と共に，酸化ウラニウム鉱を含んでいた。驚いた事には，この不純物を含む天然ウラニウム鉱は，その鉱物から精錬された純ウラニウム化合物よりは，数倍も大きい放射能をもつていた。キユリー夫人は最初から，ウラニウムからエネルギーが自然に放射されるのは，ウラニウム原子と深く関連している性質であると確信していた。ウラニウム化合物はすべてウラニウム原子を含んでいるのであるから，その放射能は，産地に関係なく相等しいはづである。しかしピツチブレンドは例外であつた。そこで，異常に強い放射の原因となる他の物質が，ピツチブレンドの中にあるにちがいないという事になつた。しかもこの物質の存在は非常に微量なものにちがいない。というのはこの鉱石の中に含まれている諸元素は化学的分析によつて99%以上までも確認する事が出来たからである。その後，ラジウムが発見され，他の元素から分離され，それからウラニウムの数百万倍も強い放射線給源が作られる様になつた。こうしてピツチブレンドの中に，ウラニウム以外の物質がかくされているにちがいないというキユリー夫人の推測は確認されたわけである。

2. 放射能の正体

まず第1に，この新しい放射線を検出し測定する手段方法を工夫する必要があつた。幸に非常に巧妙な装置が発明され，科学者は個々の粒子が描く道筋を肉眼で見，放射性原子からとび出す粒子を数える事が出来る様になつた。この研究のために考案された最も重要な装置の一つは，イギリスのウイルソンの霧箱である。この装置によつて，ラジウムからとび出す個々の粒子の道筋を眼で見る事が出来た。ラジウムから出る粒子の道筋を明らかにしたウイルソンの霧箱は，密閉した水の容器と放射性物質を含む上部の空間から出来ている。実験者が手でゴム球を操作して容器内の空気を圧縮出来る様になつている。圧縮をゆるめれば，空気は急に膨脹して，温度が下り若干の水蒸気が凝結する。その瞬間，ラジウムからとび出した高速〝弾丸〟が空気の分子を押しわけて進む。それは，丁度大砲の弾が小麦畑を突き進んで行く様である。沢山の空気の分子が，これらの弾丸によつて引き裂かれ，その結果，荷電粒子即ちイオンが出来る。あるものは電子を失つて，陽電気を帯び，他のものは電子をとつて，陰電気を帯びる。この様な空気のイオンが誘引の中心となり，そのまわりに水蒸気が凝結して微細な水滴となる。こうして，高速弾丸が通過した後に霧の道筋が出来る。こういう道具を使つて，放射性原子から出る放射線には明らかに3種類ある事が間もなく発見された。即ちアルフア(α)粒子，ベータ(β)粒子、ガンマ(γ)線とよばれるものである。

(1) アルフア粒子

ラジウムから放出される粒子のあるものは，陰極に引きつけられ，これで電気的に陽性である事が解つた。これらの粒子はアルフア粒子と命名された。その粒子の原子量は4で，ヘリウムと同じである事が解つた。丁度2つの電子を失つて，陽荷電2単位(＋＋)を持つている様に見える。そして，その飛跡は太い真直ぐな線で，末端でぷつりと切れており，時々急に曲つているので，アルフア粒子は霧箱によつて容易に確認する事が出来た。アルフア粒子は普通その周りにある空気から，電子をとつてヘリウム原子となり，電気をおびた状態を終るのである。言い換えれば，アルフア粒子は，2ケの電子を失つて陽電気(＋＋)をおびたヘリウム原子にすぎない。

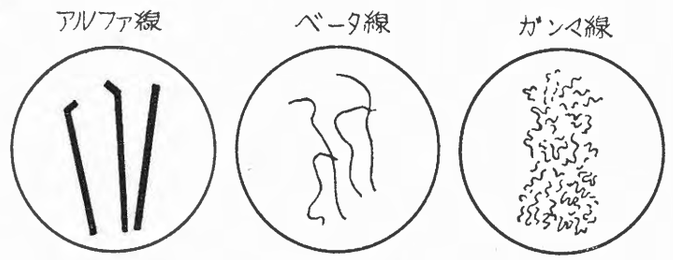
(2) ベーター粒子

ラジウム放射線の一部は，毎秒16万哩という，ほゞ光の速度に等しい高速度でとび出す陰荷電粒子であり，これをベータ粒子という。即ちベータ粒子は高速電子である。質量が小さいから，この粒子はアルフア粒子よりも易く彎曲させられ，従つてその飛跡は元来もつとジグザグなものである。単位長さ当りの衝突回数はより少いのでベータ粒子は，停止するまでにずつと大きな距離をとぶ事が出来る。

(3) ガンマ線

アルフア粒子及びベータ粒子の外に，第3の放射線が天然放射性物質から出ている事が発見された。それらは電気力や磁気力によつて彎曲したのに，ある種の放射線はそれにも影響されずに，真直ぐにとんだ。従つて，この放射線はX線に似た光子弾丸であるという結論に達した。更に，この放射線は非常に厚い物質をも透過する事が出来た。今日我々はこれをガンマ線とよんでいる。ガンマ線の光子弾丸の飛跡は，霧箱の中で直接見る事は出来ない。しかし，この光子弾丸もX線と同じ様に空気をイオン化する。衝突する分子から無数の電子をたゝき出す。ウイルソン霧箱で見えるのは，これら電子の道筋なのである。この様な電子はガンマ線光子に比べれば非常に少量のエネルギーしかもつていないから，その道筋は第8図に見られる様に短小で曲つている。

—つゞく—



第8図　霧箱飛跡の比較

法津のしおり

電気関係法規概説



仙台通商産業局
施設課長 中野 章

I 電気関係法規の沿革

(1) 電気事業発達の初期における電気法規

電気が使用されるようになつた当初においては，電気の使用はしやし的な消費とみられ，電気工作物も極めて小規模であり，その影響するところも小範囲であつたので，電気事業の取締は，府県がこれに当り，東京においては，明治24年12月警視庁が制定した電気営業取締規則（明治24年警察令第23号）によつてその監督が行われた。これがわが国における最初の電気に関する取締法規であるが，その内容は，電気工作物特に架空電線路の保安取締に重点がおかれた。

その後，電気事業が各地に発達するに伴ない，又一方自家用の電気施設も比較的大規模なものが各地に興つてきたので，全国的に統一した法規の制定の必要を感じ，明治29年5月，逓信省で電気事業取締規則（明治29年逓信省令第5号）を制定し，同年6月から施行した。この規則の内容は，事業の許可，工事施行の認可などに関する手続規定と保安に関する技術規定とを包含したものであつた。この規則において初めて電気事業という言葉が用いられたが，現在における定義とは異なり，自家用の電気施設をも含め，広く電気施設一般を指していた。

特別高圧電線路（当時の特別高圧は 3,500V を超過するものについては，その施設の認可の際，逓信省で個別に特別命令を附し，工事方法を規定し，保安の確保を期していたが，更に特別高圧線路の危険予防と一般人の送電妨害の防止の両面を規制する特別高圧電線路取締規則（明治40年12月逓信省令第55号）を公布した。これまでの電気法規は，電気工作物の危険予防の見地からのみ制定されたのであるが，この法規において，初めて電気事業の保護助長の政策が折り込まれたのである。

(2) 電気事業法および電気測定法の制定

明治20年にその誕生を見た電気事業は，その後電気技術の進歩発達に伴い急速な発展を遂げ，電灯および電力は国民生活および一般産業に必要欠くことの出来ないものとなり，電気事業は公益事業としての性格を顕著に持つようになつて来たので，電気事業の健全な発達を図るためには，従来のような保安監督を主とする省令のみでは不充分となり，明治44年3月，電気事業の保安監督のほか，その保護助長および公益的監督をも内容とする電気事業法（明治44年法律第55号）が制定され同年10月から施行された。

なほ，電気事業法の制定に先立ち，明治43年3月電気測定法が制定された。この法律は，電気の測定単位を定めるとともに，電気計器の公差および検定に関する事項を規定したもので，現在なおその効力を有しておる。

(3) 電気事業法の改正

電気事業の発達に伴い，公益事業としての重要性も一段と加えるようになつてきたので，法令的にも一層の整備強化を図る必要が生じ，昭和6年4月，電気事業法は全文改正（昭和6年法律第61号）され，昭和7年12月から施行された。この改正電気事業法において，電気料金の認可制，会計の整理，供給義務，電気事業に対する業務検査と監督命令，電気事業設備に関する公益命令その他の規定が新しく加えられ，或いは強化された。

この法律はその後若干の改正はあつたが，昭和25年に公益事業令が施行されるまで，約20年にわたり近世の電気事業の基本法令として重要な役割を果したものであり，またその中の規定は，後述するように，現在なお実質的にその効力を有している。

改正電気事業法に基ずき，昭和7年11月に，電気事業法施行規則（全文改正），自家用電気工作物施設規則（全文改正），電気工作物規程（全文改正），電気事業主任技術者資格検定規則（全文改正），および電気事業会計規則の諸省令が制定され，また，昭和10年に発電用高堰堤規則，電気用品取締規則，電気工事人取締規則，発電用汽機汽罐取締規則がそれぞれ制定された。

(4) 電力国家管理および配電統制関係法令の制定

電気事業が公益事業としての重要度を高めるに伴い，電気事業の統制強化または電力の国家管理の問題がおこり，満洲事変勃発後の国際情勢の悪化にともない，特に昭和12年支那事変の勃発と共に電力の国家管理が強調され，昭和13年4月，電力管理法および日本発送電株式会社法が制定された。

これにより，昭和14年からは発電および送電は原則的に政府が管理し，主要な発送電事業は一括して日本発送電株式会社に行わしめることになつたが，配電事業についても統制強化の必要から，昭和16年8月，国家総動員法に基ずき，配電統制令（勅令）を公布施行し，全国の配電事業者を9つの新しい配電会社に統一して昭和17年4月に新配電会社が設立された。

一方支那事変の勃発以降急激な電力需用の増加と新期発電所の建設難と相まつて，昭和14年以降電力の不足を告げるに至り，昭和14年10月，電力の需給調整を目的とし，国家総動員法に基き，電力調整令（勅令）が公布された。

終戦にともない，国家総動員法は廃止され，これとともに，本法に基ずいて制定された配電統制令や電力調整令は失効することになつたので，これらの勅令中必要な規定を生かすため，昭和21年9月，電気事業法の改正が行われた。また電気工事人取締規則は，法律に根拠を有しなかつたので，新憲法の施行にともない廃止された。

(5) 公益事業令および電気事業再編成令の制定

昭和25年11月に当時の連合軍総司令部の命令により，ポツダム政令として電気事業再編成令（昭和25年政令第342号）および公益事業令（昭和25年政令343号）が制定され，電力管理法，および日本発送電株式会社法は廃止され，従来の日本発送電株式会社および9配電会社は解散し，昭和26年5月新しく9つの電力会社が設立され，それぞれ発送配電を一貫して電気事業を行うことになつた。

公益事業令は電気およびガスの両事業に対する監督法令であり，昭和25年12月15日から施行されたが，この政令の施行に伴い，長年にわたり電気事業および電気施設の基本，法令としての電気事業法は廃止された。しかし公益事業令は，事業運営の調整などを主たる目的とするものであつて，電気施設の保安監督等は別に新しい法律を制定して行うこととし，それまでの暫定措置として公益事業令の付則第3項において旧電気事業法中，電気工作物や電気用品に関する規定は，新しい法律が制定施行されるまでは，その効力を有するものと定めた。

(6) 電源開発促進法制定

終戦後，電力需用は一時著しく低下したが，その後急激に増加し，一方電源開発は，戦時中および戦後暫らくはみるべきものがなかつたので，電力需給の著しい不均衡を生ずるようになつた。昭和25，26年頃から，電源開発も漸く軌道に乗るようになつたが，電源開発を一段と促進し，電力需給の不均衡の速かな解消を図るため，昭和27年7月電源開発促進法が制定された。またこの法律に基ずいて，電源開発株式会社が同年9月に設立された。

(7) 公益事業令の失効と電気に関する臨時措置に関する法律の制定

昭和27年4月，講和条約の発効にともない，すべてポツダム政令は，その日から180日限りでその効力を失うことゝなり，継続して効力を必要とするものは，その間に国会の審議を経て法律として施行されることになつた。公益事業令についても，その効力を当分の

間延長する趣旨の法律を国会に提出してあつたが，たまたま衆議院の解散にあつてその審議が間に合わず，公益事業令は，昭和27年10月24日限り自然的にその効力を失うことになり，その後一時的に電気に関する法律の空白期間を生ずるに至つたため，昭和27年12月27日電気及びガスに関する臨時措置に関する法律（昭和27年法律第341号）が制定され，新しい法律が制定施行されるまでは，電気に関する法的規制は，旧公益事業令の規定の例による，すなわち，公益事業令そのものはすでに効力を失つてしまつた法令であるが，公益事業令で規制していた通りの規制を行うということになり，実質的には，旧公益事業令の効力が復活継続されることになつた。従つて公益事業令の付則により暫定的に効力を有するものとされた旧電気事業法中の10箇条の規定もまたその例によることになり，新しい法律が制定されるまでは，実質的にその効力を有することになつた。なお，昭和29年4月，ガス事業法の施行にともない，上記の臨時措置に関する法律は，電気に関する臨時措置に関する法律とその名称が改められた。

上記法律の施行にともない，通商産業省令として電気及びガスに関する臨時措置に関する法律施行規則が制定され旧公益事業令や旧電気事業法に基ずいて制定された省令で昭和27年10月24日に効力を有していたものは，同じくその規定の例によるものとされ，実質的にそれらの効力が復活されることになつた。なお，上記の臨時措置に関する規則は，昭和29年4月電気に関する臨時措置に関する法律施行規則とその名称が改められた。

II　現行電気法規の体系

現行の電気関係の法令は，過渡的な極めて複雑な体系となつているが，これを取りまとめて概述すれば下記の通りである。

現在電気関係の主要な法律としては，電気に関する臨時措置に関する法律（昭和27年法律第341号），電気測定法（明治43年法律第26号）および電源開発促進法（昭和27年法律第283号）の3つの法律があり，この外特殊なものとして農山漁村電気導入促進法（昭和27年法律第358号）がある。

(A)　電気に関する臨時措置に関する法律の実体的内容は，旧公益事業令（昭和25年政令第343号）の規定と，旧公益事業令の付則第3項によりなおその効力を有するものとされた旧電気事業法（昭和6年法律第61号）中の10ケ条の規定とに分かれる。前者は電気事業の運営などに関するものであり，後者は電気施設などに関するものである。なお，その臨時措置に関する法律の施行に関する政令として，電気に関する臨時措置に関する法律施行令（昭和27年政令第504号）がある。

電気に関する臨時措置に関する法律の規定に基ずく省令は，同様に旧公益事業令本則関係のものと，旧電気事業法関係のものとして大別されるが，これらは又，臨時措置法施行後に制定された新しい省令と，電気に関する臨時措置に関する法律施行規則により，その例によるとされた旧省令とに分類される。

これらの省令のうち主要なものを分類して掲げれば下記の通りである。

(イ)　旧公益事業令本則関係省令

i)　臨時措置規則によるもの

旧電気事業関係公益事業令施行規則（昭和26年公益事業委員会規則第18号）

旧電気の料金算定基準（昭和26年公益事業委員会規則第13号）

旧公益事業令による聴聞及び異議申立規則（昭和26年公益事業委員会規則第11号）

ii)　新しく制定されたもの

電気に関する定期報告規則（昭和28年通商産業省令第18号）

電気事業会計規則（昭和29年通商産業省令第12号）

電気需給調整規則（昭和29年通商産業省令第55号）

(ロ)　旧電気事業法関係省令

i)　臨時措置規則によるもの

旧電気事業法施行規則（昭和7年通信省令第52号）

旧自家用電気工作物施設規則（昭和7年通信省令第56号）

旧電気事業主任技術者資格検定規則（昭和7年通信省令第54号）

旧発電用高堰堤規則（昭和10年通信省令第18号）

旧電気用品取締規則（昭和10年通信省令第80号）

旧発電用汽機汽罐取締規則（昭和15年通信省令第5号）

旧電気事業法第13条に依る障害防止の施設に関する件（大正8年通信省令第91号）

ii)　新しく制定されたもの

電気工作物規程（昭和29年4月通商産業省令第13号）

(B)　電気測定法については明治43年3月制定以来1度の改正もなく今日に至つているものであるが関係の命令としては次のようなものがある。

電気計器の公差，検定及び検定手数料に関する件（明治44年勅令第296号）

電気計器検定規則（昭和12年通信省令第87号）

(C)　電源開発促進法関係の命令としては次のものがある。

電源開発促進法施行令（昭和27年政令第355号）

電源開発促進法第6条第2項の規定による費用の負担の方法及び割合の基準に関する政令（昭和28年政令第104号）

電源開発株式会社業務処理規則（昭和27年通商産業省令第76号）

(D)　農山漁村電気導入促進法関係

農山漁村電気導入促進法施行令（昭和28年政令第40号）

農山漁村電気導入促進法施行規則（昭和28年農林省令第20号）

III　主要電気法規の概要

(1)　臨時措置法関係

i)　電気に関する臨時措置に関する法律

電気事業電気施設などに関する基本法律であるが，公益事業令などの失効にともない，新しい法律が制定されるまでの暫定措置として，旧公益事業令などの規定の効力を実質的に継続するために制定された法律である。

ii)　電気に関する臨時措置に関する法律施行規則

公益事業令などの失効とともにその効力を失つた諸省令に関し新しい法令が制定されるまでの暫定措置として，これら諸省令の規定の効力を実質的に継続するために制定した省令である。

(2)　旧公益事業令（本則および関係規則）

i)　旧公益事業令

この政令は電気事業およびガス事業の両者を規制の対象としたものであつたが，ガス事業に関しては，昭和29年4月，ガス事業法が制定されたので，現在実質的に効力を有するのは，電気に関する規定のみである。

この政令で規定する主要な事項を概述すれば次の通りである。

「電気事業とは，一般の需用に応じ電気を供給する事業又はこれに電気を供給することを主なる目的とする事業をいう」と定義されておる事や，また電気事業は公益事業としての重要性からの事業の創設，変更，休止および廃止については，通商産業大臣の許可を要すること，電気料金その他の供給条件については供給規程を定め，通商産業大臣の認可を要すること，「電気事業会社の会計は省令で定めるところにより処理しなければならないこと，電気事業者は，正当な事由があるのでなければ，何人に対しても電気の供給を拒んではならない」と供給義務を課してること，電気の需給の調節の為め通商産業大臣は規則を定めて，受電の認可，電気の使用制限を行うことが出来ること，通商産業大臣は発電水力の調査を義務ずけられていること，公益事業令の規定に基ずく重要事項の処分を行おうとするときは，通商産業大臣は聴聞を行うことを義務ずけられていること，また公益事業令または関係省令の規定による通商産業大臣の処分に不服のある者は，通商産業大臣に対して異議の申立をすることが出来ること，および電気事業者の電気工作物の施設や保守について種々の特権を与えておること等である。

ii) 電気事業関係公益事業令施行規則

公益事業令の規定による許認可の申請，届出などに関する手続などを規定したものである。

iii) 電気事業会計規則

電気事業の会計の整理方法について規定している。

iv) 電気需給調整規則

電気の需給調整に関して規定したものであるが，その主要な内容は，受電認可と，電気使用制限とからなつている。受電認可については，9電力会社から 500KW 以上の受電電力の容量をもつて受電し，電気を使用しようとするものは，電気の用途，受電電力の容量および受電電力の使用条件について通商産業大臣の認可を受けなければならないことを規定し，電気使用制限については，電力需給にいちじるしい不均衡を生じ電気の使用制限を行わなければならなくなつた場合の制限の方法について規定している。

(3) 旧電気事業法および関係規則

i) 旧電気事業法

現在実質的効力を有するものは，旧電気事業法中電気工作物および電気用品に関するわずか10条の規定のみで，その主要な内容は次の通りである。

(イ) 電気事業者は，行政官庁の認可を受けなければ工事を施行し，又は電気工作物を使用してはならない。

(ロ) 電気工作物相互間及び電気工作物とその他の工作物との間における障害防止のため必要な施設に関する事項を命令で定めること。

(ハ) 電気用品の効用の増進又は危険の防止に関する事項を命令で定めること。

(ニ) 行政官庁は電気事業者に対し，電気工作物及びその工事に関し検査を行い，又は報告をさせることが出来ること，また改築，改善その他監督上必要な事項を命ずることが出来ること。

(ホ) 自家用電気工作物施設に関する規定を命令で定めること。

ii) 旧電気事業法施行規則

電気事業用の工作物について，主として工事および電気工作物の使用に関する認可申請，届出などの手続および保安業務並びに行政官庁の行う検査に関して規定している。

iii) 旧自家用電気工作物施設規則

自家用電気工作物，すなわち，電気事業用以外の電気工作物について，主として電気工作物の施設，変更および使用の手続，主任技術者の選任，保安業務並びに行政官庁の行う検査および監督命令について規定している。

iv) 旧発電用高堰堤規則

発電用の堰堤は，電気工作物として，旧電気事業法施行規則または旧自家用電気工作物施設規則の規定の例による取締を受けるが，高堰堤は，危険度の高い工作物として，さらにこの規則に特別の監督規定が設けられている。

この規則は，高堰堤すなわち，基礎地盤から堤頂までの高さ 15m 以上のものに適用される。岩盤検査，湛水の届出，堰堤主任者の選任，堰堤操作規程の制定，堰堤に関する諸報告，検査および監督命令などについて規定している。

v) 旧発電用汽機汽罐取締規則

発電用の汽機，汽罐などは，高堰堤の場合と同様に危険度の高い工作物として，この規則に特別の監督規定が設けられている。規則の内容は汽機または汽罐の構造設計の認可，汽罐またはその附属設備の主要耐圧部分についての溶接の認可および検査，汽機または汽罐の据付中検査および定期検査，汽機汽罐主任者の選任，監督命令などである。

vi) 旧電気事業主任技術者資格検定規則

電気事業主任技術者の資格検定について規定したものですが，第1種，第2種および第3種の資格の区別，試験検定と詮衡検定の別，資格試験の方法および試験科目などについて規定している。

vii) 旧電気用品取締規則

絶縁電線，コード，電線管および金属線樋（附属品も含む），ヒューズ，開閉器，屋内用小型スイッチ，接続器（普通ソケットといわれているもの丶類），電熱器，小型電動機（この中には扇風機，電気洗濯器，電気冷蔵庫なども含めている），小型変圧器（この中には電鈴，電圧調整器，螢光放電灯用安定器なども含めている）および電流制限器の11品目の電気用品について，それらを製造しようとする場合の品目別の製造の免許，細目表に定める型式の別などの型式承認，検査および監督命令などについて規定している。

viii) 電気工作物規程

電気工作物に関する事項，電気工作物相互間の障害を防止するために必要な施設に関する事項，および，電気工作物とその他の工作物との間の障害を防止するために必要な施設に関する事項について規定している。しからばいかなる観点から定められているか，これを分類して見ると次のようになる。

イ) 人畜の感電防止

これは電気工作物規程では最も重視している事項であり，接触による危険防止，低圧電路に高電圧侵入の危険防止，地表面における危険な電位傾度の発生防止などを規定している。

ロ) 火災事故の防止

電気工作物からの漏電，アーク，電線の過熱などに基因する建物などの火災事故の防止を規定している。

ハ) 電気工作物相互間および電気工作物と他の工作物との接触などによる障害の防止電線の切断，支持物の倒壊，傾斜などの際の危険防止のため，相互間の離隔や強度などを規定している。

ニ) 他の工作物に対する電気磁気的障害の防止

通信線に対する誘導障害，無線設備に対する電波障害，地中管路に対する電蝕などを防止するよう規定している。

ホ) 電気工作物自体の安全確保

事故の発生を少なくし，電気供給を確保するため電気工作物自体の施設規準を定めている。

ヘ) その他

絶縁抵抗の測定および測定値の記録義務や電線路を施設する際の関係工作物施設者との連絡規定なども定められている。

(4) その他

i) 電気測定法

オーム，アンペア，ボルト，ワットなどの電気単位を定めるとともに，電気計器の検定について規定している。

ii) 電源開発促進法

この法律はその第1条に規定されているように「すみやかに電源の開発および送電変電施設の整備を行うことにより，電気の供給を増加し，もつてわが国産業の振興および発展に寄与することを目的」として制定されたもので，その主要な内容は，

(イ) 内閣総理大臣が電源開発について基本計画を立案し，電源開発調整審議会の議を経てこれを決定し，かつ公表する。

(ロ) 総理府に電源開発調整審議会を設け，電源開発基本計画，所要資金の調達および配分，電源開発担当者，電源開発の規模および方式，水および土地に関する権利の調整，損失の補償，総合開発の場合の費用の負担方法などを審議する

(ハ) 主として政府の出資による，電源開発株式会社を設立し，大規模開発地点などの開発および関係送電変電施設の整備に当る。

などである。

iii) 農山漁村電気導入促進法

この法律は，「電気が供給されていないか，または充分に供給されていない農山漁村に電気を導入して，当該農山漁村における農林漁業の生産力の増大と農山漁家の生活文化の向上を図ることを目的」として制定されたものである。

その主要な内容は，都道府県知事が農山漁村電気導入計画を定めて農林大臣に提出し，農林大臣は通商産業大臣と協議の上，毎年度の全国計画を定めること，電気導入のため必要な資金の政府から農林漁業団体に対する貸付，農林大臣の指導，電気導入に関する農林漁業団体と電気事業者間の紛争についての通商産業大臣の裁定などである。

iv) その他の関係法規

電気事業および電気工作物は，多くの事業と密

接な関係を有し，かつ，その施設は広範囲な地域にわたるので，電気と直接関係のない他の法令とも，広く大なり小なりの関連を有しているが，その主要なものをあげると，河川法，道路法，農地法，鉱業法，土地収用法，国土総合開発法，国立公園法，建築基準法，消防法，木材防腐特別措置法，有線電気通信法，電波法，地方鉄道法，軌道法などがある。

IV　新電気事業法の制定準備

現行電気法規は，電気測定法，電源開発促進法，農山漁村電気導入促進法のような特殊のものを除き，前述のように過渡的な極めて複雑な法体系となつているので，速かに新しい法律の制定が必要とされている。

通商産業省では「電気及びガスに関する臨時措置に関する法律」の付則の規定に基き，同省に「電気及びガス関係法令改正審議会」を設置して昭和28年2月以降十数次におよぶ審議を経た後，同年8月結論を得て通商産業省では新法律の制定準備に着手した。そのうち，ガス関係については，比較的政治問題も少なく，国会の審議を経て，昭和29年3月ガス事業法の制定を見るに至つたが，電気関係については諸般の情勢から国会の提出は見合わせられて現在におよんでいる。新電気事業法案の内容は正式には公表されていないが，改正の内容として一般に知られている事項のうち，電気技術者に特に関係の深い事項について，その概要を説明すれば次の通りである。

(1)　一般用電気工作物の保安責任

現今法令においては，自家用電気工作物以外の一般需用者の電気工作物は，その所有は原則としてその施設される建物などの所有者に属するが，その保安については電気事業者がその任に当ることになつている。しかし，住宅への立入困難その他の事由から，電気事業者がその保安について責任を負うことは電気事業者として非常な困難が伴うので，電気事業者の保安責任を解除し，電気事業者に対して単に定期的な電気工作物の調査義務のみを課することゝしている。

(2)　技術基準明確化

電気工作物に関する技術基準としては，現在電気工作物規程があるが，その内容は主として電線路および電気使用施設に重点がおかれ，かつ，その規定するところも必要とする事項を全部網らしておらないので，之を改め技術基準を明確にし，電気工作物の施設者がこれに従つて電気工作物を維持する義務を負う外，行政官庁の認可，検査および保安命令もすべてその技術基準に基ずいてなされることになつている。

(3)　電気用品の取締強化

電気用品の取締については，現在の製造免許および型式承認の制度を1本として型式の認可とする外，型式の認可に有効期間を付することゝしている。また現在の電気用品取締については，販売店の取締の規定がないが，新法案においては之を加え取締の強化を期している。

(4)　電気工事人の取締

電気工事人制度は，昭和22年に廃止され現在に至つているが，之を復活し，電気工事人免状の交付を受けているものでなければ，一般用電気工作物に関する工事の作業に従事してはならないことゝしている。

(5)　電気主任技術者制度の明確化

電気主任技術者は公益事業令が制定された際に，電気事業についてはその制度が廃止され，現在は自家用電気工作物についてのみその制度が設けられているが，旧電気事業法におけると同様，電気事業においてもその選任を必要とするよう改めている。

(6)　電圧および周波数の確保義務

旧電気事業法においては，電圧および周波数に関する規定があつたが，公益事業令においては削除された。新法案においては，電気事業者は電圧および周波数の変動を規定値内におさめるように努めなければならない旨を規定するとともに，この限度をこえる場合は，通商産業大臣はその改善命令を発することが出来ることゝしている。

(7)　電気工作物に関する事業特権の強化

一般電気事業用の電線路設置のための他人の土地の使用，電気事業用の電線路の測量または実地調査のための他人の土地の立入の特権などの規定を追加または強化し電気事業の保護助長の措置を講じている。

（終り）



盛岡市の沿革

蝦夷地より起つた盛岡市の沿革と云えば相当の歴史的な古さをもつ。平安朝の初期に征夷大将軍坂上田村麿が来攻し，その拠点として盛岡より南方約15粁に志和城を築くに至つて中央政府の統轄する所となつた。以後安倍・清原・藤原・工藤氏等地方豪族の領有下にあつたが工藤氏滅亡後は南部氏に属した。南部氏はその祖光行が頼朝に従い平泉攻略の武攻に依り奥州糖部5郡に封ぜられて後，代々三戸を居城としていたが，その勢力が漸次南方に伸びるに及び26代信直が北上，雫石，中津の3川の合流地点で北上盆地の沃野の地を選び軍事的要衝の地でもあり且つ景勝の地でもあつた不来方（コズカタ）の地に築城し，40数年を費して慶長4年竣工し此の地に拠つたのである。これが盛岡の始りである。約360年前27代利直に至つて城下町として内容整い文禄2年より約19年間で市街の規模を形成するに至つた。爾来明治維新に至る迄南部氏の城府として栄えて来たが，明治3年廃藩置県の際に盛岡県を置き，後岩手県と改称して県都として今日に及んだのである。地名は最初不来方と呼ばれていたが利直の時代に緑の森の点在とその風光を賞で森ケ岡と改め更に元禄4年愈々栄える地として盛岡と改称したのである。

みちのくの京都

盛岡は風光明眉な四季の雅趣に富んだ山紫水明の地であり，そしてその昔南部領内は到る所鉱山に富み金・銀その他の産出頗る多かつた所謂ゴールドラツシユの為と又代々の藩主の奨励に依り馬産地として名声をはせた事等が，古来より都との交易を盛んなものとし早くから中央文化の影響をうけ，人心も都人の気風に合して次第にみちのくの小京都と呼ばれるものを形づくつたのである。この様な事から城下町盛岡はみちのくの京都として今日尚，したしまれている。

この「黄金」と「馬」のもたらした繁栄の史料に勝る史料として最も手ツ取り早いのが民謡であろう。

〽花は咲く咲く御国（ミクニ）の山は
　どこもかしこも黄金花
　ハアからめて　からめて
　からめた黄金は南部の花だよ
　どんどと吹き出せ。

盛岡の代表的民謡「からめ節」の一節である。民謡の講釈をする訳ではないが，たしか物の本には，「盛岡のからめ節と仙台のさんさしぐれと福岡の黒田節は，雅楽の越天楽に共通した古雅な素朴な格調を持つている。これは三味線に乗せにくい唄である。唄の調子が悪くて三味線に乗せにくいのではなく，日本に三味線という楽器のなかつた時分に出来た唄だからであろう」というように記されている記憶があるが，平泉文化発展の基礎をもたらした当時の活況が偲ばれる所以である。

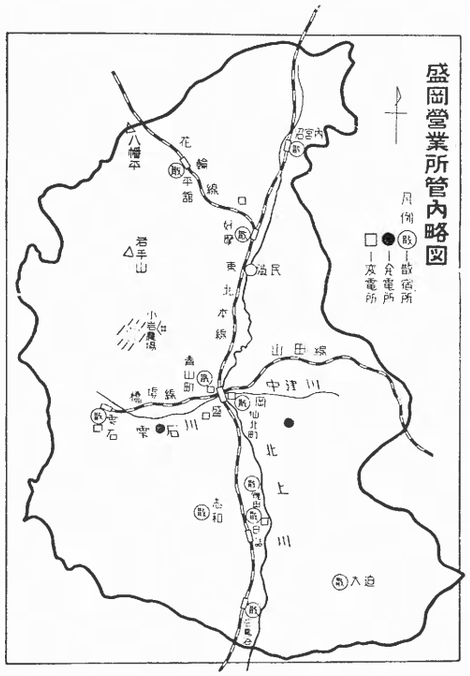
〽黄金花咲くみち細くとも
　おとに聞えた馬市に
　オヤ　都とのごが買いに来る
　南部の駒はヤツコラサツト
　キタコラ三国一サンサエー

古来馬産地として知られてはいるが，この唄はこれらの事情を如実に物語つているのではなかろうか。今尚春秋2回有名な馬市がたつてその頃はいやが上にも市の活気を呈する。盛岡の繁栄の歴史に就ては以上の黄金と馬があづかつて力があつたと云う事を略々御推察願い度い。

盛岡営業所

盛岡市は海抜126米にして北上川の左岸に沿い市街は市域の南西端に位している。東に発源して西流する米内・中津の両川は途中合流して，中津川の名を以て市街の中央を流れ西北より流れ来る雫石川と共に北上川に注いでいる。我が盛岡営業所はこの市街地の中央を流れる中津川に沿つて盛岡駅より徒歩約25分の地に岩手支店と同一社屋に存する。

その前身は明治37年7月に創業された盛岡電気株式会社である。欧米文化の影響をうけて起つた電気事業設立の趣旨も，又全国無数に群雄割拠して今日の統合を見た来歴に就ても各々その変遷・経路は違つたとは申せ，凡そ大同小異すると思われるので現在の姿を述べるに止める。



1. 面積と構成

盛岡営業所管内の町村構成は最近の町村合併により，大きく併合されて1市5町6村に亘り，その面積たるや実に3,512.77平方粁で略々奈良一県の3,600平方粁に匹敵する。従つて当然山間部の地勢が多く，幾多の寒村僻地を擁して今尚未点灯の部落も存する事等から，電力供給業務には躍起とならざるを得ない。

2. 事業概況

発電所名	最大出力
宇津野発電所	250KW
繋　発電所	3,180KW

変電所

三ツ家・東盛岡・仙北町・日詰・好摩・雫石の6変電所となつている。

散宿所　10ケ所

3. 供給量

電灯・電力供給種別調査表

31年10月現在

種別	口数	灯数 KW	KWH	料金額
定額電灯	16,876	38,111	588,354	4,190,314
従量〃	35,466	267,660	1,225,287	11,646,432
大口〃	654	3,959	264,490	2,974,924
業務用電力	34	1,992	335,839	19,023,620
小口50kw未満	5,352	15,591	653,112	6,662,783
50kw～500kw未満	44	3,753	502,838	2,468,255
大口電力	4	7,800	3,340,400	8,417,120

以上の外に特筆したい事は営業面に於ての8月よりの機械化である。5単位鑽孔部負式印刷送受信機（KPP―1型）の設置に依つてこの機械としては我が社管内の先進を行くものとして注視の中にある事である。おいおいの中にはマイクロを利用して送受信の実際化に入るであろうが，現在は試送信の域を出ず専ら穿孔テープの輸送によつて行われている。

―名勝を訪ねて―

国立公園八幡平

29年8月国定公園に指定された八幡平は，我国では

まれに見るアスピーデ火山の密集した地帯で，然もアスピトロイデ，トロイデ，コニーデなどいろいろな火山形態を持ち，後生掛，玉川，藤七温泉をはじめ噴気，噴湯，泥火山等の珍らしい火山現象が見られる。標高1,100米以上はアオモリトドマツ，コメツガを主とする針葉樹の原始林におゝわれ，八幡平の山頂部は高層湿原で湿地性植物が美しく冬は樹氷が美事で，スキー場スキーコースにめぐまれ，割合にたやすく山頂に登れるのがこの公園の大きな特色となつている。

岩手山

いわゆる南部富士と呼ばれている山で，盛岡を距る西北4里にあつて4季秀麗を以て著しい。海抜2,040米の死火山にして夏季登山者多く，東北本線滝沢駅より約2里半である。

小岩井農場

盛岡市の西北岩手山麓の景勝の地にあり，悠然と端座する南部富士の下で群れ遊ぶ等閑な牛，茫々たる草原に頭を垂れる平凡な羊の群，落葉松の林をぬけ行く南部駒の勇姿，こゝでなくては見られぬ絵の様な風景をもつた一大ユートピアでもある。この大農場は明治の中期小野・岩崎・井上の3氏によつて始められ頭文字をもつて小岩井と命名されて今日に至つている。

渋民

云わずと知れた天才詩人啄木の生地である。北上の川辺に沿つて

「やわらかに柳青める北上の
岸辺目に見ゆ　泣けと如くに」

と記した碑が立つてある。こゝは観光施設をなんらもたない昔乍らの寒村ではあるが，当時の啄木を偲ぶには反つていゝかも知れない。

擬宝珠

盛岡は水の都でもある為実に橋が多い。その中でも市の中央をつないでまたぐ上の橋・下の橋は慶長年間来の擬宝珠が取付られ柳の背景に彩られて情緒床しく京都を彷彿せしめている。この擬宝珠は南部家12代六郎政行が京都に勤務中，北野あたりで春鹿が鳴くので天皇は非常にこれを忌み，洛中，洛外に触れて歌伏せよとの事で「春鹿」という題を出された。政行は

「春霞秋たつ霧にまかわねば
思い忘れて鹿や鳴くらむ」

と詠んだところ鹿の鳴声もピタリととまつた……。天皇はこれを名歌なりとして賞め，従5位に叙し遠江守に任ずると共に松風の硯（南部家公宝の一）を給い，また加茂川の橋の擬宝珠を国に持ちかえり，飾つてもよいと許された。そこで政行はこれを三戸城下熊原川にかざつたが盛岡に居を移すと共に中津川の上・中・下の3橋につけたのであるが，現在は上の橋と下の橋に残つている。

高松の池

市の北郊にあつて盛岡唯一の遊園地である。周囲約4粁南部富士の姿を浮べ，春は爛漫桜花に埋れ，夏は緑陰の水辺にボートの遊び，秋は綿繍の綾なす紅葉，冬は銀鏡の池にスケートの乱舞を呈しており，曾つて第3回の冬季団体が開催されている。

繋温泉

源義家が父頼義と共に安倍氏一族の追討に来攻せる前9年の役，この地に馬をつないだ事から繋と称されたそうであるが，此処は鞍ケ森山の西麓海抜200米の高所にあり岩手山と相対し雫石川がその裾を流れる閑寂郷で附近に高倉スキー場がある。温泉は単純硫化水素泉で温度は71Cと云われる。因にこゝはうちの保養所があるから来盛の折は是非お立寄り願い度い。

石割桜

「ハア城下盛岡七重八重
石の中にも花が咲く……。

盛岡の代表的な名所として知られ，唄にまで唄われている石割桜は，盛岡地方裁判所庭内にあり天然記念物に指定されている。石の周囲22米露出せる石の高さ1.7米の花崗岩の巨石の中央割目に生育する白彼岸桜である。樹齢約250年，樹高は石の上面より約5.2米四方に枝を発して春は爛漫の花を咲かせる。「忍耐に富み岩をもさいて初志を貫く盛岡人にも似た姿」として広く賞愛されている奇木である。

以上名勝名所として主なものを拾つて見たがその他報恩寺5百羅漢堂や平民宰相原敬の眠る大慈寺等があ

る。

—年 中 行 事—

チヤグチヤグ馬ツコ

盛岡名物のチヤグチヤグ馬ツコは毎年旧の5月5日端午の節句の朝，馬の安息日とし息災を意味して金銀紅紫の装具に美しく扮飾を凝らした馬に，チヤグチヤグ鈴をつけ轡とる若衆は新しい菅笠に紺の股引，豆しぼりの手拭をかけて，市の郊外茨島の蒼前社（駒形神社）に詣でるのであるが美くしく着飾つた一鹿毛2青3栗毛連銭芦毛に鞍置いて，これも可愛いらしく着飾つた稚児を馬上にしての南部駒の行列が市街をねつて歩く様は，如何にも馬の産地ならではである。

裸 参 り

次には毎年正月15日の凍てついた寒夜にくりひろげられる裸参りがあるが，これに就てはいつかの社誌に紹介してあるので割愛させて頂くことゝする。

舟 ツ コ 流 し

夏の行事としては舟ツコ流しが北上川で行われる。盆の16日夏の太陽が西にかげつて茜（アカネ）色となる頃，黄泉の霊をおくる為美しく満飾されてしつらえた幾隻もの聖霊舟が両岸に陣どつて，カネや太鼓と多数の僧侶の読経の音が重くあたりを覆する中に，静に川面に放たれ綱をひいて引導する屈強の若者の「ワツショワツショ」の掛声と共にやがて火が放たれる。その紅蓮の炎が炎をよび狂つたように逆巻きのぼる煙が夏の夕空を真黒に染めて，人々の合掌をうけ乍ら遠く少さく燃え続けて行く様は霊をおくるにふさわしく，むしろ哀切を覚える。

山 車

秋の行事は県社八幡宮祭典の奉納山車である。山車に就ては何処でも之に類しているだろうから，あえて筆にするようなユニークなものでもないと思われるので詳述しない。

これらの盛岡人が長い間培つてきた四季おりおりの情緒ある行事は盛岡を語るになくてはならないものとされている。

—名物あれこれ—

南 部 鉄 瓶

盛岡の特産品は鉄瓶である事は自他共に許すところであろう。南部鉄瓶の創業は遠く桃山時代に始り歴代藩主の奨励に依り技術の進歩を見，名工輩出して南部釜の名声を斯界に博するに至つた。3百年の伝統と撓まぬ技術に依り南部特有の雅趣に富む作風は，正に芸術品としての価値を呼んでいる。

盛 岡 り ん ご

先号の社誌に青森りんごの紹介記事があつたのでこの際盛岡りんごに就ても是非因つて来る所以を述べ，改めて御認識して戴きたい所存から記して見たい。

その品質の名声を得る盛岡りんごは勿論特産品の一つではあるが青森の大量産出に追いやられて蔭が薄い事はその宣伝下手に依るのかも知れないが，創業の歴史と云い，今尚誇るその品質の良さは正に天下一品である。中央のたびたびの品評会等における盛岡りんごはいつもその殆んどが特選優秀の上位を占め，決して他の追随を許さぬものがあるが，これには次の様に偉大なる創業者があつたればこそである。御多聞に洩れず明治維新によつて禄を失い，その日のたつきに追われる旧藩士の新しい生活の方向は深刻なものがあつた。南部藩士の古沢林氏もその一人であつた。彼は僅かに残された祖先伝来の土地をもつて如何にすれば多くの収益が上るかを思いなやんでいたが，偶々上京して，日本橋の傍にあつた農学社を訪れ，そこにはしなくもプロシヤ人のカルドネールに会つた。こゝで盛岡の気候風土に合致し，更に狭い土地から最大限の収益を得るものにりんごのあるを知り，敢然りんご栽培に熱中したのである。

明治5年5月横浜に輸入されたばかりのりんご苗木16本6種を自ら出向いて買入れ，現在の盛岡市中野小学校々庭に植えたのが今日の盛岡りんごの創業である。そして明治9年7月には，折から東北御巡幸の明治天皇に時の島県令を通して献上され，周囲1尺1寸4分高さ3寸3分という見事さで陛下の旅情をおなぐさめ申したと云う事である。

盛岡りんごの初成りは明治12年で11月には西南戦役も終り世相も次第に文明開化に移り変つた頃，古沢苦

（41頁へ）



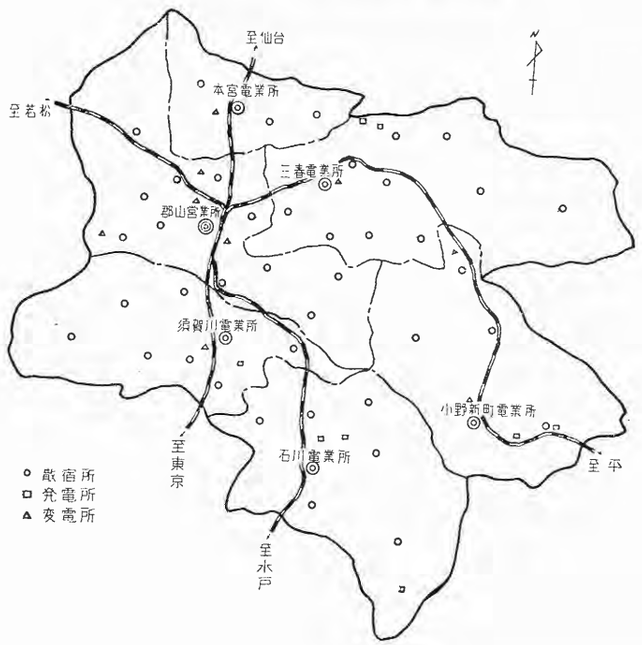
営 業 所 概 況

郡山営業所は福島県の中央阿武隈川の流域安積平野の中心にある郡山市にあります。これからその郡山営業所からのお便りをするのでありますが，余りむづかしいことは抜きにして，皆様に気軽に読んで頂ける様なお便りにしたいと存じます。然しその前に一応当営業所の概況だけでも申し上げましょう。営業所管内は郡山市とその周辺を除いては，大体農業に従事し，農家戸数は，約4万戸（県全体の24%）耕地面積は約4万8千町歩（県全体の27%）となつておりますが，郡山市は磐越東線，磐越西線，水郡線の分岐点となり，又市を基点とする放射状のバス路線の発達と相俟つて，所謂新興都市的様相を呈し，県下工業の中心となると共に，東北有数の工業都市となつて居ります。従つてその需用構成も（31.3.31現在）

口数に於て	電灯	92%	電力	8%
KW 〃	〃	21〃	〃	79〃
KWH 〃	〃	11〃	〃	89〃
料金 〃	〃	32〃	〃	68〃

となり，又電力需用2億4千万KWの産業別使用量（30年度）を見ると，化学工業が，1億2千万（49%）第一次金属製造業が7千3百万（31%）で，計80%を占め，今後もその発展は大いに期待され，36年度迄にはKWに於て2.25倍になると予想されておる様な状態で，常磐炭田等の石炭鉱業を中心とした平営業所管内とは又趣きを異にした特異な存在となつて居ります。又これとは別にお話ししなければならぬものに「安積疏水」と「猪苗代湖」の問題があります。

安積疏水の資料　明治の新政府は殖産興業と士族授産に重点をおき，その国策を



進めましたがその一つとして，旧各藩士族の移住による安積原野の水利開墾を計画し猪苗代湖疏さくを実行した。疏水事業としては我国の２大双壁と謂われる，猪苗代湖よりする安積平野への安積疏水が完成され（明治12年10月27日着工明治15年10月１日完成）所謂安積20万石の美田が開墾されたのです。疏水は現在，新水路の拡張が計画され32年度にはその着工が予定されております。又これと関連して，東京電力の電源として極めて重要な位置を占めると共に我が東北電力の電力の調整に重大な影響を持つ猪苗代湖の利用……漸々湖面低下問題として謂われるものがあります。尚本年８月の豪雨の際には，猪苗代湖の標準水位と，これに伴う放水による人工洪水の問題等があります。これらは論ずれば誠に大きな問題でありますが，隣の若松営業所にも関係がありますので，今回はその問題の所在だけを御紹介することにします。

営業所概況（31.10.30）

従業員	442名	（内女子24名）
電業所	5（150名）	（6名）
散宿所	41（43名）	
発電所	8（39名）	認可最大出力3,155KW
変電所	9（43名）	認可出力129,450KVA
給電指令所	1（18名）	
保線所	1（20名）	
通信所	1（4名）	
配電線亘長	高圧 1,767,569M	低圧 2,246,058M
	計4013,627M	
管轄区域	（31.10.1現在）2市16町18村	2,419KM²
	人口489,322人（１平方粁当り約200人）	
	世帯数 83,829世帯	
電柱数	68,622基	
配電用変圧器数	3KV用9,108台	45,554
	6KV用69台	336KVA
添架電話線亘長	470,053M	

郡山営業所の沿革も述べれば，種々のエピソートもありますが，ただ明治29年に郡山絹糸紡績電気部として発足し，さきに述べた安積疏水を利用する沼上発電所（700KW）が，東北最大の発電所として建設されると同時に日本最初の特高遠距離送電線が施設されたことだけに止めておきます。又現在焦眉の問題としては，現営業所建物の移転のことがあります。これは新国道４号線が現在建設を急がれており，これが郡山市街を南北に貫通するのですが，丁度営業所の建物に真正面から衝突してしまつた訳です。すでに一般の建物は安全に移転し舗装も殆んど間近まで完成し，全く孤立の状態に立ち致つた訳です。これが移転については関係者間に種々折衝が重ねられ最近漸く解決への見通しがついた様ですがこれが，実現にはまだまだかも知れません。それまでは道路の真中の煉瓦の３段階の建物として有名になつて居りますが，新築の暁にはその素晴しさが亦郡山の良い意味での名物となることだろうと，従業員一同期待して居ります。郡山市の名所と云えば，古い処では市内で営業所より２分位の処の高嶽山如宝寺の指定重要文化財，如宝寺の国宝の石造笠塔婆，板石塔婆があります。新しい処では開成山の桜が，かつて全国桜番付に三役の貫禄を示しており遠近の観客に親しまれ喜ばれて居ります。亦五百渕はもと名倉池と云われ風光明媚な遊園地であり，野鳥の多いので知られて居ります。郡山市とその周辺については簡単ですが以上で終り，次には地方色豊かな各電業所の模様をお伝え致します。

本宮電業所

東北本線で仙台から参りますと一番最初の当管内の電業所が本宮電業所です。こゝは蛇の鼻の牡丹園があります。電業所よりバスで10分西方約1.5KMの処です。こゝは須賀川の牡丹園と共に福島県下の二大牡丹園と呼ばれ，園内の，大小２つの池の囲には数百本の桜樹があり，千数百株に及ぶ牡丹の珍花をはじめ，数百株のつゝじ，藤，芍薬，それにもまして数えきれないほどのチューリツプ，更に５丁歩余に亘る梨園と桃園，そして又椿，梅，山茶花の並木道と，全くこの世の花のパラダイスを眼前に展開しその花期には遠近からの訪客で一大盛況を呈します。趣きの変つた処では建寿元年天台の中祖慈覚大師の創立されたと云う岩角寺が電業所の東方約６KMの岩角山の麓にあります。山中には奇岩巨石の屹立して，これに西国33番の観音像その他の仏像が刻まれ，老杉大木に囲まれ又とない閑雅幽邃な雰囲気を醸し出して居ります。又この山にある毘沙門天は霊験あらたかな神様として毎年初寅の夜中詣りには数万人の善男善女が各地からお参りに集ります。電業所の南約10KMの所で旧白岩村（現在は白岩村と和木沢村と合併し白沢村）と謂う処があります。こゝには大昔から大きな白い岩があり，又山の頂上などにもこの白い岩の大きな露頭が見られ村人達はこの岩を神聖視して神社に祭つたりして居ましたので附近の人々から白岩村と呼ばれる様になりました。処がこの白い石が時代の脚光を浴びる様になりました。これは硅長石だつたのです。今日では阿武隈山脈のあちこちで採堀されて居りますが，この白岩村のものは質，量共に優秀なものであります。これはレンズ，フイルター，クリスタルグラス，陶磁器の上薬の原料，硅素鉄の重要な原料として国内に移出され，電業所管内の特殊な産業として注目されております。

須賀川電業所

本宮電業所より汽車で約50分，郡山営業所よりは約20分で須賀川電業所です。須賀川の牡丹園は昭和７年10月文部大臣から名勝として指定されてから，一躍其の存在を天下に大きく知られ，東洋一と称されて居ります。その沿革は遠く明和年間の昔，須賀川の薬種商伊藤祐傭という人が商用で関西方面に旅行の途次摂津の国本山村からその根を薬用にする目的で牡丹の苗を数本求めて帰り栽培したのが，その初まりであると伝えられて居ります。又この園は須賀川城主二階堂氏の下屋敷であつたとも云われますが，この造園形式は薬草園の跡であるとも鑑定されても居ります。牡丹の栽培面積は4,800坪，種類150余種，3,000余株ありその他につゝじ，芍薬，バラ，チューリツプ，石楠の花等牡丹と相前後して咲き，百花の王者牡丹の雄姿と研を競いその花園を松，欅，楢等の喬木林が囲み更に幽邃なる風致を沿えて居ります。

日本三大火祭の一つと称される行事に「松明あかし」があります。この行事の起源は遠く天正17年の秋，時の須賀川城（城主二階堂氏）の落城哀史に発する。即ち奥州の雄，伊達政宗は会津黒川城を陥し会津勢を合流して須賀川城へ向つて大軍を進めて来た。やがて10月10日城内の武士はもとより領主の善政を慕う町民，百姓まで手に手に武器，松明をとり東の丘に集合万に一つの勝算もない迎撃の作戦を深更までこらし，その明りは炎々と夜空をこがし下の流れにあかあかと輝いた。同月26日の払暁を期して伊達勢は城の三方から怒濤の如く攻めよせ，二階堂勢はこれを迎え善戦力斗したが遂に敵せず城は忽ち焔に包まれてしまい間もなく訪れた雪の下にその焼跡を埋めていつた。この落城から幾星霜，須賀川城下の人々はその英霊を弔う為に伊達勢迎撃の対策を練つた東の丘に，時も10月10日当夜の如く松明を持つて集つたのがその起源であると伝えられます。現在では旧暦10月10日市街の東妙見山公園とその北の赤禿山の一帯で行われます。市内に鎮座する二階堂神社の御神火が青年の奉持する松明に移され日没の６時頃赤禿山に到着，同山頂に設備された御神火台に火を移します。宵闇の山頂に赤々と御神火が焼え上ると，これをきつかけに同山妙見山周辺に日没前から待機していた数千の市民が各自の松明に点火し，こゝに「松明あかし」が展開されます。松明の大なるものは周辺１丈余，高さ5,000尺に及ぶものから小は竹棒の先に布を丸めて下げたものまで，無数の松明が全山を右往左往し，又多数の仕掛文字が点火され，炎々と燃えさかり夜空を焦がす盛観は凄壮と云おうか，豪快と云おうか，筆舌に尽き難いものがあります。話を風流な方に転じますと元禄２年４月下旬芭蕉が奥の細道行脚の途次，須賀川の俳人相楽等躬の処に滞在した折，庵の辺りの栗の木を見て

〽世の人の見つけぬ花や軒の栗〽

と詠み，又阿武隈川本流にかゝる丈余の大断層で乙字形の滝をなしておるので乙字が滝の名のある景勝絶佳の地を訪ね

〽五月雨の滝降りうづむ水かさかな〽

と詠んだと奥の細道紀行に記録され，又現在その句碑が残されております。

三春電業所

郡山より磐越東線に乗り換えますと20分で三春電業所に参ります。こゝで有名なものには皆様も充分既に

御存知だと思いますが「三春駒」があります。延歴14年坂上田村麻呂将軍が三春の大滝根山に住む大多鬼丸と云う夷賊征討の為，平安京を出発するに際して京都清水寺の開祖の帰依僧延鎮上人から5体の仏像を刻んだ余材で鞍馬100匹を刻み将軍に贈りました。将軍はこれを鎧櫃に収め征夷の途に上りましたが，官兵は遠路に疲れ悪戦苦斗を続けました。この時鞍馬100匹が何処よりとなく現われ兵士達はその助けを得て凱歌を奏することが出来ました。所が凱旋の時には不思議な鞍馬は烟の如くその行方が知れません。然るに翌日一足の木馬が三春近在の高柴村に全身汗まみれになつているのを杵阿弥と云う者が見つけました。これは延鎮上人の木馬に相違ないと伝え聞えて自ら残りの99匹を刻んで補つて子孫に伝えました。杵阿弥の子孫は更にそれを模作して村人や里の子供に与えたところ，不思議にも木馬を喜ぶ子供は弱者も強く育ち，子なき家には子宝が授かりますので子育馬の名が立ち今全国にその名声を博して居るのです。


三春駒

特産物としてあげるものに「煙草～松川葉」があります。その始りは相当古いと謂われて居りますが，寛永の頃会津蒲生領の時に幕府の禁止令で一時中絶しその後宝歴年間から再興して漸次盛んに耕作される様になりました。その間遂次品種が改良され，小辺坂葉と名づけられ香味優佳で江戸表に宣伝され大名間にも賞味され三春煙草の名声を高め其の販路も拡大されました。明治初年には大いに外国に移出されました。明治30年4月専売法が施行され，三春専売局が新設され東北6県から北海道迄所轄し，明治32年三春専売支局と改称され，その後幾多の変遷を経て今日に及び，地方の煙草栽培の中心地となつて居ります。明治40年頃まで専売局依託刻煙草製造工場が5ケ所もあつたと云う事も記憶されてよい事です。

三春盆踊もその太鼓・小鼓・笛の音調身振りの独特な優雅な郷土芸術として又忘れてはならないこの地の名物です。

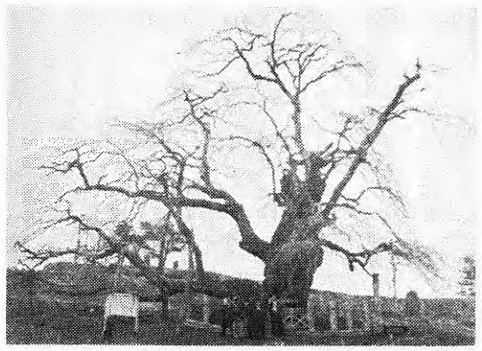
〽奥州三春に庚申坂なけりや
　旅の馬喰が金残す〽
〽三春庚申坂七色狐
　わしも二三度ばかされた〽

庚申坂と云うのは昔時の三春街道に咲く旅の花の名所です。

天然記念物に大正11年10月12日に文部省より指定された「三春滝桜」があります。樹令650余年目通り幹周9.4米太い枝が4方に拡がる紅枝垂の最大巨樹です。垂枝に無数の花をつけたその姿は何に例えようもない優雅さを現出し，幾多のロマンチイツクな伝説を生ずるのも当然です。

小野新町電業所

三春電業所より同じ磐越東線で更に約50分で小野新町電業所です。こゝには小町温泉（旧名谷津作温泉）があります。この温泉は平城嵯峨天皇の大同弘仁年間に発見され，その後慶長年間落武者嘉部須越中守が湯治場経営したのが現在の如き温泉の始めです。明治40年頃更に炭酸鉄泉が発見され旅館も増え，昭和31年1月1日，日本温泉協会の名附により小町温泉と改名しました。改名の理由は次の様なものです。遣唐使で知られる小野妹子から出た右大臣小野永見が，平安時代に陸奥守となつてから峰守篁（たかむら）と父祖3代が東北地方を治めました篁の時代になつて，その居城を小野新町の谷津作附近に定めました。篁はこゝでロマンスの花を咲かせ，1女を挙げ天長2年にこの少女


三　春　滝　桜

を伴つて京に帰りましたが，この少女こそ平安中期の絢爛たる王朝文化の中に咲いた一輪の名花小野の小町であります。この奇しき縁を以つて小町温泉と改名したのです。神経痛，打身，くさ，痔，には特効があり，今までの来湯者で癒らないで帰つた人はないと言われます。又，この温泉に来ればたちまち小野の小町の如き美人になると言われますが真疑の程は皆様御自身でお試し下さい。又この温泉の前を流れます夏井川及びその支流の江田川の渓谷は断崖密林瀑布等新緑紅葉共にその景を称され探勝者を充分楽しませます。旧藩時代の殿様が必ず駕籠を止めてその景色を眺められた籠湯の滝と言う所があります。こゝは大正時代に有名な文化人大町桂月が探勝に来て世にこゝを紹介し

散り果てゝ栃木ばかりと思ひしを
　日入りて見ゆる渓のもみじ葉

と詠んだのでそれを記念し，いまその歌碑が建つています。

石川電業所

郡山より水郡線で北東へ約1時間30分程で石川電業所に参ります。石川町には町の北方4KMの処に古来より打身，神経痛の名湯として地方に知られて居る母畑鉱泉があります。最近温泉ブームも加わつて相当賑わつて居る有様です。石川にはもう一つ猫啼鉱泉がありますが由来は古く，今を去る1千余年の往時一条天皇の御代平安中期の女歌人として今日に名を残して居ります和泉式部（和泉式部は石川町曲木で生誕したと云われ同地に式部のうぶ湯に使つたと云う清水と古碑とがあります）にまつわる物語りがあります。即ち式部が京に上る折同地を通り渾々と湧く泉に疲れを癒して愛猫を残して旅立つたが残された猫は式部を恋うの余り，日夜食もせず，啼き続けて日一日と衰弱して死にそうになつた時通りかゝりの狩人が憐んで湧き出る泉に浴させた処数日にして全快した。狩人達は驚いて試みに清水を汲み取つて湯として浴した処重い痔に効く事が非常に顕著でそれ以来猫啼の地名を附して現在に至つて居ります。現在は内湯旅館2戸ありまして目前に清流北須川が流れて良き釣場もあります。痔に悩む方は是非御試し下さるようお奨め致します。この他石川には三芦城をめぐる名所旧蹟が多くあります。亀井の松もその一つであります。此の松は石川町双里の国道上に位置して而も大岩石の上の清楚なる老松で，あたかも道の中に大きい築山があるようです。青源有光が石川の地に三芦城を築いた時一羽の鶴が飛んで来て岩の上に松の実を落したのが生育したものだと云い伝えられて居りますが，又源有光が自ら植えたものとも云われて居ります。

（36頁より）

心のりんごは北上川を舟で下り遙々東京に送られ，日本橋の農学社で東都の人気を集め乍ら1個25銭の値段で飛ぶ様に売れたと云われる。その後，政府勧農局の奨励もあり，続いて北海道・青森・長野等でもりんごの栽培が始められたそうである。今日見る品質の優秀なりんごを作り出す盛岡りんごは実に創業者古沢氏の苦心の実りとも云うべきであろう。

少しりんごにこだわりすぎたが，その他の特産品としては，雅致に富み永久褪色の憂ない南部紫紺染等があげられる。

——以上で盛岡の営業所だよりも筆を止めたいと思うがこの美はしの地に住む盛岡の人々は「仰いで巌鷲（ガンジュ）（岩手山の別名）の秀峰に心魂を錬り，伏して北上の清流に智を磨く」としてそれぞれ山と川を師と仰ぎ心のよりどころとして生活している事を附けさして戴く。故にこそ望郷詩人啄木をして「ふるさとの山はありがたきかな」と詠ぜしめたのである。盛岡はこの自然と風光を生して建案したと云う振興市勢都市計画なるものをひつさげて近年とみに益々メトロポリタン的様相に躍起であるから将来が楽しまれるというものだ。——

（盛岡営業所　竹原由雄記）

支店だより　—岩手・新潟・福島—

岩手支店

支店運動会

運動会には一寸時期が遅いような気がないでもない10月14日，薄曇りの日ではあつたが，支店の運動会が開催された。まばらな老杉を前に，三方はつたかつらが紅葉し，一入風情を添える石垣に囲まれた盛岡城跡，元御厩跡，武者集り所跡といわれる岩手公園広場であつた。

まず支店長の「本朝労働協約が妥結された。この佳き日に……」という挨拶によつて開会された。各課夫々の趣向をこらしたプラカード等の飾付も賑やかに，鐘や太鼓，さてはお手のものゝスピーカーまで繰出しての応援合戦の応酬，スプンレースを皮切りに号砲1発，スタートラインから走り出した。男子41才以上の組ともなれば仲々慎重組が多い。プログラムに従つて次々と進められて行く。家族の方もはやばやと見え，受付で貰う菓子折やらで，この日許りは共々の「オトウチヤン頑張れ」という声援しきり。

各課対抗は10種目で，優勝カツプの争奪をめぐつて大熱戦を展開する。団体競技には一喜一憂，居ても立つても居られないという表情は各課長さん達，或は陣頭指揮宜しく御老体？を以つての奮斗ぶりである。

一般の部では，前日までは，私なんかはとても駄目ですなんて引込み思案の方々も，さてふたを明けて見ると，どうしてどうして仲々の張切り方で，賞品の山を次々に減らしてゆく。徳利釣りやタバコ競争では，やはり日頃の実績者？が賞に入つたり，風船競技では，風船が天に舞い上つて決勝点を前にしながら思うようにならず，口惜しそうに風船にたわむれるの図を展げる。ラムネ呑みではこれがアルコールであつたらなあとぼやく等外連もある。リンゴむきでは，男子が堂々女子のお株を奪つて内助の功？を発揮する。

お昼近くなると何処からともなく揃いの衣裳に編笠姿，赤いもすそもあでやかに，支店有志約60名の盛岡音頭と花笠踊りの面々，

ハアー　城下盛岡七重八重，石の中にも花が咲く
ハアー　私しや一重の恋に咲く

と，広場一杯に踊りをくり拡げ，見物衆もやんやの拍手，まさに当日の圧巻であつた。

家族の野菜釣り競争では，ハイヒールの奥さんが，竿の線までに1回，野菜を釣り上げて決勝点までにまた転ぶという余興？もあつて爆笑の渦という次第。

各課対抗の団体競技では，盲唖レース，百足競争，樽ころがし，出勤レース等々，最後まで予断を許さなかつた。総労班と営業，指令所班であつたが，紅白玉入れ競技で遂に営業指令所班が，僅か5点の差で栄ある優勝を遂げた。

気づかわれた天候もそのまゝに，3時一寸過ぎ支店長よりカツプの授与があつて，家族共々のリクリエーションとして大成功裡に終了した。

岩手の町村合併

町村合併促進法によつて実施された岩手県内の町村合併も，この9月30日をもつて一応終止符を打たれた形となつた。

昭和29年4月1日以前に於ては，5市34町181村，計220であつたものが，約2ケ年半の間に11市27町31村計69と約3分の1になつた。

即ち6市8町が増加し，150村からの名を消して新らたに夫々の市町村に合併或は編入されたのである。

交通機関の発達と，それに伴う諸施設の整備其の他の要素が必然的に時間距離を短縮した当然の結果と思われる。更にこの合併により行政上の簡素化が実現し，その及ぼす影響は相当なものがあると思われる。一方これは過渡期の現象とは思われるが，稍々強制的な面や行き過ぎの点もあつて，今尚合併に対する感情的な余燼がくすぶつている所もないでもない。

この町村合併によつて，全国的に有名であつた啄木の故郷渋民村が消えて，今は玉山村となつたことは誠に淋しいことである。矢張り岩手としては，この渋民村などという有名品は，その昔藤原3代の文化の跡として今に残る中尊寺，金色堂の平泉町が残つているように，地元民お互の良識によつて何時までも残しておきたかつたものゝ一つである。

山内局長の講演会

当社取締役山内営業局長の来盛を機会に，盛岡電気工学会，電気3学会共催の下に，去る11月17日（土）午後1時から，盛岡市内丸自治会館ホールに於て多数の聴講者の前に行われた。講演は，先ず東北大学教授草刈遜氏の「最近の火力発電機について」，続いて山内局長の「欧米の電力事情について」と題して講演が行われ，つづいて約1時間に亘つて欧米各地の足蹟のスライドが実施されたが，たまたま会議で出席中の営業所長さん方も聴講され，有意義に17時過終了した。

会社の現況について

昨年「散宿所の皆さんへ」ということで，支店管内を廻られた支店長さんが，今度は「会社の現況について」と題して，9月24日，支店盛岡営業所郡を皮切りに，主として前回以外の社員を対象として話された。

このことは，上意下達の実を挙げ得たことと，又一方我々社員に対しては今後の指針を更に強調され，認識を深め得たことゝ相俟つて極めて有意義な催しであつた。

その概要は，東北電力の東北地方に存在する根本使命より説き，会社の対需用，対従業員，対株主に関する方針，或いは現下の需用供給の関係，9電力会社中の会社の地位，更に会社の今後のあり方，特に社員としての対需用家関係，生産性向上に対する努力，或いは立体需用開発等々，最後に自己の職場を再認識して，職場の改善を研究実施して，お互の信頼の上に仕事を楽しむ心境で，自己の責任を果す様な組織の運用が出来るようにしたい。その基本は身体と家庭の健全であり，仕事の研究と改善であろう。各職場の融合統一である。更に労使協力して働き甲斐のある東北電力を築き上げよう」と結ばれたものである。

（S・N）

岩手支店女子綜合行事かるた大会

11月17，18日の両日当支店管内初の女子社員かるた大会を花巻温泉青葉館に於いて開催致しました。

皆様は当節めずらしい事を始めたものと驚かれる事でございましようが，女子社員の新入社もこゝ暫くはなく人数も減る一方ですし，それに何時までも若くもなく，又スポーツに親しむにしても自ら体力的に限界があり，体育大会等に於いても極めて限られた少数の人しか参加出来ず，女子綜合行事に聊か行きずまりをきたし悩んで居りました処，支店長さんを始め会社御当局の温かい御援助により今回の大会を開催する運びとなつたのでございます。

支店管内女子社員数は77名（休職者3名）のうち，参加者は51名で太田厚生係長，組合から細屋支部執行委員出席の下に17日夕刻4時開会，開会の挨拶の後太田係長の有益な御講話があり，引続き懇談会に移り夕食後7時より愈々〝かるた〟に入つたのであります。

読手は2人，取手は1組6人，8組の構成で会場に当てられた大広間いつ杯に華々しく展開されました。50名も一堂に参会したのですから皆取れる人ばかりとは限りません，始めてかるたを見たと云う人，又始めてかるたを取ると云う人もあり，未だ読手が読まない前から仲々賑やかで一枚読上げる毎にパツト手を出す人，あつちこつち探がしてようよう取る人，お手付したと抗議を申し込むなど色々のスタイルが続出して，楽しい雰囲気のうちにどうやら1回目を終り，引続いて各組より1名づゝ選抜8名で模範試合を行つたのであります。終了時間は9時過。翌日は温泉名物の〝鹿（しし）踊り〟を見学致し，和気靄々裡に12時解散致しました。

此の度の大会で始めて御会えした各職場の方々とも，お互に女子社員としての自覚に立つて種々懇談出来得ました事は，人と人とのつながりに於いて今後会社のお仕事の上にも屹度好影響をもたらす事で，初の行事としては大成功をおさめた事を確信致して居りますと同時に，若しお許しがあれば之れから毎年開催して頂きたい事を念願して擱筆します。

（岩支人事係　菊池泰子）

新潟支店

第1回新潟支店大運動会開催

秋の慰安行事としての運動会は，10月20日市の綜合グランド競技場に於いて，社員家族一同参集し盛大に行われた。当日は小雨も交り，稍々寒く，風も強くて絶悪のコンデーションであつたが，全員童心にかえり，爆笑の中に1日愉快に過し，想い出の一頁を飾つた。大会の圧巻は各課対抗の仮装であり，各課夫々創意工夫のもと秘策を練つたが，労務課の〝ミスユニバース美人コンテスト〟が営業課の〝現代世想集〟経理課の〝日本水着百年史〟総務課の〝若き日の想い出〟工務の〝小原庄助さん〟等を凌ぎ第1位の栄誉を勝ち得た。各課の綜合得点は圧倒的な員数と若さを有する現業が他を圧し優勝，次いで経理課，営業課，工務3課，労務課，総務課の順となつた。　（厚生係）



運動会風景



仮装一位の労務課



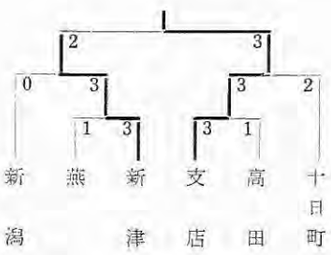
給与係○○君の〝ミスアメリカ〟

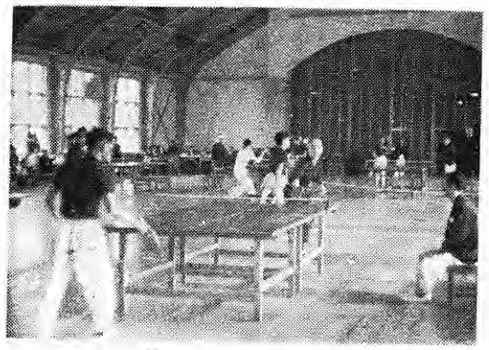
第5回支店管内卓球大会開催

恒例の支店管内卓球大会は柏崎チーム薬権の外は13チーム尽く参加，新発田市第一中学校に於いて開催された。

第1日目男子個人戦は2年連覇の風間君（新津）の3年連覇成るかに興味が持たれたが，依然として強く，準決勝に三条の南君を，決勝には支店の長谷川君を破り栄ある3年連覇の偉業を成し遂げた。女子個人戦は新潟の波田野さんが調子良く，準決勝には先年の覇者支店の岡本さん（旧姓下条）を，決勝には新潟の石井さんを破つて初優勝を遂げた。本年度より実施した男子壮年（35才以上）個人戦は十日町の中川君が圧倒的に強く，決勝には支店の解良君を破り第1回の優勝を飾つた。

第2日目団体戦は抽籤の結果A.B.Cの3ブロックに分れ夫々リーグ戦を実施，各ブロックより2チームが選抜され，下記のトーナメントにより決勝を競つたが，先年まで3年連覇の十日町チームは支店チームに惜しくも敗れ，余勢をかつた支店チームは決勝に新津チームを破り団体戦の初優勝となつた。尚，本大会の





熱　　戦

審判には支店の老松，加藤両君が当つた事を附記する。　（厚生係）

新潟支店管内美術展覧会

第3回会社職場美術展の予選を兼ねて支店管内第3回美術展は10月18日より21日まで4日間に亘り支店会議室に陳列されました。

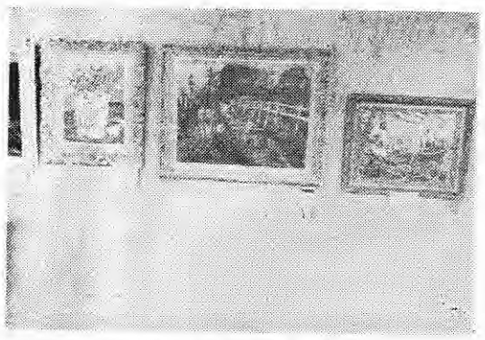
全社美術展種目の絵画，書道，写真の3部門に加えて支店管内だけの色紙，短冊により短歌，俳句の5部門として展覧会を開催致しました。

陳列に先立ち搬入された作品を各部門毎の選者に依り選考致しました。

各部門毎の選者，出品点数，入賞は下記の通りであります。

1. 絵画の部　　選者　関屋敏彦先生　28点

1席	支　店	安宅善之介	本店出品
2席	長岡営	西原丈夫	〃
3席	新潟営	大久保友代	〃
佳作	支　店	安宅善之介	
〃	長岡営	土田久嗣	
〃	新潟営	大野正男	



絵　画　の　部

2. 書道の部　　選者　江川清先生　32点

1席	新潟営	熊倉清司	本店出品
2席	新潟営	阿部隆昌	〃
3席	新発田営	樋口英弘	〃
佳作	新潟営	谷川昭二	〃
〃	三条営	岩崎正篤	
〃	十日町営	鈴木源吉	
〃	新発田営	河原千代晴	



書　道　の　部

3. 写真の部　　選者　中村文次郎先生　164点

1席	支　店	岩崎清市	本店出品
2席	〃	藤島八重	〃
3席	新潟営	味方興作	〃
佳作	新発田営	高橋一夫	〃
〃	支　店	藤田与平	〃
〃	新潟営	三岡忠治	〃
〃	〃	高橋博	〃
〃	高田営	関沢庄治	
〃	新潟営	細川誠一	
〃	支　店	宮山ヒサ	
〃	新津営	荘司荘午	
〃	柏崎営	品田博行	

4. 短歌の部　　選者　中村直躬先生　20首

1席	柏崎営	村山　章	
2席	村上営	遠山はる	
3席	支　店	石崎正一	
佳作	柏崎営	村山　章	

佳作	村上営	遠山はる	
〃	小出営	桐生喜栄	

5. 俳句の部　　選者　永松西瓜先生　104句

1席	支店	渋谷よしい	
2席	新潟営	石田文子	
3席	支店	渋谷よしい	
佳作	柏崎営	小川文英	（2点）
〃	支店	藤島八重	（2点）
〃	〃	倉島亨司	
〃	〃	高木茂夫	
〃	高田営	丸山ユリ	
〃	小出営	関　よし	
〃	柏崎営	小関政英	
〃	〃	宮山直樹	

以上

新潟県下市町村合併状況

町村合併促進法に依る町村合併は昭和28年10月1日施行以来順調に進み，法定期限の昭和31年9月30日95%強の成績を修めて満3ケ年に亘る町村合併促進法に依る町村合併に終止符をうち，今後は新市町村建設促進法に切りかえられた。

以下過去3ケ年に亘る町村合併状況を記してみましよう。

合併促進法施行前の

28.10.1現在　7市 51町 326村　計 384ケ市町村

合併促進法終了時の

30.9.30現在　19市 45町 78村　計 142ケ市町村

であり，242ケ町村が姿を消した。

この合併進行状況は自治庁の合併計画に対し95.3%であるが，県の合併計画に比べると85.5%であり，未合併町村は72ケ町村となつて居る。

県下郡別町村数　(31.9.30現在)

	町	村	計
北蒲原郡	4	10	14
中蒲原郡	4	5	9
西蒲原郡	5	11	16
南蒲原郡	0	4	4
東蒲原郡	2	2	4
三島郡	6	4	10
古志郡	0	1	1
北魚沼郡	2	5	7
南魚沼郡	3	3	6
中魚沼郡	2	2	4
刈羽郡	4	7	11
東頸城郡	2	5	7
中頸城郡	3	9	12
西頸城郡	3	0	3
岩船郡	1	5	6
佐渡郡	4	5	9
計	45	78	123

以上

会津柳津吟行句会

東北の山や溪が錦しゆうを装うにはまだ少し早いが時候の悪くならないうちにと，支店内の句友6名は予ての計画に基いて，9月29日午後指導者永松西瓜先生を先頭に会津柳津方面へ吟行句会の足を延した。然しこの処天候は折悪しく時雨癖で，一行が会津若松駅へ下り立つた時には細い秋雨がしとどに鋪装を濡らしていた。駅頭会津電力事務所の句友西岡氏の出迎を受け，御好意による同事務所のロマンスカーに乗り込むことが出来た。

汽車下りて意外にはげし秋の雨　　西瓜

又東山温泉をひかえた駅頭の若松情緒に

秋雨や湯女の出迎う傘の内　　西瓜

バスは市内を通り抜けて，只見川につきつはなれつ柳津さして走つた。沿道山が深まるにつれて雨雲が低く去来し，蕎麦の花の白さが印象的で，又所々12号台風による出水の跡が生々しく修理工事の人夫たちも雨に濡れそぼち乍らバスの通過を見守つていた。

こわれたる橋繕いや秋出水　　桐舎

泥んこに車落ちこみ秋の雨　　慶子

車窓早くも句帳に鉛筆を走らせ詩のうを肥しつゝ夕刻車は無事柳津階楽荘に到着。善美を尽し管理の行届いた部屋に一応くつろぐ。

洋室にこけしが並び夜長の灯　　桐舎

入浴，夕食を終り待望の句会，今宵はうちうちの水いらずで次の入選句を得た。

◎カーテンをひいて夜長の灯が残り　　桐舎

◎皆同じ丹前を着て夜長かな　　〃

◎一行に出迎ふ人に秋の雨　　桐舎

◎刈り急ぐ会津盆地の稲ゆたか　　〃

◎はるばると稲穂の波のつゞくなり　　慶子

◎物干の下葉雞二，三本　　文子

◎葉雞頭やゝ色づきて二，三本　　〃

終つて丹前の儘街へ出て土産物屋をひやかし，柿には早いので栗を註文したりする。

栗を買う会津訛りを真似てみる　　西瓜

翌30日早朝同じバスで階楽荘を出発。途中片門発電所を見学して若松市へ戻り，電力事務所の句友6氏と合流，有名な会津侯の庭園御薬園に遊び豊富な句材に圧倒され乍ら，続いて城趾，飯盛山と廻り11時過ぎ東山保養所に至り電力事務所の各位と合同の句会に入つた。本日の入選句は。

○温泉の町の道せまくなり秋桜　　雅生

◎門川の流れのはやしこぼれ萩　　つとむ

○送る人迎へる人も梅雨の駅　　孝

○アルバイトの夫を待ち居る秋灯　　光子

◎しばらくは流さるゝまゝ水馬　　桐舎

◎電柱が邪魔になる稲刈つてをり　　〃

◎蔦紅葉，桜紅葉と薬寿亭　　艸童

◎掛稲の余りを畦に伏せて置く　　〃

◎二，三枚野分のあとの倒れ稲　　〃

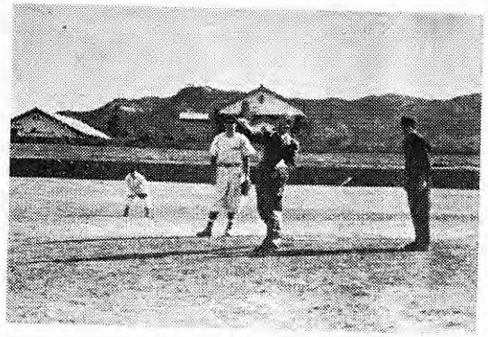
◎雨雲の垂れ来し盆地蕎麦の花　　〃

終つて東山にいま一泊の慾望を感じ乍ら，名残を惜しみつゝ会津の方々と別れ終列車で新潟へ帰つた。電力事務所に数々の御世話になつたことを衷心から感謝しつゝ擱筆する。　　(艸童記)

福島支店

第6回支店管内営業所野球大会

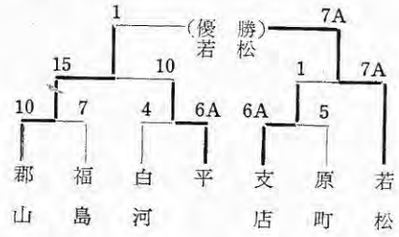
秋深く四方に紅葉織りなす10月20，21両日福島市の県営信夫丘野球場に於いて管内営業所の親善野球大会が開催された。選手一同堂々の入場式に続いて管野支店長の始球式で福島支店対原町営業所チームの対戦から開始された。各チーム共スタンドの声援に真摯敢斗する姿は溌剌とし，それに親善の和やかさが融けて常に盛会であつた。技倆何れも伯仲する中で郡山と若松



始　球　式

営業所チームが決勝に進み 7A 対 1 で連続3ケ年優勝の栄冠が若松によつて迎えられた。

投げる者，打つ者，走るもの，そして戦況を評する者により，2日間の大会はその趣旨が遺憾なく発揮されたと云い得よう。戦績次の通り。





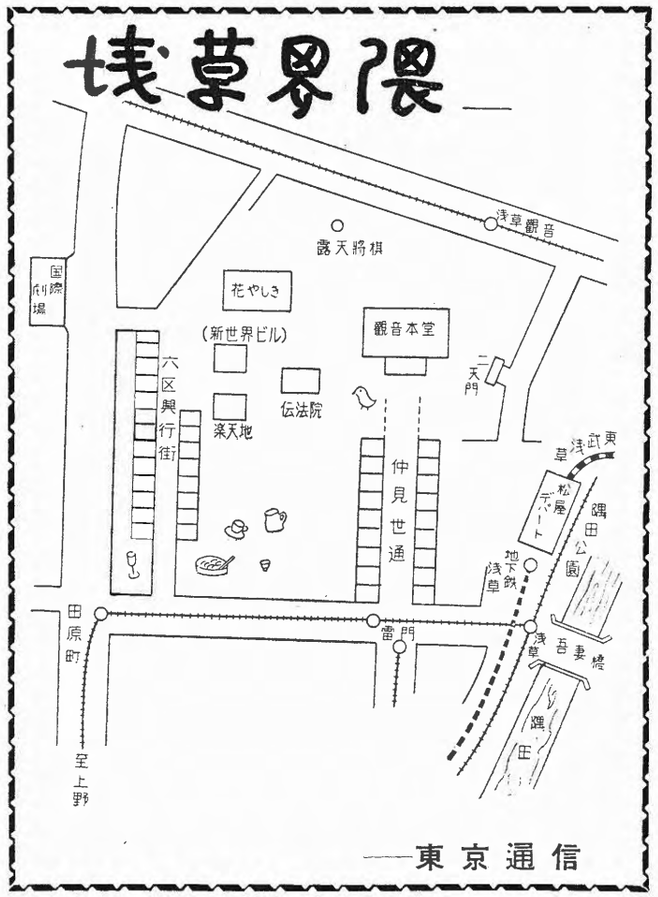
三連覇・若松営業所チーム

〔ネツト裏〕

○今回の始球式はホントのストライクだね。

○20年前の盗塁王盗塁ならず……気持では盗塁でも同じ所を走つている感じだもの，あれではアウト無理もないさ。

○野球長打者に挑むもの……試合の合間にゴルフの妙技を御披露し，カーンと1打，正に360フイートを越えるホームラン。



浅草は東京の盛り場の中でも仲々庶民的であり，かつ親しまれて居る所の一つである。今回は地方から上京されて浅草でも遊んで見ようとする方の為に，最近の浅草を御紹介しよう。浅草の歴史をたずねると，そのうつりかわりは誠に面白く浜本浩の「浅草の灯」或いは永井荷風の「墨東奇譚」等に出て居る良き時代の浅草の香りは今はないかも知れないが，然し今でも人をひきつけずにはおかないよい所である。

もともと大正8～9年頃はあやつり人形芝居や電気館の様に色々な電気を使つた見世物があつて，当時としても文明開化の匂ひをもつて居つた所だ。その後浅草オペラ全盛の時代を迎え，大正，昭和にかけて日本の芸能のトツプに立ち，観音様と云う非常にクラシツクなものと，6区と云う新しいものと一緒になつて浅草文化と云う特別の文化が育つて来たのである。又吉原帰りの客が寄つて遊んで行く所でもあつた。

戦後は一時すつかり寂れて与太者が横行し，百鬼夜行の巷となり，危くて一寸した小路にははいれなかつたが今はそんな所もなくなり，又元通り，否以前にも増して大へんな賑わいを見せて居る。ではこれから浅草を御案内しよう。先ず雷門から仲見世に入る。道の両側は同じ拵えの商店がずらりと遙かかなたの観音様まで続いて居る。各商店の建物は勿論戦後のものだが，昔風の丹塗で如何にも江戸時代の浮世絵にでもありそうな作りだ。或は衣料品屋あり，本屋あり，菓子屋あり，誠に種々雑多なのに驚く。仲見世通りのつきあたつた所が観音様の本堂だ。国宝であつた旧本堂は徳川三代将軍家光の建立であつたが，昭和20年戦災で焼失した為に浄財を募つて目下再建工事をすゝめて居る。今も資金募集の為百万人講を組織し，信徒の協力を求めて居る。又1枚300円出すと寄進者の名前を瓦の裏に書き入れると云うなど，あの手，この手を使つての建設資金集めに大童である。今や第1期工事が終り外廓だけは見事に出来上つて目下第2期の工事中で，東西内陣，外陣の荘厳，芝玉垣の造営を行つて居り，昭和33年完成の予定だ。

聖観音宗の総本山浅草寺は千3百年の歴史をもつて居り観音信迎を代表する霊場である。本堂と名園をもつた伝法院を本坊とし，支院24ケ寺がある。鐘楼，二天門は現存し，仁王門，五重塔も間もなく復興されるとの事である。その他境内には名所，旧蹟，碑文が多い。御本尊は推古天皇36年3月18日隅田川へ漁に出た，土師檜前（ハジヒノクマ）兄弟3人の網の中から出現され，それ以来荒漠たる武蔵野の片隅である浅草も観音参拝の人が増すにつれて繁栄の街となり，鎌倉時代には義朝，頼朝が帰依し，江戸時代には徳川将軍家祈願所となり益々栄えた。そして今や浅草の商店街，歓楽街は観音様

を基盤として商売が成り立つて居ると云つても過言ではない。それ故に信者は勿論，浅草界隈は観音堂の再建に対し，並々ならぬ努力を払つて居るのである。然し4億円の再建資金調達の為，止むなく情緒豊かな瓢箪池を手放し埋立てられたのは誠に哀惜の情を禁じ得ないものがある。又多い時は1千羽を数えた可愛いゝ鳩も世情の落着きと共に又段々とその数を増して来て居るがまだやつと昔の十分の一にも達しない。1皿5円の豆を手にして子供たちが共に戯れて居る所は誠に平和なものである。本堂の裏へまわると銀杏樹の下に露天将棋研究所がある。粗末な机と椅子を並べて36盤上に，老いも若きも勝負に余念が無い。1局5円で雨さえ降らなければ毎日開いて居る。観戦者も大勢居て，下手な助言にどなられてる者も居る。その庶民的な様子は誠にほゝえましい限りであり如何にも浅草らしい雰囲気である。本堂に向つて左に折れ，元の瓢箪池の方へ向うとこのあたり商店街や呑屋の屋台の連続だ。程なく花屋敷，浅草楽天地，或は新世界ビルの建設現場に出る。花屋敷，楽天地には廻転ボート，飛行塔，豆汽車，メリーゴーランド等々種々の娯楽施設がそろつて居て大の男が子供をだしに使つて大いに楽しんで居る姿も見うけられる。1日がかりでも遊び切れない程の遊戯場だが仲々金のかゝる事も馬鹿には出来ない。更に進むと国際劇場前に出る。こゝは映画と実演を兼ね，SKD の本拠であり，ミーハー族のメツカである。椅子席だけでも3千6百人分あり，特別興行等の時は5千人は軽く入るとの事である。

日本一だけあつて舞台も仲々大きくて目下「秋のおどり」をやつて居る。肌も顕わの130人の踊子の一糸みだれぬラインダンスは，その色彩と規模の大きさに一寸圧倒させられる。又もどつて6区の興行街に入る。目白押に並んだ映画館，小劇場は原色のドキツイ看板やネオンで目茶苦茶の宣伝だ。こゝに来れば新旧色々の映画，ストリツプ，軽演劇が見られる。又寄席も2～3年前から出来て居てよくもこれ程色々のものがそろつて居ると感心させられる。特にストリツプ劇場は4つもあり一地区にこれだけ数を揃えてあるのは世界一だそうである。まことに四等国日本の誇りだ。小劇場の中には客席わきにオルガンなどを据えて楽隊が陣どつて居るのがある。何かしら往年の浅草オペラ華やかな頃を彷彿させる所もある。六区興行街を出て都電田原町の停留所の所に仁丹塔が立つて居る。こゝは元12階のあつた所だ。この下にへび料理の専門店がある。へび酒にへびのさしみ，又へびの蒲焼など結構美味だそうだ。私はまだ試食した事はないが精力増進には覿面に効果があるとの事だ。

そろそろネオンまたゝく黄昏の頃，国際劇場前大通りあたりを鼻の下を長くしてぶらついて居ると必ず2,3度は「面白いものを見ませんか」とか「良い所へ案内しましょう」とか声をかけられる。大ていエロの実演か映画で猟奇的探訪にはもつてこいだが大分ぼられる事を覚悟しなければならない。又北へ足を向けると有名な吉原へ出る。歴史を誇る大廈高楼3百軒，美醜とりまぜ2千人の女の屯して居る歓楽の都の詳細な描写は通人に譲るとして無粋ながら色気より食気の事を少し書こう。雷おこし，浅草のり，駒形どじょう汁或はけとばし屋等，浅草独特のものが色々あり一つ一つ歴史を調べると面白い。その中の一つ，有名な浅草のりの由来を述べて見よう。今日の様に海苔を乾燥して食べる事を発明したのは田中四郎左衛門と云う人で百姓のかたはら植木商をやつて居た。寛永年間，葛西中川の海岸で海草の附着した流木を拾い，試みに日光に乾して火に焙つた所が極めて美味なのでこれを一般にひろめたのが乾海苔の由来だそうである。

それ以前は生で食して居たわけだ。然しその後元禄の頃の大地震で海岸が浅くなり一時江戸つ子の好物である海苔が姿を消したが，その後大雨で浅草川から植の苗木が流れ出て今の大森海岸に止まり海中に根を下して海苔が附く様になつた。これが大森で産しても浅草のりと云われて居る由来だそうである。

これで浅草公園の表通りを一廻りしたわけだが，江戸文化の華を開かせた遊廓吉原と共に浅草は昔から幾多の文学作品の題材となり又幾多の芸能人作家を輩出し，番随院長兵衛，花川戸助六，新門辰五郎等の侠客の育つた所でもある。又現代歌舞伎の発祥，猿若三座のあつた所だ。新宿，渋谷が山手サラリーマンの盛り場ならば浅草は下町庶民の盛り場だ。見るもの，聞くもの，食べるもの，飲むもの，皆庶民的なので本当に気のおけぬ所である。時代と共に成長しその時代，時代の風を呼吸して色々に変つて行く浅草はこれからも多くの人々にしたしまれて行く事だろう。

（業務課　M）

第6回永年勤続者表彰式

第6回永年勤続停年該当者特別慰労行事は菊薫る11月3日文化の佳き日恒例により本店に於て行われた。

今回の特別慰労行事該当者は31年10月1日より32年3月31日迄の間に於て停年退職した者並びに停年停退職する者計78名であつた。

行事実施項目

11月3日　記念品贈呈式
　　松島見物
　　回顧座談会
　　懇親会

11月4日
　　第1班　只見川筋発電所見学
　　第2班　十和田方面見学

× × ×

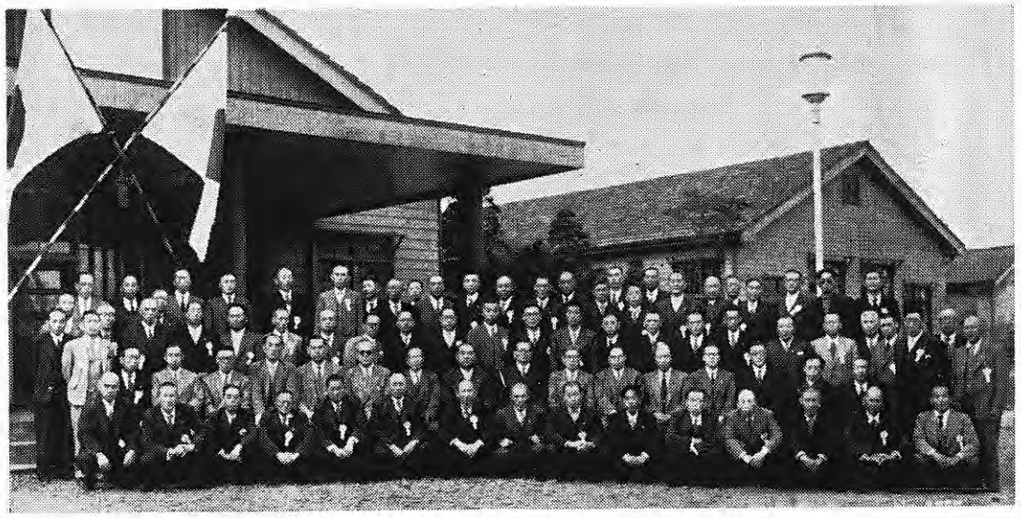
11月3日，朝8時表彰式に先立ち，一行は観光バス2台に分乗して宿舎前を出発，慶長12年政宗公の造営されたと云う国宝大崎八幡神社の見学，次いで仁荒城の月」で名高い天主台に登り，未だかすかな朝霧の中にかすむ大仙台を車より一望した後市内各所を一巡した。

式は名関係者列席のもとに定刻10時より開かれ，社長病気欠席のため代つて白川副社長より永年勤続の労苦をねぎろう鄭重なる挨拶があつた後記念品の贈呈があり，これに対し永年勤続者を代表し本店上野幸至氏が謝辞を述べ盛会裡に終了した。

一行は再び観光バスに分乗し案内嬢の美声に耳を傾けながら仙塩街道を一路松島へ向う。途中塩釜神社に参拝し，11時30分松島に到着，直ちに福浦島に渡り天下の絶景を眺めながら昼食を取つた後遊覧船にて湾内を一巡し，再び塩釜に上陸帰仙の途につき社長招待会場へ到着。

清流広瀬河畔の会場で両副社長始め役員同席，先ず回顧座談会が開かれ各々30数年の思い出話に花を咲かせ，終つて社長招待宴に移ればお国自慢や歌合戦等も飛び出し名残り尽きない中にも第1日目の行事をとどこおりなく終了したのである。

翌11月4日は第1班，第2班に分れ第1班は只見川筋発電所見学，第2班は十和田方面見学と各々出発したのである。



第1班　只見川筋発電所見学記

晩秋の王花色とりどりの菊がふくいくとして薫る11月4日我々一行31名が会津若松駅に到着したのは午後2時過ぎである。永年勤続者を心から寿ぐかの如く秋空はあくまで澄み渡り気温も11月には珍しい程の高温でまさに絶好の旅行日和である。直ちに貸切バスに便乗して一路片門発電所へと向つた。バスガイドの声もさわやかに響き，一行は今更ながら此の由緒ある城下町の若松市街に眼を見張り一しほ感慨に耽りつゝ市内を通過後間もなく感歎の声が思わずあがつた。それもその筈右手に霧に包まれた名峰会津磐梯山がその端麗なる姿をほのかに現わしているのである。

坂下町にさしかゝると去る7月中旬の水害の跡も痛々しく道路や家屋の復旧工事に大童の体である。名にしおう七折坂は全くの急カーブで思わずひやりとさせられる。我が社の誇る新鋭片門発電所に到着したのは午後3時過ぎで，一行は少しの疲れも見せず足取りも軽く応接室に入り所長さんから概括的な説明を受け所内を殆んど隈なく見学した。20名でこの大発電所の保守運営を遂行しているとのことであるが，規模の大きいのと設備の充実しているのには只々驚歎するばかりである。テレビ装置による操作も珍しく一行は甚だ御満悦の様子。所内見学後再び車中の人となり次の目的地柳津発電所に向つたのである。柳津に進むに従い右手に大電源の宝庫只見川は水量も豊かに悠容として流れ，深山は皆これ紅に化し，紅葉がへんぽんとして車体に乱れ飛びまさに晩秋の感を深く思わせ絶景と言おうか，一幅の絵巻と言おうか素晴らしいの一語につきる。柳津発電所到着は午後4時過ぎであり，所内見学後柳津の宿舎に旅装をといたのである。

明けて5日朝まだき宿舎より眺めると，右手に釣橋月見橋あり，又只見川のせゝらぎにお国自慢のうぐいの群は銀鱗をなびかせ静かに魚渕にたわむれる。左手には朝靄に煙る四方の山々は只見の清流に映えて静寂そのものである。宿を後に当社で最大出力を有する宮下発電所へと向つた。時に午前8時。途中の道巾は狭くきり立つ山々をぬつて奥へ奥へと進む。万山紅に包まれる景色と只見川が織りなす調和よろしく，美観をいやが上にも盛り上げている。厳美渓，鳴子峡にも優るとも劣らない程素晴らしいのではないだろうか。宮下発電所を約30分見学後愈々日本一否東洋一の我が社の誇る揚水式発電所沼沢沼へと向つた。山上より銀色の太い二条のパイプがくつきりと浮んで見える。こゝが我々一行の目指す沼沢沼発電所である。沼沢沼においては所長さんより揚水式発電所の特徴及びその機能について詳細な説明があり真剣に傾聴後所内をつぶさに見学した。沼沢沼～本名間は車中においてガイドのリードよろしく各支店対抗の素人のど自慢大会が和気あいあいたる雰囲気の中に開かれ，爆笑の渦の中に旅の疲れをいやしながら我が社の誇る最新鋭発電所本名に着いたのは午前11時40分頃で，エレベーターによつて応接室に案内された後所内見学は2班に分れ隈なく見学し，種々活潑な質問に対し所員から親切丁寧な説明をうけた。見学終了後合宿所の食堂において秋の味覚のなめこの味噌汁に舌鼓を打つた。本名を後にして再び柳津へと引返した。千葉県の能満虚空蔵堂，茨城県の大満虚空蔵堂と共に日本三虚空蔵の一つであり，又岩上に聳え立つ東北屈指の巨刹柳津福満虚空蔵に到着後30分の自由行動をとつた。各自思い思いにカメラで記念撮影をする一こまもあつて，柳津を後に鶴ケ城跡に到着したのは午後3時過ぎである。

老松におゝわれていかにも古城らしい風格のあるこの城跡こそ若い日の晩翠が月明りのこのあたりを逍遥して〃千代の松ケ枝わけ出し昔の光いまいずこ……〃と詩魂を燃やしたことも何かわかるような気がする。城の北東に位置する飯盛山は移り変る歴史と時代の犠牲となつて夏草を血で色どつて死んで行つたかの有名な白虎隊十九士の墓があり，旅行者のさゝげる花と香煙が絶え間なく煙つている。

夕刻最後の宿泊地である渓流のそゝぐ東山温泉に到着し，2日間にわたる旅塵を流し，翌6日朝東山温泉において解散した。

第2班　十和田方面見学記

11月4日朝，お供の者2名を含めた一行43名は，景勝地十和田へ向つて車中の人となつた。

夜来の雨も朝方になつて漸く晴れ，時折薄陽さえさ

すまずまず良いスタートである。

仙台から2時間余りゆられて11時過最初の目的地平泉に到着。直ちに貸切バスにて中尊寺に向う。中尊寺は丁度秀衡の600年祭で賑わつており，お能の観賞も出来たのであるが，時間の関係で割愛し入口より順次要所要所を観て廻る。藤原3代の栄華を極めた此の土地もその後の山火事で殆どを焼き尽し，わずかに金色堂に其の面影を止めているに過ぎないが，焼失をまぬかれた金色堂はさすがに藤原文化の蓄積のあとが見られ御神体に壁に柱に余す所なくそのにほいが残つており神秘にさえ思われる。ほの暗い堂内を案内人の照す電灯の光をたよりに眺め廻す時何かしら幽幻な感じがたゞよい思わず息をのむ。

宝物殿を最後に名残尽きない中尊寺を後にする。

3時19分再び車中の人となり，夕刻，たそがれの花巻に到り，落葉を踏み乍ら最奥の宿舎に第1日目の旅装を解く。

明くれば5日，十和田への期待を乗せた準急は一路古間木へ……古間木の秋空は飽く迄も青く深く，一同を乗せた豪華ロマンスカーは，車中に秋の爽かなにほいを充満させながら十和田へ向つて疾駆する。

途中，法量，十和田両発電所に立寄り，法量に於ては立石よりわざわざお出で下さつた所長さんの懇切な説明で，約30分ばかり所内を隈なく見学。十和田では所内責任者の案内で水路式発電所の大きさに眼をみはる。

4時，十和田発電所に別れを告げて車はいよいよ奥入瀬の渓流に入る。

〃住まば日の本遊ばゞ十和田歩けや奥入瀬3里半〃有名な大町桂月が数々の詩を残して終生の地とした此処奥入瀬の流れは，或る時はゆるやかに，或る時は急に老樹うつそうとしてその間を幾条かの滝が流れ未だ落ちかねてあわれを止めている木々の紅葉がそのけんを競う。まさに酔いしれんばかり。

車は3里半の絶景を右に左に平等に縫いながら，やがて十和田湖畔へ到る。短い秋の陽足は奥入瀬へ入る頃からそろそろ西にかたむき，最終目的地である十和田湖へ着いた時はとつぷりと暮れる。

湖上の遊覧は明日に延ばし，日没の湖畔を一路宿へと向う。休屋の宿舎は本年最後の客である我々を心よく迎えて呉れ割当の部屋に旅装を解く。

明けて6日，心配された空模様も紺ぺきの青さを見せ，湖上の遊覧船は正8時休屋の桟橋を出る。透明度20数米の湖は飽く迄も青く，屹立する沿岸の老樹，奇岩を湖面に映じさせさながら一幅の絵図のよう。船はさまざまの入江に囲まれた中山半島の突端を廻れば眼前に雄厳な御倉半島がせまる。ガイドのマイクから流れる諸々の伝説を耳にしながらやがて中湖を過ぎ終着の〃子の口〃に到る。

子の口には昨日我々一行を運んで呉れたバスが待ち，直ちに乗り込み下山の途につく，帰りの車中はお国自慢の歌合戦で仲々の賑かさ，またゝく間に解散地古間木へ着く。時に正午近く，丸2日間一行と行動を共にしたバス並びに林ごの様な案内嬢に最後の別れを告げ駅頭に整列する。2日間の思い出を秘めた皆の顔は旅の疲れを露程も見せず意外に明るい。新潟，福島，宮城と勤務地はそれぞれ異つても，この2日間でまるで兄弟の如く親愛を増し各々最後の挨拶をかはして或は北に或は南に散つていつた。

尚最後に本行事遂行上の不行届の点については参加者各位に深く御詫び申し上げますと共に今回の行事になみなみならぬ御尽力を下さつた関係各支店並びに会津電力事務所の方々に対し厚く御礼申し上げます。

（人事課）

第6回永年勤続者特別慰労行事参加者氏名

本店	阿部和一郎	岩手	竹田重吉
〃	上野幸至	〃	阿部亀太郎
〃	館林功平	〃	高村幸
青森	坪田栄吉	〃	阿部一
〃	駒木徳寿	〃	佐々木定治
〃	畑中菊次郎	秋田	佐藤寅治
〃	成田千代松	〃	三ツ森六三四
〃	工藤賢義	〃	川井正之助
〃	松山忠七	〃	佐藤義一

秋田	伊藤貞治	山形	杉浦源助
〃	庄司恒治	〃	清野伊三郎
〃	北原輝房	〃	大江悌二郎
〃	関口彦八郎	〃	阿相喜治郎
〃	石田萬蔵	〃	関六蔵
〃	原藤治	〃	石黒哲四郎
宮城	村山牛夫	〃	富樫重治郎
〃	伊沢幸治郎	福島	安斎仲治
〃	平栗栄之助	〃	高野定治
〃	秋保金蔵	〃	坂本春好
〃	佐々木寅雄	〃	根本伊次
〃	大黒栄太郎	〃	栗山安四
〃	伊藤松治	〃	遠藤宗吉
〃	三瓶大亮	〃	菅野栄蔵
山形	白田喜吉	〃	斎藤忠治郎
〃	木村吉蔵	〃	蓬田守之助

福島	伊藤寅国	新潟	和田末吉
〃	本田久四郎	〃	渡辺二郎
〃	遠藤勇	〃	村山源一郎
〃	穴沢新吾	〃	青山二郎
〃	鈴木長四郎	〃	丸山忠義
新潟	橋本基	〃	大巻太助
〃	岡田朔	〃	榎本貞治
〃	岡田義雄	〃	佐藤孝平
〃	尾島豊太郎	〃	菊地次一
〃	関原源太郎	〃	石川寅松
〃	瀬下健一郎	会津	清田一男
〃	野沢惣三郎	〃	山内虎雄
〃	伊藤力	計	78名
〃	田中ムツ		
〃	竹田実		
〃	伊藤丑太郎		

第11回定時株主総会開催

当社第11回株主総会は，去る11月26日午前10時より本店分館において開催された。

今回の総会の議案は昭和31年上期営業報告書，貸借対照表，財産目録，損益計算書及び利益金処分案であるが，先ず白洲会長議長席につき開会を宣し，尾形宗治郎氏より総株主数，発行済株式総数並びに出席株主数及び所有株式数を報告し議事に入つた。

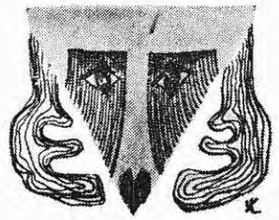
議長は議案を上提し，白川副社長が本案について，当期需給状況，収支概要及び利益金の処分について説明した。次に議長は監査役の意見報告を求め，藤尾監査役立つて調査の結果正確である旨を述べた。

議長は更に本案につき質問及び意見を求めたところ，飯島東北電労代表，芦野孝氏及び佐藤伊右工門氏よりそれぞれ株主に対するPR活動の強化，経営の合理化，電気税及び労働協会等について質問があり，これに対し内ケ崎社長より答弁があつた。次いで桜井亮英氏より賛成発言あり，議長本案承認方を議場に諮り大多数の賛成があつて承認可決された。

この後当社PR映画の上映があり午前11時過ぎ終了した。

なお，本案について議決権代理行使の委任状を提出した株主数1,433名，この所有株式数6,959,290株であつた。

船と頭巾と靴



西岡　孝

夜の静けさを押しつぶすように降りしきる豪雨。トタン屋根，藁屋根を鳴らし，樹木を吹き抜けて荒れ廻る暴風。そして時折異様な地響きを鳴動させながら，遠い海鳴りがどろんどろん聞えて来る。ここ日本海に面した夜更けの荒浜にはもうかれこれ12時の時刻が訪れようとしている。お峯はぱかぱかと明滅する20燭光の電灯の下で，内職の手編物を放り出したまま苛立ちながら太助の帰りを待つていた。寝込んだ筈の息子の陽一が座敷の片隅で二三度ごそつと寝返りを打つたと思うと，やがてむくといが栗頭をもたげた。

「おとうはまだ帰んねいのか？」

「まだ起きてたのかや。心配しねいで寝てろつて，あれ程言うておいたつちゆうに。明日は学校さ行くの早いんだべ」

お峯は陽一を見向きもしないで，つつけんどんにそう言つた。

「うん，だげんじよも随分ひでい嵐だな，おかあ。おとうは大丈夫かな」

「そんな，人のことおれに聞いたつて判るもんか。阿呆」

陽一は起き上つて雨に濡れた格子戸をこじ開けた。と，11月の寒気を伴つた大粒の雨が，暗闇の中から畳の上へどつと流れて落ちて来た。

「うわー」

陽一は飛び上つて寝床の中にもぐり込んだ。

「ほら見ろ。だから言わねいこつちやねい」

それでもやはりお峯は振り向きもしないで「商売熱心，仕事上手がたつた一つの自慢の太助の帰りがこう遅いのは唯事ちやねい」と思いながら，炬燵の掛蒲団に顔を埋めてじつとしていた。夜風がひゆうひゆうと窓の隙間から入り込んで肩の辺りからぞくぞく寒気がし始めて来る。

太助とお峯は，小さいながらも10トン発動機船を使用して，この港町に停泊する貨物船を相手に陸上との船荷運送をやりながら結構暮しを立てている老夫婦である。太助はもう60才に手の届く年輩だが，生来の短気がその赫ら顔の白髪と共に年々昂じて，最近では同業者仲間から「短気の太助」と異名を奉られる程であり，お峯はもとより一人息子の陽一も，雇人の信次も太助の小言を聞かぬ日とてはついぞなかつた。

どの位の時間が経つたろうか。突然がらつと入口が開いたと思うと，全身ずぶ濡れの太助が「おお寒い」と小さな身体を一層丸くかがめながら入つて来た。そして土間に突立つたまま，がたがた震える手で煙草の火をつけた。お峯は今までのうつ積した心配を吐き出すように，わざと大声で太助を怒鳴りつけた。

「ずぶ濡れのまんま何木偶の坊みていに突立つてるだ。早く着物を着換えねいと風邪ひくだぞ」

「余計な世話するでねい，阿呆。信の野郎がへまやりやがつただ。ほんに仕様のねい奴だで」

太助はべとべとに濡れた煙草を勢よくぺつと土間に吐き棄てると，大儀そうに畳の上に横になつた。陽一もむつくり起き上つた。

「おとう，どうしただ。信が何か悪いことでもやつたんか？」

「うんにや。信の奴め腕をへし折りやがつたんだ，腕を。あの頓馬めがよ。夜中の船仕事，雨ン中の力仕事は気をつけろつてあれ程口やかましく言うておいたに，油断しやがるからあのざまだ」

太助は，嵐を衝いて死に物狂いに敢行しなければならなかつた今晩の荷揚げ作業の模様を，改めて思い返す風に一語一語ゆつくりとしやべり始めた。

「今夜の海は凄かつたんだぞ。山みていな大浪が白い歯むき出して後から後から押し寄せて来やがるんで，おとうの船なんかとつても親船へ寄りつけねいだ。そのうち寒さが加わつて来やがる。嵐がひどくなりやがる。貨物船からばちばちと信号灯で積荷をせき立てる。親船の出港時刻が刻一刻迫つて来る。さすがの俺も気があせつたなあや。漸くのこつで貨物船の舷側にぴつたりおとうの船をひつつけて，信と2人で船荷の積み卸しをおつ始めたさ，な。そうこうしているうちにだ，急に後ろで「痛ててて……」と信の叫び声がするでねいか。ひよつと振り返ると，親船から下つて来たデリックの真つ下に，血だらけの片腕をだらりとぶら下げた信が蹲まつて唸つてるだ。それから後は無我夢中で何が何だか俺にもさつぱり判んねい。とにかく——と思うてな，仕事をおつぽり出して陸岸の明りに向つて船をぶつ走らせ，信を港の病院に担ぎ込んで来たんだがな」

太助はふつと一息ついて，大きな欠伸をすると，又ぼそぼそと語り続けた。

「船乗りちゆう者は，どんな大雨の時でも大吹雪になつてもマントや雨着の頭巾を被つちやなんねえ。これあ船乗りの掟じや。第一そんなことしたら耳が聞えねいや，な。エンジンの回り具合，大浪の寄せ具合，みんな音で聞き分けるだぞ。第二に目が見えねい。馬車馬みていに前ばつかり見ていちや，狭い船ん中の仕事は出来つこねい。四方八方，後ろにも目がねいと船乗りは勤まらねいだ。そいからな，雨のデツキの上は裸足で仕事するだで。ぐらんぐらん揺れる足場の上や，身体ごと振り廻されるデツキの上で，ずるずるべつたりお姫様みていな靴なんぞ履いて，何の力仕事が出来るもんかいな。足を波にかつさらわれたり，荷物を海ん中に落つことしたり，大怪我したりするのが関の山だぞな。こんなこたあ信の奴百も承知の筈だに，あの野郎め，後で聞いたら「あんまり寒いんでつい頭巾を被り，長靴を履いちまつて——」と抜かしやがる。そいじや俺の指図なんぞ耳に入りつこねい。頭にグレーンが落つこちるのも判る筈ねいだ。これ位のこと大丈夫だべと油断しやがつたが運のつき。信の奴め，貨物船のマストから下つて来たグレーンのシヤツクルと，浪に押し上げられたてめいの船の舷側との間に腕を挟んぢまつて——」

太助はふつと口をつぐんだ。お峯が慰め顔に呟いた。

「おとう，大変だつたな，あんまり帰りが遅いんで，おらあも今晩はきつと何かあつたに違いねいと虫が知らせただ。もう寝た方がいい。あんまり興奮すると又いつかみていに血圧が高くなつてぶつ倒れるだぞ」

太助は黙然として起き上ろうともしなかつた。そしてぽつりと

「おらあ，やつぱりもう一度病院へ行つて来るだ。お医者様は大丈夫だと言うてたげんじよも，心配だかんな」

太助は静かに立ち上つて濡れた雨具をひつかけるや否や

「お峯，おめいこそ早く寝てろ。梅干し婆あがつまんねい心配するもんでねい。陽一も子供つこのくせにこの夜更けに何をごそごそ起きてやがる。うるせい奴らだ，全く。」

と怒鳴り散らしながら，どしやりと入口を叩き閉めると再び雨の暗闇に消えて行つた。一瞬，とり残された母子の間に安堵とも不安ともつかない沈黙が流れた。

「おかあ，おとうが怪我しねいで本当によかつ

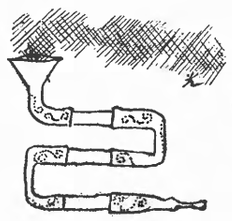
たなあ。」

「馬鹿言うでねい。人様が大怪我なさつたちゆうに。でもやつぱりよかつたな。おとうだつたら大変なこつちや。雷親父のかんしやく玉が破裂した位じやすまねいもんな。」

お峯と陽一は顔を見合わせて何ということなしに笑い合つた。風は大分おさまつたが雨脚は前よりも一層激しさを加えて来た。

（会津電力事務所）

ありんこ酒のはなし



連山　仁一郎

「酒？黄色い，とろとろする，貴重な酒か，

……こいつがつくれりや，黒も白に，醜も美に，邪も正に，賤も貴に，老も若に，怪も勇に変えることが出来るんだがな」とは，その昔あるありんこ大先生のいつた，ことばだつたというおはなしである。

こゝにかの有名なる，シエクスピア大先生は，ありと話が出来たと見えて，これをきくなり，ハンタとひざをたゝいたが，どうしたわけか，そのことばが，アゼンスのタイモンという戯曲に現われたところをみると，酒が黄金（きん）にかわつてしまつたのである。

シエクスピア先生が，果して黄金の方が好きだつたか，酒の方が好きだつたか，それはシエクスピア研究家にきいてみないとわからないが，とにかく私に以上のはなしをしてきかせたありんこは，すつかり気を悪くしていたことにまちがいはない。それでもそのはなしがきつかけとなつて，私を酒づくりの現場に案内してくれることになつたのである。

一体ありが酒などをつくるものだろうか。これは一向にきいたことがない。しかしありという奴は小さい，赤い，黒い虫と思わなければ，この前もおはなしをしたように，全く人間によく似た生活をしているのである。殊に南方のありときたひには，まるで人間とそつくりである。もし人間に材木も鉄骨も何も与えられなかつたとしたならば，きつと泥でありと同じ家をつくつていただろう。

とにかく，門はあるし，玄関はあるし，客間，居間，茶の間，奥に行けば便所も納屋もある。その先に行けば畑もあつて，野菜を栽培し，尚ゆけば牧畜場さえあるというわけである。牛乳の如きのみものもあるのであるから，そうなれば酒位はつくつていても不思議でないかも知れないのである。

幼ない時よくありは菌（きのこ）を養つてたべているときいたが，畑に案内されてみるとどうやらそれらしい。しかもそれは麹（こうじ）に近いものらしいのである。よくみていると，そこにやつて来た仂きあり達は，その麹をつんでは外に運び出してゆくではないか。案内のありんこは一緒について来いという。

一度外に出たありんこ達の行く先は，マタ・クチン（マライ語でマタは眼，クチンは猫という意味。きいろい猫の目のような実がなる）の林の中だつた。その林の陽だまりに老木が倒れていて，その中に菌は運ばれているのである。後から後からありんこ達は菌を運びこむ。

何事ならんと首を突つこむと，むつと酢い匂いがして胸が悪くなつた。思ひ切つて手を入れてつかんでみると，何かぐちやりとした手応えで，ぬるぬるしたものが手について来た。何とマタヽクチンの実がとけてくさつているのではないか。いやいやさうではない。よく嗅いでみたまえ。これは醗酵しつゝあるものの匂いではないか。

そこでありんこはにやりと笑うのである。これが酒になるのだという。菌はやはりこうじの役目をしているのである。熱帯の陽だまりに，マタヽクチンの甘酢い実と，菌，これでは忽ちお酒が出来るだろう。感心しないでよくみろといわれて，なれた目で木のうつろの中をみれば，これは亦マタヽクチンを敷きつめた上に，菌を一杯ばらまくと，ありんこ達は，ヤツサモツサと足をふみならしているのである。しかもその有様たるやいかにも楽しくてならぬという様子である。角が盛んに触れあつている所をみると，酒づくりの唄でも歌つているに違いない。いやはやおどろいたことではある。

しかし案内のありんこはそれは唄ではなくて，はじめにいつたあの大先生のことばをいいあつているのだときいて，私の胆はつぶれそうになつた。そしてまだ菌を運び込むありんこ達をあぶなくふみつぶす所だつた。

酒が出来上るまでみていよう。それは駄目。いくらなんでもそうすぐは出来ない。2日，3日，そして蜜を最後に入れて，酒がくさらないようにするとおわりだということをきくに及んで，私は完全に脱帽してひとまず我が家に引揚げた。

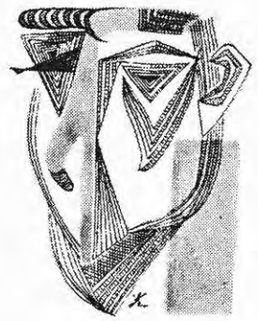
案内のありんこのいう通り，2日，3日，そして私は胸をはづませて現場にとんでいつた。林の中の陽だまりは，もう甘い匂いがたゞよい，虫達がわんわんと群つていて，とても私が近づくどころではなかつた。その上，ありんこ達は一匹も姿を現わさず，私は悲観して甘い酒もたしかめられずに，私が家に戻つたが，夜，月を仰いで，そうだともう一度，マタヽクチンの林に出かけてみた。するとどうであろう。私の想像は当つた。私の喜びは無上だつた。月光に照らされたマタヽクチンの林の中はひる間とはうつて変つて，静かで涼しかつた。そこには案内のありんこが，ちやんと待つていて，私に酒の出来た報告をし，木のうつろに導いた。甘いか，旨いか，それはよく表現出来ない。しかしたしかにそれは酒にちがいなかつた。私は指に酒をひたして，味わうともなく珍しいありんこ達の行列に見とれていた。それは一匹のありが酒を呑んで腹一杯になり，ころんところがると，別のありがそれを引いて巣に戻るという世にも珍妙な光景なのである。

私はその日の夢にはつきりと，はじめのことばを案内のありんこから告げられ，目覚めると忘れぬ様に書きとめておいたのである。

信ぜられぬまゝにそれを確かめるべくシエクスピア大先生の本をひもとけば，何と黄金（きん）が酒に変つているだけで，一言一句も間違つていなかつたのである。諸兄よ。酒をたしなむ諸兄よ，ゆめありんこを酔つた挙句にふみつぶすようなことなどされまいぞ。酔つた挙句，ありんこをふみつぶした御仁は，のこる一生を，ありんこ大先生のことばをつぶやきながら，この世をおわる仕儀になつてしまうであろうから。

（東京事務所）

「戦争と平和」について



菅　雄吉

東西の文学上の傑作で映画化されたものはたくさんある。たくさんあるというよりは，映画化されないものが稀なほどだ。トルストイの「復活」やドストエフスキーの「罪と罰」ゾラの「ナナ」などに至つては，無声映画時代以来何度映画化されたか分らぬほどだが，最近は又そうゆう文芸映画が一段と盛んになつたようで，英国ではシエクスピアの「ハムレツト」その他，デイツケンズの「大いなる遺産」その他，フランスではスタンダールの「赤と黒」その他，米国ではメルビルの「白鯨」など，何れも大部話題になつていたようである。

古典的名作というのは誰でも一応の教養として知つておきたいものとされている。ところがそうゆう作品は大低長編で読むのに骨が折れる。それを数時間で知ることができる。だから，文芸映画は歓迎されるわけだが，製作者の方にしてみれば，読む読まないに拘らず名作としてその題名がたくさんの人にあまねく知られているということは，映画の題名が殆んど広告の必要ない程知られているということで，大きい宣伝価値となつているわけだ。例えば「罪と罰」などは長い小説だし内容もむづかしいからなかなかとつつきにくい。題名だけは知つているが読む機会がないという人にとつては，その映画化は有がたいに違いない。こういう意味でトルストイの「戦争と平和」は最良の条件を備えている作である。然るにそれが今まで一度も映画化された事がなかつたというのは不思議なほどである。とはいうものの何しろ長い小説で，邦訳にして2,400頁もある。スケールがあまりに大きいし，構成があまりに緻密で，筋があまりに複雑で，登場人物があまりに多く，その内容あまりに深遠である。大きな深い森の中に入り込んだようなもので，映画化しようと考えた人々は恐らくどこをどうやつて取捨選択していいか分らず，絶望してその森の中から出て来たものであろう。つまり映画というものはいわゆるマスコミ的性格というもので，なるたけ多くの観客を獲得せねばならないから，あまりに雄大で複雑で緻密で深遠なのは困る。といつてあまりこれを省略してしまつては原作と似てもつかぬものとなつてしまう。そこでこれらの特徴をなるたけ和らげ，然も原作の味を損じないようにというのだから，この作が今まで映画にならなかつたのも無理はない。最近これがイタリーとアメリカの合作で映画になるというのだが，その出来栄えはともあれ，映画化したというだけでも充分ほめられていいと思うのである。

この小説はどんな小説かというと，岩波文庫目録の解説によるとこうである。「19世紀初葉のロシアに材をとり，アレクサンドル一世，ナポレオンをはじめ宰相武将等無数の史上人物を紙面に活躍させ，ボロジノの戦，ナポレオンのロシア侵入

等の大事件に鋭利透徹した観察と深刻な体験と豊富な想像を駆使して当時の貴族社会の複雑多面な生活相をあますところなく描破した長編歴史小説である」正に簡にして要を得た紹介というべく，読書欲を刺激してよく広告文の使命を果しているといえよう。

私も20才前後の頃にこの小説に読みふけつたことがある。非常な感銘を受けたことを覚えている。人はよく何かの契機で啓示を受けたとか人生観が変つたとかいうことをいうが，読書によつて得られるとすればこの小説などは正にそんな契機となるにちがいない。それほど感銘を受けたくせに，今となつてはその内容が全くといつていいほど思い出せないのだから少しおかしい。考えてみると，実はこの有名な大作を読破したというだけで，自分がえらくなつたような気がして，例えば大きな山に登つたというような感激だつたらしい。ただその時年をとつたらもう一度これを読んでみたいと思つて，その本は大事にとつておいた。最近暇があるのを幸い念願を果したわけだが，殆んど忘れているから初めて読んだと同じだが，それでも稀に記憶らしいものがよみがえることもある。その中でもこれが昔の私を驚かしたのだということを思い出したことがある，それはトルストイの戦争観であつた。

トルストイによると，戦争というものはナポレオンとか将軍とか参謀とかの個人が計画したり指導したり行つたりするものではなく，人民という不特定の無数の人間の集団が偶然に支配されてまとまつた一つの意志となつて動き出すとき行われ，ナポレオン等はその大きな波がしらに浮んだ泡の如きものである。歴史はその泡が波濤を動かすように云つているが，明らかに誤りである。そして勝敗を決定するのはその人民集団の戦意の昂揚如何によるのだ。というのでこの小説の至るところで彼はこの説をくり返し述べている。殊に最後のエピローグでは100頁以上に亘つて歴史観についての論陣を張つている。それによるとナポレオン軍のロシア侵入は18世紀末のフランス革命によつて爆発した人民の活動力が全欧に流れ出し他国の人民をも併合して東方へ押し出した民族的移動で，この西から東への流れが国境をこえてロシアに入りモスクワで止まり，今度は逆にロシア国民を誘つて東から西へ打ち返したのだという。こうゆう説は我々の抱いている英雄観を根底からくつがえすもので，ナポレオンもアレキサンドル一世も水泡の如きものだというのは正に驚くべき説である。だが文豪の圧倒的な描写力は我々を傾倒させて，私などは忽ち屈服してしまつたのである。原子力時代の今日ではどうも全面的に信用もできないと思うけれど，トルストイの戦争観には多分に真理を含んでいるように思われる。ただトルストイの独断癖というものはよく知られているところであるから，今日全面的に賛成するのは稀かも知れない。

この小説は大体3つの主要な対象を描いているとすることができるかも知れない。1つは政治的情景といえる。つまりナポレオン軍とロシア軍の戦争の経過である。次はロシアの貴族社会の描写である。第3に3人の人物を中心とした人生行路である。作者は自分でこの作品は小説ではない。叙事詩でもない。歴史的記録でもない。といつているが，恐らくそれらを総合したものだというわけであろう。その小説的部分が第3の部分で，我々はこの部分に興味を感じて読み通すので，そうでなかつたらこんな長い退屈な記録は到底読む気がしなかつたであろう。ロシア屈指の名門ボルコンスキー公爵家の長男アンドレイとベズーホフ伯爵家の庶子ピエールとロストフ伯爵家の次女のナターシヤ，この3人がこの小説の主人公といえよう。アンドレイは理想的な本当の貴族的な性格である。1805年のロシアとオーストラリヤ連合軍と

ナポレオンの戦争に際して，自ら進んで総指揮官クツゾフの副官となつて出征した。彼は敵のナポレオンを崇拝し戦争というものに対して一種の憧れを抱いていたが実戦に臨んでみてその悲惨さと愚かさに失望し，加えて負傷して家へ帰る。家へ帰ると妻はお産のため死に，軍籍を退いて領地の経営に没頭する。1812年のナポレオン侵入に際しては敢然と志願して連隊長となり，ボロジノに於て重傷を負い後送される途中ナターシヤにみとられて死ぬ。これに対してピエールは性格的にアンドレイと対照的である。彼は単純で善良な心を持つた直情の人で早くから西欧で教育を受け，ロシアに帰つて莫大な遺産を継承して大地主となる。深い考えもなしに社交界一の美人と結婚し，この妻の不貞に悩まされ続ける。ボロジノの戦を見学にゆきその悲惨さを体験し，モスクワに帰ると市民が引あげて空つぽの市内に止まり，一種の神秘的な啓示を受けてナポレオンを暗殺しようと企てる。モスクワ炎上の際放火犯人としてフランス軍に逮捕され，危く銃殺を免れてフランス軍の退却と同行してゆく途中，コサツクの奇襲によつて救われ，遂にはナターシヤと結婚するのである。このピエールとアンドレイの対照的な性格はトルストイの分身だといわれているものである。

ナターシヤは文学に現われた女性の中，最も魅力のある1人だといわれている。彼女は生命力の権化といわれるような生き生きした，直観的な魅力ある女で，アンドレイの妹があの人には理性というものがないと評したように生の衝動的な生き方をし，常に誰かを愛し誰かに愛されずにいない女である。初め従兄のボリスと愛し合いボリスが去ると舞踏会で踊つたアンドレイと愛し合い婚約する。アンドレイの父の反対のため1年間アンドレイが外国へ行くと，美男の浮気者アナトーリに誘惑され駈落ちを企てゝ失敗する。一家がモスクワから避難する際重傷のアンドレイに会い，彼の死まで看護する。後にピエールの求愛を受けて結婚し，たくさんの子供を生んで家政に没頭する平凡な主婦になるのである。

以上の3人の主要人物がたどる人生行路を主軸として，その周囲に百余の人物が乙の小説を作りあげるのであるが前にも云つたように主役とワキ役の関係ではなくて全部が一つの歴史の構成要素として取扱われ，これら3人も皇帝も将軍も兵士も美女も悪人も百姓も下僕も，皆一緒に押し流す時の流れというものがこの小説の内容である。文豪の筆はアンドレイ公爵もナターシヤも生き生きと写実的な方法で表現しているが，それがちよつとしか出て来ないような人物も見事な描写で活躍させる。例えばピエールの悪い友達のドーロホフという乱暴な将校は，その残忍性がまことに鮮やかに描かれていて，例えば太平洋戦争末期のソ満国境や今度のハンガリー侵入の際のソ連軍の残虐さを首肯せしめるものがあるのである。そういう写実的な描写で全ての人物の性格を描き分けているのは，やはり文豪であると思わせるが，たゞナポレオンを極端に卑小な人物として描き出しているので，その対照としてロシア軍の総指揮官クトーゾフは非常に理想的な人物として描いているのが気になる。つまりクトーゾフは人民の無数の力の集積が戦争の推進力だということをよく知つていた唯一の人物であつたために，如何なる場合も無理をせず，その為皇帝や将軍から誤解をうけても一向平気であつた。彼にとつてはロシアを救うことさえ出来れば，あとはどうでもよかつたというので，作者は筆を極めて彼を礼賛しているのである。

こういう理想像はロシアの典型的な農夫のプラトン・カラターエフを描くに当つて一層の熱を帯びて来る。このプラトンはピエールが逮捕されてフランス軍と共に行く所で出て来るだけだが，トルストイが企図したのかも知れぬテーマ，つまりロシア人民の力というものの根源がこの一農夫の姿の中に象徴されていると思われる。元来ピエールは終極的な心の平安を求めて様々の思想的遍歴をした。或る時は秘密共済組合（マソン）に加入してその教義を守つて自分の心の調和を求めたそれから英雄的行為――変装してナポレオンを暗殺しようという――に求めたこともあつたが，捕虜となつている時一緒に捕えられた兵士のプラトンの言行を見て深い印象を与えられるのである。危く銃殺を免れたピエールがこの男に慰められると不思議に心が落着き，彼の素朴な話を聞いていると従来彼の心を占めていた様々のむづかしい思想が皆消えてしまう。プラトンは年は50を過ぎ，健康で白い丈夫な歯を持ち1本の白毛もなく若々しい表情をしている。声も気持ちのよい歌うような調子を帯びている。彼の話しは直覚的でてきぱきし，言うことを考えたことがないのにその正確で早口の語調には特別な否み難い説伏力がある。彼は寝ると直ぐ眠り，目が覚めると直ぐ活動する。余り上手ではないが何でもできる。パンも焼けば煮物もする。縫い物もすればカンナもかける。夜は話をしたり上手に歌も歌う。という風でピエールにとつては素朴真実の精神の円満な永遠の人格化として永久の印象となつて残つた。後年平和な家庭が作られ家族に戦争の話をするとき，一番尊敬をこめて話されるのが，この平凡な農夫のプラトン・カラターエフであつた。つまり「戦争と平和」という小説はロシアにとつて未曽有の困難を押し返した力が，アレクサンドル一世でもクトウゾフ将軍でもなく無数のロシア人民の力であることを語つているわけだが，その象徴としてこの大作も終りに近くなつてから一農夫の姿の中に人格化したものであろう。後年トルストイは「芸術とは何か」を発表して西欧的既成芸術――シエクスピアもベートベンも――全く否定して，素朴な民衆の作り出す様々の民衆芸術の中に真の芸術はある，といつているが，そのきざしは既にこの壮年時代の大作の中にあつたわけである。

この大作を短い文章の中に言い盡くすことは到底できない。戦争場面の生き生きとした描写，英雄ナポレオンの見えるような描写，ピエールの思想的な悩み，その他多くの将校や兵士の生態，貴族達の社交界のけんらんたる描写，モスクワ炎上のすさまじい有様等，語りたいことはたくさんあるが，これを使える努力も紙面も我がものではない。よろしく原作について味わうべきで，読む者のみが与えられる至福の権利ということができよう。読書というものは厄介だが他にかけがえのない楽しみを与えてくれるものである。（総務部）



短歌



扇畑忠雄選

山荘の夕　宮支　境野　恭

夕ぐれのサイレンきこゆる山荘に鳥々見下すベランダに佇ちて
海岸に沿いし家々灯ともりて吾が山荘に迫り来る夜気
沖の島沖の岬の昏れゆくに山荘に近く夕茜さす
雨雲の低く垂れたる松島の海辺の宿は既に灯ともす
昏れそめし宿の廊下にかがみ見つすでに実となりし宮城野の萩

守る柩　本店　高田　修

死に近き父の背中をさすりつつもや深き明けを耳もとに告ぐ
はらからの呼び合う中に我が抱ける父は静に脈たえにけり
こもごもに父の柩の釘をうつ静かに母も二つ叩きぬ
父を焼く煙は真夏の中空にゆるく流れて陽をさえぎりぬ
焼場より帰る車に吾の抱く父の骨壺まだあたたかく

夕映え　山郷発　薄　小枝子

丘高き夕映の道歩みゆく二人みゆバントマイムの如く
傷められ河原のぐみの白き葉裏冬近き雲なだれてくらし
とどろきて芥を流すダムの波対いいて激しきものを秘めもつ
石の間の河原柳を愛しみぬかすかに汚れし絮飛ばし居む

砂洲　本店　瀋藤久治郎

流灯のゆらげる影に吠えたてて堤の草を小犬駈けゆく
代ケ崎の入江のはてに行き向う白き漁船の遠き笛鳴り
夕近き秋の陽ざしに病廊の埃はてりて白くただよう
孤独なるマルテの手記を想いつつ霧降る夕べ砂洲に降り来ぬ

湖のはて　会電事　西岡　孝

しわしわと日向にゆらぐ木犀の影見つめつつ人待ちており
波荒き浜ひた走る夜の汽車の窓打つ雨は音こまかにて
藁塚に温み残して大いなる西日は湖の果てに沈まん

送電線　岩支　道又　成雄

網棚のポータブルラジオよりシューベルトのセレナーデきこゆ夜の列車に

紅葉せる山を一筋に送電線ありて夕陽に白くかがよう
木枯に吹き落つる木の葉残りなし幹を伝いて降る今日の雨

孤独　平営　志賀　一美

この真夜を目覚めいしとき壁掛の時計鳴るなり君の恋しく
郷愁に似たる思いにシグナルの青く照らせる鉄路見ている
ネオンの灯息づくごとき雑沓に吾あり孤独感をまぎらす

ともしび　岩支　及川　楽雲

活けられて幾日経にけん枯るる菊ともしび遠きくらがりの中
前衛の活け花展と銘打てり暗き会場昼を灯して
桜落葉降るはうつくし夜となりてともし火とどくせまき中庭

残業　平営　瀬戸　一樹

さがりたる人形ゆるるバスの窓残業の疲れ癒ゆるひととき
残業を終りし吾に青白き月あり小さき影落しつつ

選評　扇畑忠雄

沖の島沖の岬の昏れゆくに山荘に近く夕茜さす　境野　恭

叙景歌としてすぐれた作。ことに上句の「沖の島沖の岬の昏れゆくに」は海上の夕ぐれを具体的にとらえて単純に表現している。この一連はどの作もととのって手固い。久しぶりに短歌にカムバックして衰えない力量を示された。

父を焼く煙は真夏の中空にゆるく流れて陽をさえぎりぬ　高田　修

一連、父の死をいたんだ哀傷吟である。境地にまけないでこの一連を作りえた作歌力は尊敬すべきだが、もう一歩の沈潜がのぞみたかった。この作では、煙がゆるく流れて「陽をさえぎりぬ」という所に感動がある。

傷められ河原のぐみの白き葉裏冬近き雲なだれてくらし　薄　小枝子

一つの風景を心象的にうたったもので、その詩情には心ひかれるが、ぐみの葉裏とくらい雲との

（64頁へ）

宿命　平営　駒塚　破句

「忠礦院居士」となりたる亡骸を礦夫等集い夜をまもり居り
礦夫等の代表という人出でてただどと読む弔辞に泣けり
炭礦に生くる宿命その妻はもろき涙を人には見せず

垂氷　一関営　大山　篤

時雨降る夜のぬかるみを勤め終え急ぐともせずつかれあらわに
真夜中に目ざめし我に宿直の窓にかげして軒つらら見ゆ

釜石にて　一関営　小川　博

ほのぼのと遠き思い出返りつつ古き故郷の山路越え行く
台風のすさべる沖に見つめいる浜の女等のものうげな面

斜光の中　一関営　阿部　百夢

ひとときのしじまを裂きてダイナマイトの音ひびきたり斜光の中に

高田営　魚島吐月

秋惜しみつゝ山門を上りたる

高田営　後藤白峯

夜なべの手離さず妻の座睡かな

高田営　田近慶

母らしく妻らしく座しゐる夜なべ

高田営　渡辺雪峯

雑然と乱る中の障子貼り

高田営　丸山由里

山腹にある秋灯の燦めける

高田営　上村冗村

豆を打つ老婆の背に桐一葉

長岡営　山村悦子

休日を朝顔の実にかかはれる

長岡営　梶山昇一

赤い羽根がつれ立つて来る作品展

長岡営　高野清竿子

外勤を終えて事務所の暖かく

選後に

遠藤梧逸

投句者も大体落着いて来たと思はれるので、今度から句の向上をはかる意味もあつて、選を少し厳しくして見た。従つて、一句入選の方にも捨てがたい句が多くなつた。例の如く十句について短い鑑賞を試みる。

毬栗を剝く子賢治の碑の前に　佐藤棘矢

句としては温和しすぎると思はれるほど穏かな句であるが、それでゐて、宮沢賢治の碑の立つてゐる北上河畔の低い丘の情景も、有名な「雨ニモマケズ」の詩をその碑にのこしてゐる岩手の生んだ聖詩人宮沢賢治の人となりも、よく詠ひ出されてゐると思ふ。

うつむくが妻の抵抗鵐猛る　村山春灯

ある秋日和にめぐまれた日曜の朝十時頃。子供達は天気がよいので表に遊びに出たあと、居間の火鉢に差向ひに座つた夫婦の間に、何か意見の衝突が起つた。別に威圧するつもりではないが夫の声がつい高くなる。すると今まで負けてゐなかつた妻が急に黙つて、下をむいて返事もしなくなつた。勿論夫の考に承服したのではなく、大きな声を出されるのが、近所の手前いやなのである。—と明るい障子の外で、きりきりと鵐が鳴く声がして来た。そしてそれをきくと、二人とも救はれたように障子の方に眼をむけたのである。

草虱払ひて山羊を売りにゆく　竹内まんじ

日本中には山羊が八十万頭ゐると、此間朝の放送できいた。そういへば、此頃汽車の沿道にも随分と山羊を見かけるようになつた。自然山羊の売買といふようなことも多くなつたであろう。これから売りに行く山羊が草虱をつけてゐるといふのは、いかにもあはれが深い。山羊といふものも、飼主の中年の百姓の姿も「草虱」によつて生き生きと描き出されてゐる。

千円と百円と替ふ鰯雲

街のある一軒の店先では、店の主婦が、社宅の奥さんから千円札一枚をうけとり、かはりに百円札十枚を手渡してゐる。主婦と夫人とは別々のことを心に画き乍ら互に笑顔をかはしてゐる。そしてその街の上には高く高く鰯雲がかつてゐ。一誦、自然の偉大と、人のいとなみの小さ、はかなさを思はせる。

芭蕉俳句の契機は、悠久不変の大自然と、それに抵抗して蟷螂の斧を振りあげる人間への愛憐にあると井本農一氏はいふ。此の句から芭蕉の嘆息をきくのは、私一人ではあるまい。

病みしこと一年前や秋袷　関よし

朝晩涼しくなつたので、箪笥から袷を出した。そしてそれを拡げながら、恰度去年の今頃は病床で過したのだつたと思ふ。句のもつ、しつとりとした重さも、袷、殊に秋袷のもつ重さに通ふものを感ずる。

掛稲の母子無口で無表情　石井ミヨシ

農婦母子の懸命な手元が見えるようである。何か女性のもつ体力的なかなしさが感じられる。早

く仕事が終つて、電灯の明るい炉端にこの母子を帰したいものである。

初霰防空壕微動せず　福士野生

稚拙な句といはねばならない。しかし、はらはらと降つて来た霰と、四角な口をあいてゐる防空壕といふものの応酬から、豁然とした天地の響を耳にするのである。それは、霰、しかも初霰のみが啓示しうるものであろう。

参道も鰯の干場秋日濃く　佐々木おさむ

鰯の季節で、浜は勿論、町の通や、空地にも、魚肥にする鰯が一面に干されてゐる。浜とは反対にある明神様の参道にも、それが一面干し拡げられて、その薫に秋日が焦がすように降り注いでゐる。鰯浜の壮な様がよく描き出されてゐる。

柿送り裸電灯明るくて

身知らず柿の出盛る頃の会津風景である。東京その他四方からの注文を受け、恰度季節になつた柿をもいで、それを箱詰にして送るのは限られた日時に於てしなければならない。その頃になると、店も奥も一つにして、粒選りのつやゝかな柿の山を、丈夫な木の箱にきちんと詰めて、それに焼酎を吹きかけて蓋をする。蓋をした箱には縄をかけて、明日発送が出来るように順序よく積みかさねる。そういふ作業を夜おそくまでつゞけるのである。そしてその作業する人々の上には、裸電灯が明るく灯つてゐる。「柿送り」といふのは、いろいろ解釈のしようがあると思ふが、私はそういふ作業と解してゐる。

母らしく妻らしく座しゐる夜なべ　田辺慶

子供はねて了い、母と妻とが、冬の仕度の夜なべをしてゐる。ただ二人対ひあつてゐるのだけれども、母のゐるところは、母の座で、妻のゐるところは妻の座としてきまつてゐるように落ついてゐる。不思議なものである。

というのは寂しい感じだが、結句の「君の恋しく」は、事実そうであつただろうが、表現上唐突な感じがする。

桜落葉降るはうつくし夜となりてともしびとどくせまき中庭　及川楽雲

「ともしび」というのは、昭年三二年新春の御題であるが、題詠意識で作歌するのは、どうもこしらえものになりやすい。この一首は、そうした意識があつてかどうか分からないが、夜の灯にてらされて桜落葉の降つて来る所はおもしろい。ただ「うつくし」はことわりすぎており、しかも平凡すぎるだろう。

（62頁より）

イメージが渾然と一つに融合していないのは惜しい。ことばも少し勝ちすぎている。しかし一連にみられるみずみずしさを尊重したい。

孤独なるマルテの手記を想いつつ霧降る夕べ砂洲に降り来ぬ　斎藤久治郎

霧のふる夕べの砂洲は、いい歌境である。上句の「想いつつ」は、まだ作者自分の感じだけにとどまつていて、読者への納得性が乏しい。初句の「孤独なる」も説明的だ。一連の作、新鮮であるが、全体的には気分先行のあまさがあるようだ。

しわしわと日向にゆらぐ木犀の影見つめつつ人待ちてをり　西岡孝

「日向にゆらぐ木犀の影」はよい着眼である。ただ「見つめつつ」は動作がわざとらしくなるようだし、「しわしわと」もことばとして通俗的に感じられる。

木枯に吹き落つる木の葉残りなく幹を伝いて降る今日の雨　道又成雄

上句は説明的で、少しはつきりしない所があるが、残りなく吹き落ちているというのか、吹き落ちてしまつて残る葉がないというのか。下句は、冬の雨をよく表現している。

この真夜を目覚めいしとき壁掛の時計鳴るなり君の恋しく　志賀一美

夜半の目ざめに、ふと柱時計の鳴る音をきいた

会事電　加藤つとむ

灯下親し黙つて座して居ることも
我が身より湧ける如くに霧流る
落葉掃く使丁の頭丸坊主

会電事　加藤光子

愛知りて梳ること秋桜
千円と百円と替ふ鰯雲
コスモスや勤めに倦まず粧はず

会電事　村田渓水

穴居趾の下は温泉の町竹の秋
秋祭り風船逃げて皆笑ふ
群れ咲くがさだめならずや曼珠沙華

新　支　高木桐舎

皆同じ丹前を着て夜長かな
曼珠沙華開ききつたる二本かな
寝る刻といふに夜食の膳につき

柏崎営　柴野村童

親子してそれぞれ読書秋灯し
石段の落葉丹念に掃く尼僧
霜毎に青さもつもの枯るゝもの

小出営　関　よし

病みし事一年前や秋袷
経を読む勤の外に落葉掃き
洗張り秋日を頼り過ぎにけり

青　支　小山内凍蝶

この冬も妻は黙々冬仕度
案山子点々医者のバイクは新しく

青　支　佐藤茗黙

経過良好柿の赤きを買ひ求む
小猫来て綿屑弄ぶ冬仕度

会電事　西岡孝

稲架の道城趾をめぐり町に入る
干大根ミシン踏む窓一ぱいに

会電事　玉木耕子

コスモスに柵設け居る山の駅
学校の玻璃戸きらめき秋桜

会事　小川和人

秋桜童女と汽車の友となる
秋深く真紅なるものに郵便車

新　支　大橋喬村

人の来て止り直せる赤蜻蛉
栗まんぢゆう丹前のまゝ並び買う

新　支　渋谷よしい

母に逢ふ日を楽しみに毛糸編む
一行の堰堤に立つ秋出水
すでに癌宿せる母や秋深し

平　営　松本比砂子

秋風に吹かれて軽き蛇の殻
爽やかに樹々の蔭より子の瞳

平　営　白浜舞子

短日の露路の屋台の灯りたり
秋の灯の早やともりたる鍬洗ふ

会電事　西岡孝

稲架の道城趾をめぐり町に入る
干大根ミシン踏む窓一ぱいに

会電事　玉木耕子

コスモスに柵設け居る山の駅
学校の玻璃戸きらめき秋桜

会事　小川和人

秋桜童女と汽車の友となる
秋深く真紅なるものに郵便車

新　支　大橋喬村

人の来て止り直せる赤蜻蛉
栗まんぢゆう丹前のまゝ並び買う

新　支　渋谷よしい

母に逢ふ日を楽しみに毛糸編む
一行の堰堤に立つ秋出水

新潟営　石井ミヨシ

つりぼりに客一人来し秋の雨
掛稲の母子無口で無表情

高田営　二宮清水

秋の夜や毛糸捲く手を妻に貸し
秋灯や身ほとりに来て蝿二つ

高田営　八木清女

秋深み夜ごと冷たき膝がしら
台風の去りし残暑の貸ボート

長岡営　関川疎雨

唐松の落葉を踏めるさびしさよ
秋風や砂丘につゞく靴のあと

青　支　福士野生

初霰防空壕微動せず

青　支　敦賀晴川

菊日和避番看護婦私服着て

田名部営　二本柳正

灯の隈に真夜のこほろぎ応ひ合ふ

青　支　佐々木おさむ

参道も鰯の干場秋日和

青　支　千葉鬼仏

とろゝ擂る音とぎゆんぎゆん稲扱く音と
青　支　徳本芝静

コバルトの縞波あざやか秋の海

青　支　山内柑滋

「オセロ」見て怖るゝ心冷き夜

青　支　高橋匡敏

山は雪靴磨きの女顔やつれ

青　支　遠藤ふさし

妻の腕冷やゝかに触れて秋の海

青　支　昆　ひろし

十和田の紅葉終る
暮紅葉大滝なほも岩を打つ

黒沢尻電　浅田哲伸

秋刀魚焼く厨に狭く打をとも

一関営　大山清雲

萱刈の舟かへしくる星月夜

一関営　阿部百夢

露霜や残りし柿の日をうけて

一迫営　曽根巌

炉を囲み歌ふ民謡夜の秋

福島営　松崎美智子

月の稲架影を連ねて径に沿ひ
白河営　野崎豊吉

亡き父にありし素朴や栗の花

平　営　瀬戸一樹

かな〳〵のなゝめ降る道杉の中

平　営　岩松長春

秋燈下妻すこやかに産着縫ふ

平　営　鯨岡樵夫

稲刈の街道を行く宣伝車

会電事　山内嘉子

人と犬離れつ寄りつ草紅葉

会電事　長沢敏意

芒野に細き川あり小径あり

会電事　小沢平左工門

柿送り裸電球明るくて

新潟営　石田文子

物干の下葉鶏頭二三本

長岡営　星野保雄

月天心瀬の音高き橋渡る

高田営　滝沢文

今年より母に代りて障子貼る

募集写真

（入　選）

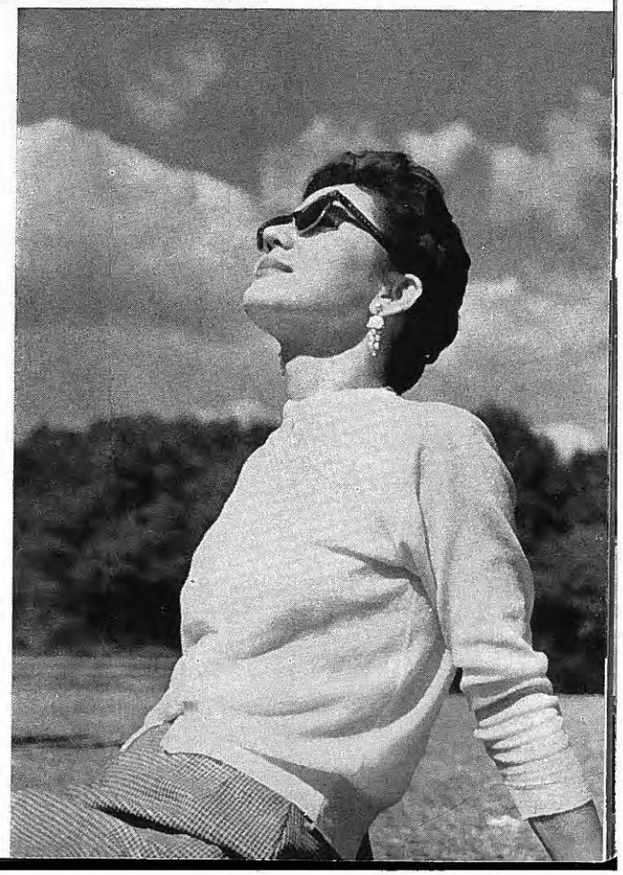
阿部秀陽選



↑ **ポートレート**　　平営　丹野　厚

モデル写真として上の部秋の気分が出ている。**良**

マミヤシツクス　F8　1/100



→

モデル嬢　　盛岡営　木村光一

モデルのポーズを写すのではなく，自分でモデルをマスターして初めて作品となる。**可**

アイレス　F5.6　1/100

俳句



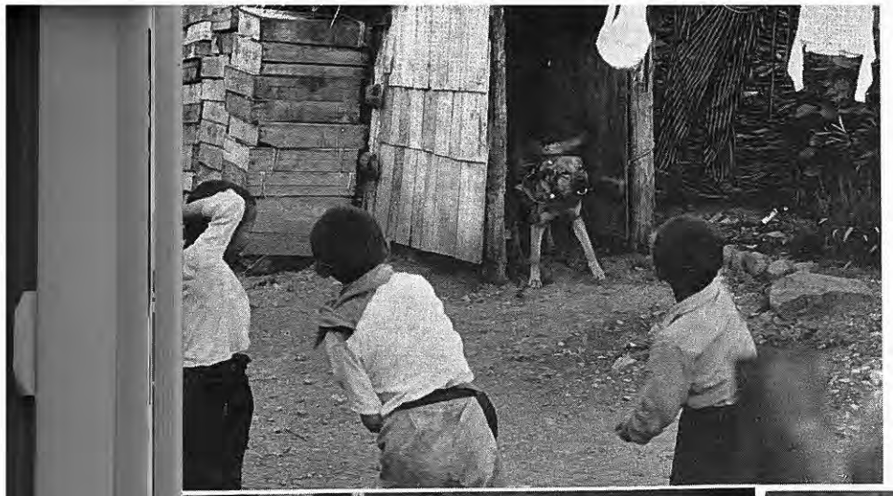
遠藤梧逸選

女手の一人で稲架を組んでをり　　平営　小松里草
神の留守まもりたまへる一樹かな　　焚きつかぬストーブに蝿の動かざる　一関営　千葉艸坪子
神木として一樹あり堂の秋　　開拓に老い松落葉掻きたむる
前の家もうしろの家も菊日和　　人夫らの身分けのつかぬ頓冠り
柏崎営　村山春灯　　一望の枯山となり室根山
毛糸編む子等寝ねたれば灯を近く　　古川営　久保乙秋
鉄とかす巨き火を守り大野分　　土湯峠にて
霜柱踏むとは別に靴が鳴る　　夕紅葉遠のひかりとなり消ゆる
うつむくが妻の抵抗鵙猛る　　枯色を見るばかりなり地獄の湯
柏崎営　小関政英　　薄紅葉崖に降りくる霧すさび
荒れ続く海を真近に大根干す　　白石営　森　外志夫
守衛所に届けられていて時雨傘　　赤き袴の巫子渡り行く菊の縁
貌上げて墓枯草の中にあり　　団栗の跳び来る庭に薪を割る
墓碑みんな貌上ぐ万目枯るゝ中　　菊一輪送別の辞の続きけり
岩　支　及川有哉　　会電事　竹内まんじ
靴に踏む落葉に朝の湿りあり　　草乱払いて山羊を売りに行く
身に入むや五臓残らず病あり　　貧と富へだつる稲架の幾重にも
病院で冬越す話紅葉敢る　　昼寝する土工のそばに焚火燃ゆ
岩　支　高松邦　　会電事　滝田枯木
蜻蛉の果てし蒼穹虚（うつろ）なる　　山小屋に襯衣が干され夕紅葉
鮎川の鮭川となり瀬の荒るゝ　　世の嘘を知りぬ齢や柳散る
山際の月の明るき夷講　　銀白の腹輝ける夜の秋刀魚
岩　支　佐藤棘矢
錆鮎の精悍の貌なほ残す
毬栗を剝く子賢治の碑の前に
岩風呂の足にふれたる木の実かな
霜柱くづし金色堂を訪ふ
桑落葉泉式部の墓に降る
宮　支　境野青葉
山際の枯れ蓮田より昏れそむる
干物がみなよく乾き秋薔薇
アセチレン瓦斯なつかしき夷講
山際の月の明るき夷講

応募写真

（選　外）

阿部秀陽選



石を投げる子　梵字川発　斎藤鉄雄

なかなかユーモアな作品，子供の表情が見えるとよかつた。**可**

キヤノン 28　F4　1/125



ポートレート　東京事　河田和男

しつかりしたテクニツクではあるが，モデルを撮つたと云うだけでは作品とはならない。**可**

マミヤシツクス　F8　1/100



時　雨　鶴岡営　菅原世吉

生活が写され気分も出ている。かがんだ人物のポーズが悪い。**可**

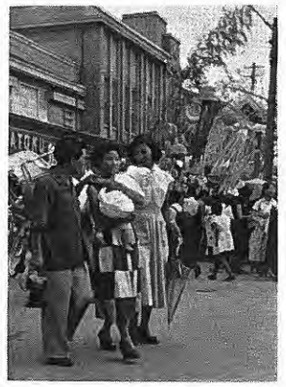
エルモレフ　F3.5　1/50



女　学　生　梵字川発　斎藤鉄雄

閉散な会場風景，もつとカメラを上から床の水まきの模様を強調すると面白かつた。**可**

キヤノン 28　F4　1/60



七夕の頃

大船渡変　水原督夫

なにを目的として写しているかわからない。

オリンパス　FS　1/100



モデル嬢

盛岡営　木村光一

きれいな写真であるが，余りにもモデル嬢らしいポーズである。

アイレス　F5.6　1/100



学童に説明する僧

大船渡変　水原督夫

いゝ表情をつかんでいる。硬調の印画紙でバツクを黒くおとすとずつとよくなる。

オリンパス　F4　1/50



チヤグチヤグ馬コ

大船渡変　水原督夫

背景を考え雰囲気を画に盛込む事。

オリンパス　F11　1/200



ポートレート

平営　丹野　厚

無難な写真。

マミヤフレツクス　F8　1/100



さんまラツシユ

石巻営　鈴木徳郎

ピントが鮮鋭だとよかつた。

ニツカニツコール　F11　1/200



思　惑

石巻営　鈴木徳郎

余りにもピントがぼけている。

ニツカニツコール　F5.6　1/50



朝

鶴岡営　菅原世吉

朝の感じは出ているが，横をむいた人物のポーズが気分をこわしている。

エルモフレツクス　F4　1/100



無　題

新津営　石川きよ子

無理な条件で調子が悪い。

コニカ　F4　1/50

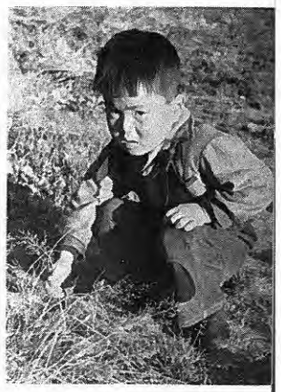


仲　良　し

電気部　及川松夫

猫と子供だけで，もつとかわいゝポーズをあつかつたなら作品になつたろう。

コニカ　F5.6　1/250



仲間はづれの子

電気部　及川松夫

仲間はづれにされた説明が不足で，題目を見ないと無理に子供をとつた様な感じである。

コニカ　F4　1/250



とり入れ

温海変
小笠原徳哉

もつと土地を入れ，硬調に作る事。

ミノルタA2　FS　1/50



菜洗い

高田営
関沢民治

横上方から撮るともつと面白い写真になつた。

ペール　F5.6　1/100



波紋

高田営
関沢民治

光のハレーションが，かえつてこの画をきたなくしている。

ペール　F8　1/25



立話し

青森支
工藤国夫

一番大切なピントがボケている。もつと接写すべきである。

アルコ　F22　1/50



とり入れ

槙ノ代発
五十嵐豊作

機械に布がかゝつている為，働いている手先が見えない。この様な場合は人物を大きく入れ人物に集点を合せるべきである。

ミノルタA2　FS　1/50

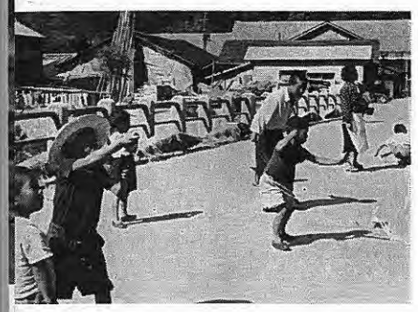


金魚すくい

盛岡変
川村勲男

人物が多過ぎて内容が弱まる。

マミヤシツクス　FS　1/100



凧をあける子供達

温海変
小笠原徳哉

子供達がばらばらとなり画にまとまりがない。

ミノルタA2　FS　1/100



とり入れ

槙ノ代発
五十嵐豊作

農婦を主として立位置にして農村の生活を強調すると立派な作品となつた。

ミノルタA2　FS　1/50

発・変電所の皆さんへ

発変電所に勤務するカメラ愛好者の皆さん，皆さんの勤務する発変電所の写真は社内外ＰＲには必要缺くべからざるものであります。是非全景及び主要機器の写真を御送附下さるようお願いいたします。大きさは手札以上で，裏面に勤務ケ所及び氏名並びに写真説明を記入して下さい。（編集室）

社誌原稿募集

次号33号の原稿を募集します。

応募の方は，各部，支店編集委員まで御送附下さい。（締切１月15日）

業務報告・論文等		8,000字まで
創作・随筆等		6,000字まで
短歌	（扇畑忠雄選）	１人５首
俳句	（遠藤梧逸選）	１人５首
詩	（扇畑忠雄選）	１人２枚
写真	（阿部秀陽選）	キヤビネ１人２枚

☆なお，応募原稿は特別の場合を除き，掲載，非掲載に拘らず返却いたしません。

研究季報第８号原稿募集

業務に関係ある研究論文・創意工夫・実験報告等を募集します。

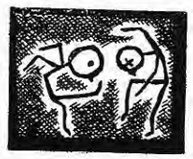
原稿枚数　１篇に付30枚以内（400字詰）

原稿締切　昭和32年２月15日

発行日　昭和32年５月１日

投稿先　社長室企画課内研究季報編集係





本店社誌編集委員

社長室	三浦	英三	
総務部	江川		泰
労務部	永井	公一	
経理部	東	正男	
資材部	二瓶	喜雄	
営業部	横山	文夫	
給電部	村山		浩
電気部	三瓶	久利	
土木部	江口	栄蔵	
水力建設部	山屋	正雄	
火力建設部	加々見	房夫	

社誌編集幹事

鈴木	秀俊
高橋	勇治
斎藤	武義
菅	雄吉

支店社誌編集委員

青森支店	山形	陽一
岩手〃	中村	盛治
秋田〃	太平	隆良
宮城〃	満田	紀崇
山形〃	真田	昌夫
福島〃	浜島	茂孝
新潟〃	高木	郎
会津電力事務所	西岡	仁
東京事務所	連山	健次
電気試験所	古山	

あとがき

この度の増資によつて当社は資本金100億の会社となつた。資本金100億の会社は全国でも十指に足りない。正に大資本である。このぼう大な資本力を基にして火力に水力に全力を挙げて東北の開発に努力している。名実共に全国有数の会社という訳である。

八戸地点は日夜クレーンが鳴り響き，潜函工事が進められ，完成の暁の偉容がしのばれるものがあり，八久和(第２期)，新鳴子両地点もパツチヤープラントの音が山々の真ツ白い雪肌をふるわしている。街々に師走のあわたゞしさが感じられるが，現場の御苦労が思いやられることである。このような時，新しい年を迎えるわれわれも，新たな心構えが必要ではなかろうか。切に御自愛の程を。

（Ｓ）



昭和31年12月10日発行
（隔月発行）

発行所　仙台市大町五丁目197
東北電力株式会社
発行者　鈴木秀俊
印刷所　今野印刷所